平成２５年度 文部科学省委託事業
成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業

獣医療体制分野における中核的専門人材養成としての動物看護師及びペット産業マネージャー養成プログラム開発事業

（職域プロジェクト）

実 績 報 告 書

平成２６年３月

学校法人 シモゾノ学園
国 際 動 物 専 門 学 校

平成２５年度文部科学省委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」

獣医療体制分野における中核的専門人材養成としての動物看護師及びペット産業マネージャー養成プログラム開発事業

実　績　報　告　書

目　　次

第１編　事業計画および事業実施内容　1

1.　事業概要　3
2.　事業実施背景　4
3.　事業実施内容　5
3.1.　職域プロジェクトの構成員・構成機関等　5
3.2.　事業の実施体制　7
3.3.　事業実施スケジュール概要　7
3.4.　調査・視察＜動物・ペット産業のマネージャー養成分科会＞　8
3.5.　カリキュラムの開発＜動物看護師コアカリキュラム検証分科会＞　8
3.6.　実証講座＜動物看護師コアカリキュラム検証分科会＞　9
3.7.　評価についての考え方　9
4.　事業の成果　11
4.1.　調査・視察について＜動物・ペット産業のマネージャー養成分科会＞　11
4.2.　カリキュラムの開発について＜動物看護師コアカリキュラム検証分科会＞　13
4.3.　実証講座について＜動物看護師コアカリキュラム検証分科会＞　14
4.4.　開発したカリキュラムの評価について　16
5.　事業終了後の成果活用について　17
6.　今後の課題について　17

第２編　事業実施記録　19

1.　調査・視察について＜動物・ペット産業のマネージャー養成分科会＞　21
1.1.　調査・視察の目的　21
1.2.　調査・視察報告（記録）　22
1.3.　マネージャー養成プログラムの検討（試案）　54
1.4.　動物・ペット産業のマネージャー養成分科会実施記録　58

2.　カリキュラムの開発について＜動物看護師コアカリキュラム検証分科会＞　60
2.1.　到達目標となる人材像　60
2.2.　科目別の目的　61
2.3.　コマシラバスの作成　61

2.4. 授業シートの作成について 70
2.5. 授業カルテの作成について 79

3. 実証講座の実施および評価について＜動物看護師コアカリキュラム検証分科会＞ 96
3.1. 実証講座の実施スケジュール 96
3.2. 実証講座の実施記録 99
3.3. 受講者アンケート結果 102
3.4. 目的達成度の評価についての考え方 134
3.5. 目的に対するカリキュラムの評価 137

第３編　テキストおよび資料（別冊）

1. 臨床動物看護学
2. クライアントエジュケーション

第1編　事業計画および事業実施内容

1.　事業概要

2.　事業実施背景

3.　事業実施内容

3.1.　職域プロジェクトの構成員・構成機関等

3.2.　事業の実施体制

3.3.　事業実施スケジュール概要

3.4.　調査・視察

3.5.　カリキュラムの開発

3.6.　実証講座

3.7.　評価についての考え方

4.　事業の成果

4.1.　調査・視察について＜動物・ペット産業のマネージャー養成分科会＞

4.2.　カリキュラムの開発について＜動物看護師コアカリキュラム検証分科会＞

4.3.　実証講座について＜動物看護師コアカリキュラム検証分科会＞

4.4.　開発したカリキュラムの評価について

5.　事業終了後の成果活用について

6.　今後の課題について

第一編　事業計画および事業実施内容

1.　事業概要

獣医療体制分野の職域プロジェクトとして、動物看護を含むペット産業分野における中核的専門人材の養成について検討し、実証講座を行う。本事業では、日本獣医師会小動物臨床部会が中心となってこれまで取組みを進めてきた「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」の検証を主軸に、チーム動物医療に対応できる動物看護師（中核的専門人材）の養成に取り組む。また、近年の家庭動物の飼育意識の向上（家族化）に伴い、多様化してきた顧客ニーズに応えられる人材を養成するために、社会人の学び直しの場を提供できるよう、新たな教育カリキュラムの開発にも取り組む。

日本獣医師会小動物臨床部会では動物看護職制度在り方検討委員会を経て複数の民間資格による動物看護師の認定に終止符を打ち動物看護師の資格制度化の第一歩として 2013 年 2 月および 3 月に統一認定試験が行われるに至った。また、養成課程の平準化はチーム動物医療に対応できる動物看護師のレベルを目指すべく高位平準化とし、現行 1,600 時間カリキュラムを改正し 60 単位（1,920 時間）のコアカリキュラムが作成され、2014 年度より教育機関に正式導入されることとなった。

本事業では、コンソーシアムの学習ユニット開発 WG と連携し、当該 WG が作成するコアカリキュラムの履修科目編成（能力レベルに応じた科目ユニット化）並びにシラバス・コマシラバスに基づき、授業シートや授業カルテなどの評価指標を作成し、質を担保することを目指す。コアカリキュラムの本格的導入を目前に控えている中で、これまで作成してきたコアカリキュラムを実証講座により検証し、産業（動物医療）のニーズに適した人材養成の仕組みを構築する。

特に、動物飼育者の動物医療への期待を満たす上で新たに動物看護倫理・動物看護課程・終末期看護を加えた新しい「動物看護学」に伴った症状別動物看護を学ぶ「臨床動物看護学（３０時間の内１５時間実施）と、顧客である患者動物家族（飼育者）の満足の追求として良質の接遇を提供するために必要となるコミュニケーション力及び動物医療現場の中核的人材としてのマネジメント力を身につけさせる「クライアントエジュケーション（30 時間）」については、本事業にご協力いただく複数の専門学校での実証講座による検証を予定している。同時に、現職（現動物看護師）に対しての再教育（リカレント）も必至であるため、動物病院や産業界、大学、専門学校等、産学が連携して教育の体系化を図る。

また、2014 年度より導入する高位平準化コアカリキュラムの教育を担当する教師の育成や現教師の再教育も重要であるため、専門学校と大学で連携し、教師育成プログラム（18 時間）の開発を図る。

2. 事業実施背景

ペット産業の市場規模は、『ペットビジネスハンドブック』（産経新聞メディックス）の 2011 年版によれば、ペットフードが 4,713 億円、ペット用品が 1,812 億円、関連業界（病院・トリマー・ペットホテル・葬祭など）が 5,620 億円となり、合計で 1 兆 2,145 億円に上る。ペット産業を取り巻く環境は、東日本大震災の影響や長期化する国内景気の低迷で、飼育意欲にやや陰りが見え、厳しい事業環境となっている。一方、ペットの飼育環境が向上したことによりペットの高齢化が進行しており、それに伴って保険や介護用品、葬儀などの関連市場は拡大している。

動物看護師の主な就労の場は動物病院であるが、こうした事情を背景とし、単なる診療・治療施設から多角的なサービスを提供する総合サービス施設として変わりつつあり、その中にあって求められるサービスの内容も多様な広がりを持つようになった。こうしたニーズの変化に対応する取組みとして、日本獣医師会小動物臨床部会が中心となって進めてきた統一資格としての動物看護師の創設がある。「動物看護師高位平準化コアカリキュラム」に基づく教育により、動物看護師のスキル・能力を高めるとともに、中核的専門人材として顧客満足度を高める有意な人材を養成することを目指している。

本事業では、「動物看護師高位平準化コアカリキュラム」の検証を行うとともに、今後重要なサービスとなりうるグルーミングやしつけ等のサービスやアンチエイジングケアサービスについての調査・研究を実施することとしている。学生のみならず、既に動物病院等の現場で活躍している社会人に対しても再教育の場として訴求することを目指しているものであり、その意義は大きいと考えている。

これまで動物看護師に相当する民間資格が複数存在し、それぞれの資格で認定される能力・要件が異なっていたため、業界内での評価を高めることができず、結果として動物看護師という仕事に対するモチベーションの低下につながってしまっていた。動物看護師の資格を統一化することにより、こうした状況を打破し、中核的専門人材としての役割を明確化することができると考えられる。本事業に参加していただく方々は、動物看護師高位平準化コアカリキュラムを作成してきた中核メンバーであり、こうしたメンバーにより、コアカリキュラムの実証講座を行うことは、獣医療体制の高度化を図る上で意義深い。

3. 事業実施内容

3.1. 職域プロジェクトの構成員・構成機関等

（1）構成機関（機関として本事業に参画する学校・企業・団体等）

構成機関(学校･団体･機関等)の名称		役割等	都道府県名
1	学校法人 シモゾノ学園 国際動物専門学校	総括	東京
2	学校法人 宮崎学園 大阪ペピイ動物看護専門学校	プログラム･カリキュラム開発、実証実験	大阪
3	公益社団法人 日本獣医師会	プログラム･カリキュラム開発、実証実験	東京
4	一般社団法人 日本動物看護職協会	プログラム･カリキュラム開発、実証実験	東京
5	公益社団法人 日本動物病院福祉協会	プログラム･カリキュラム開発、実証実験	東京
6	NPO法人 動物愛護社会化推進協会	プログラム･カリキュラム開発、実証実験	大阪
7	株式会社 ファームプレス	プログラム･カリキュラム開発、実証実験	東京
8	一般社団法人 日本小動物獣医師会	調査･研究	東京
9	学校法人 有坂中央学園	調査･研究	群馬
10	学校法人 中央総合学園 高崎ペットワールド専門学校	調査･研究	群馬
11	学校法人 中央工学校 中央動物専門学校	調査･研究	東京
12	学校法人 宮崎総合学院 宮崎ペットワールド専門学校	調査･研究	宮崎
13	学校法人 坪内学園 専門学校松江総合ビジネスカレッジ	調査･研究	東京
14	学校法人 爽青会 専門学校ルネサンス･ペット･アカデミー	調査･研究	静岡
15	株式会社 インターズー	調査･研究	東京
16	東京理器株式会社	調査･研究	東京
17	株式会社緑書房	調査･研究	東京
18	学校法人 中村学園 専門学校ちば愛犬動物フラワー学園	調査･研究	千葉
19	学校法人 シモゾノ学園 学園本部	事務局	東京

（2）協力者等（委員など個人で本事業に参画する者等）

氏名	所属･職名	役割等	都道府県名
新井 敏郎	日本獣医生命科学大学獣医学部 獣医学部長	調査研究	東京
太田 光明	麻布大学 教授/動物看護師統一認定機構	実証実験･評価	東京

酒井　健夫	麻布大学　客員教授	調査研究	東京
左向　敏紀	日本獣医生命科学大学獣医学部 獣医保健看護学科教授	実証実験・評価	東京
原　大二郎	公益社団法人　日本動物病院福祉協会／ 獣徳会　動物医療センター	調査研究	愛知
細井戸　大成	公益社団法人　日本獣医師会/（株） VR　ENGINE／ネオベッツVRセンター	実証実験・評価	東京

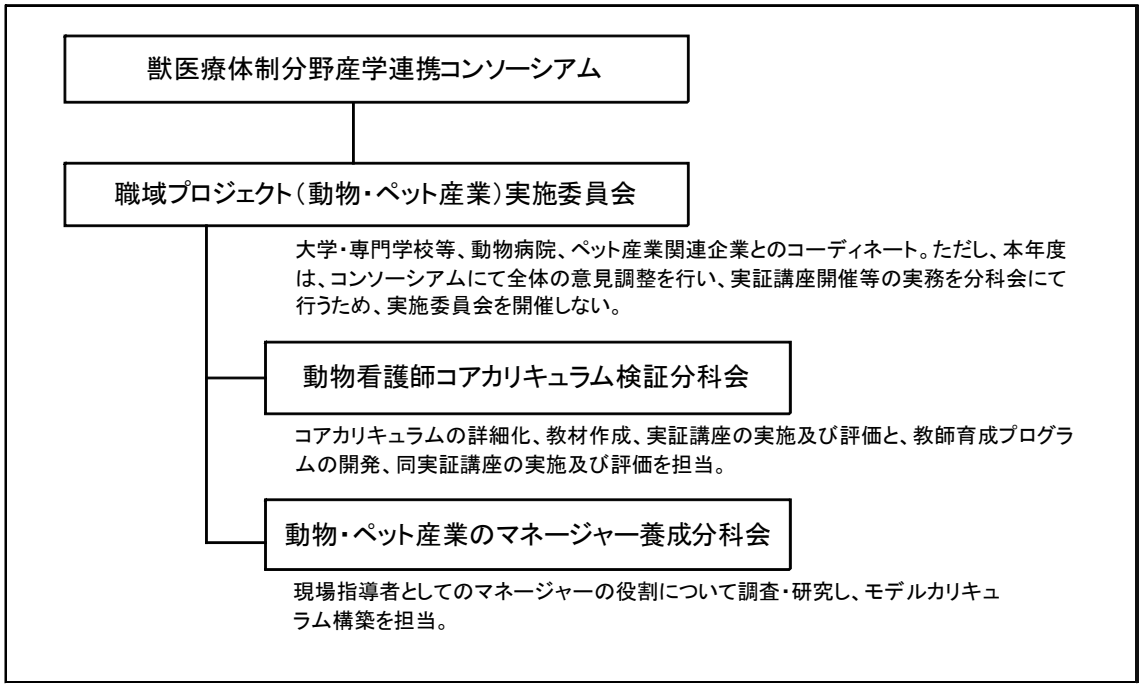
（3）　動物看護師コアカリキュラム検証分科会

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
下薗　惠子	国際動物専門学校	分科会リーダー	東京
石橋　妙子	大阪ペピイ動物看護専門学校	実証実験・評価	大阪
太田　光明	麻布大学　教授/動物看護師統一認定機構	実証実験・評価	東京
酒井　健夫	麻布大学　客員教授	実証実験・評価	東京
左向　敏紀	日本獣医生命科学大学	実証実験・評価	東京
野村　茂	株式会社ファームプレス	実証実験・評価	東京
細井戸　大成	公益社団法人　日本獣医師会	実証実験・評価	大阪
宮崎　安弘	大阪ペピイ動物看護専門学校	実証実験・評価	大阪
八木　信幸	中央カレッジグループ　経営企画本部	実証実験・評価	群馬
山下　眞理子	国際動物専門学校	実証実験・評価	東京

（3）　動物看護師コアカリキュラム検証分科会

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
中野　勘次郎	専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー	分科会リーダー	静岡
坂本　　敏	中央動物専門学校	調査研究	東京
高木　達也	CRI中央総研	調査研究	群馬
羽貝　雅之	緑書房	調査研究	東京
原　大二郎	公益社団法人　日本動物病院福祉協会	調査研究	愛知
水町　圭一	ちば愛犬フラワー専門学校	調査研究	千葉

3.2.　事業の実施体制



3.3.　事業実施スケジュール概要

工程	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コアカリ検証分科会		●	●	●	●		●	
マネージャー養成分科会		●	●		●	●		
授業シート・授業カルテ作成		←	―	→				
動物看護学等、テキスト作成		←	―	―	→			
動物看護学等、実証講座			←	―	→			
社会人向け、実証講座					↔			
教師育成プログラム、テキスト				←	―	→		
教師育成プログラム、実証講座						↔		
マネージャー養成、調査及び研究			←	―	→			
同上、カリキュラム等開発				←	―	―	→	
成果報告								●

3.4.　調査・視察＜動物・ペット産業のマネージャー養成分科会＞

【目的】マネジメントを行う階層（中核的専門人材）に求められるコンピテンシーを把握するため。動物看護師の主な就労の場である「動物病院」の現場調査・経営者の要求・院内での中核的人材要素の実態調査を行い、動物医療現場の「多様化するサービス」と運営に必要な中核的人材すなわち「マネージャー」の養成についてのカリキュラムの検討を行う事とした。

【対象】国内（静岡及び新潟）動物病院　3箇所（下記のとおり）

【手法】現地でのヒヤリング調査

【実施方法】動物・ペット産業のマネージャー養成分科会のメンバーによる訪問調査

①　木俣動物病院　木俣　新（きまた　あらた）院長
〒430-0904　静岡県浜松市中区中沢町 8-27
http://www.kimata-ah.com/info/index.html

②　オーシャン動物病院　音成伸悟（おとなり　しんご）院長
〒438-0045　静岡県磐田市上岡田 942-4
URL http://www.ocean-ahp.jp/access/index.html

③　シートン動物病院　長部善憲（おさべ　よしのり）院長
〒 940-0086　新潟県長岡市西千手 2 丁目 6-13
URL http://seton.jp/index.html

3.5.　カリキュラムの開発＜動物看護師コアカリキュラム検証分科会＞

【目的】カリキュラム基準と達成度評価の前提として、シラバス・コマシラバス、授業カルテ、授業シートを作成することを目的とした。

【規模】実証講座を行う「臨床動物看護学（15 時間）」と「クライアントエジュケーション（30 時間）」について、シラバス・コマシラバスを作成した。また、これらを踏まえ、教員養成講座（18 時間）を作成。

【実施体制】動物看護師コアカリキュラム検証分科会が担当。

3.6. 実証講座＜動物看護師コアカリキュラム検証分科会＞

（1）臨床動物看護学（学生対象）　１５時間
（2）臨床動物看護学（社会人対象）　１５時間
（3）クライアントエジュケーション（学生対象）　３０時間
（4）クライアントエジュケーション（教員対象）　５時間

3.7. 評価についての考え方

（1）授業の目的を明示する

コマシラバスにて、授業の目的を明示する。

コマシラバスに掲載する情報は、下記の通り。

- シラバス（概要）
- 評価方法
- コマのテーマ
- シラバスとの関係
- コマ主題
- コマ主題細目
- コマ主題細目深度
- 次コマとの関係

「臨床動物看護学」（学生・教員向け授業15時間用）

		シラバス（概要）
学科	動物看護学科	動物看護師は、獣医師の診断と治療方針のもとで患者動物の援助や飼い主家族を支援できる専門職として、重要な役割を果たすようになってきている。そのためには動物看護師としての観察、記録、コミュニケーション、援助技術と共に獣医学の種々の知識が必要であることは言うまでもない。人の言葉を話せなず、習性や生態もちがう患者動物の心理的な状態を予測すること、看護動物を取り巻く社会的な影響として環境や飼い主家族の特徴をとらえることは、家庭での看護援助を継続して貰うために非常に大切である。また、動物看護師が指導する内容をよく理解し、家族で患者動物に対して実行して貰えることは、その動物が治ることができるために非常に重要なことである。ここで指導教育する動物看護師が家族に信頼してもらえなければ、その教育指導内容をも信頼実行してもらえないことにもなりかねない。そのためには、信頼して貰える動物看護師になることがまず必要となる。これには、第一印象を良くし、指導者として信頼できる知識とそれを伝えるコミュニケーション能力と技術を持つことが必要となる。また、患者動物の現在の状況を正しく分析することによって、今後予測される問題を検討し、どんな時にどのような看護を実施すべきなのかを判断しなければならない。（参照：「疾患別動物看護ハンドブック」）
コース	動物看護学	
年度	2018年度	
学年	1年生＋2年生	
期		
ユニット		
科目名	臨床動物看護学（学生向け・教員向け授業）	
単位		
履修時間	15時間	
回数	15回	
必修・選択		
省庁分類		
授業形態	座学、演習	評価方法
作成者	山下眞理子	①1～10コマ、確認のための小試験（1～6コマでは、3コマ毎に1回×2回）、11～14コマは2コマ2回の小試験　②授業後のアンケート
教科書	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック	

コマシラバス

50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物看護学概論1	1.シラバスとの関係	臨床動物看護学の開始前に1年次の復習として動物看護	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	動物看護師とは何か？	
		3.コマ主題細目	動物看護概論の中の①動物看護とは？②動物看護の対象の理解③職業としての動物看護師　について考える	
		4.コマ主題細目深度	動物看護とは何か、動物看護過程とは何か、1年生で学習した動物看護学を見直し、復習する。写真を見て、どんな感情を持ったかを書留るところから各自が持つ動物への思いを確認する。それが　看護のイメージへとつながる。看護の歴史をナイチンゲールからひもとき、看護のこころと在り方、専門職としての動物看護師を知る。	
		5.次コマとの関係	動物看護過程の展開を知る	
2	動物看護学概論2	1.シラバスとの関係	臨床動物看護学の開始前に1年次の復習として動物看護について学び直す	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	動物看護師とは何か？	
		3.コマ主題細目	動物看護を実践する上で必要な観察技術について知る	
		4.コマ主題細目深度	動物看護とは、様々な情報を集積することにより看護過程を展開し、そこで得られた情報から今の問題を知ることによって展開できる。言葉を持たない動物の今と将来を想像する力が必要となる。動物への思いをバラバラに実行するのではなく、その思いを求めて整理したものが動物看護過程であることの確認。	
		5.次コマとの関係	各自の持っている動物への思いやりが動物看護につながり、動物看護過程の展開につながる	

（2）授業のポイントを具体的に示す

授業シートにて、授業のポイントを具体的に示す。

授業シートに掲載する情報は、下記の通り。

- シラバス
- 今日の授業
  授業のテーマを３つ程度に絞り込み、提示する。
- キーポイント
- 参照資料
- 授業コメント
- 資格関連度

XXクラス
授業シート

教科名：「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」コアカリ検証授業
科目名：臨床動物看護学
第（ / 回） 2013年12月16日

X年X期

講師名： 山下眞理子

今日の授業： 動物看護過程の概論１～６

●シラバス

臨床動物看護学で症状別看護を学ぶ前に、１年生で習得している動物看護学の動物看護過程概論を６コマで復習として学ぶ。ここでは、動物看護過程とは何か、動物看護とは？動物看護の対象を理解し、かつ動物看護師の本来の仕事を再考する。動物看護のイメージを改めて自分の中で思い浮かべ、すべてのライフステージで動物が安楽に健やかに過ごせるように援助することが看護の基本であり、そのためには疾病についての知識、解剖生理学、症状を知ることが必要となる。これらの知識は、獣医療を理解し、看護の対象に理解をよせるために必要な知識となる。

●今日の授業		●キーポイント	
●	1．動物看護過程概論１		導入案内が5分ー自己紹介１０分＋講義３５分＋休憩10分
□1	□1：動物看護とは何か？ ①動物看護の目的 ②動物看護の対象 ③動物看護の方法・技術とは？	□1	動物看護の目的とは、すべての生活ステージにおける、その動物の一生を支えること。個々の動物の状況を理解し、個別性をふまえた看護を行うことであることを理解させることがKeyPoint。また、これを実践するためには「動物看護の視点」で考えることを理解してもらう。看護のイメージの基本は、奉仕する職業であるが、それだけではないことを理解させる。
●	2．動物看護過程概論２		講義５０分＋休憩10分
□2	□2：獣医師と動物看護師の仕事の違いは何か？ ①獣医師の仕事は、診察・診断・手術・予後判定・獣医師は病気を診る。 ②動物看護師にしかできないことは、動物の全体を看ること ③２０１１年３月の新聞記事に載った福島の犬の写真をスライドで見て、この犬に何をしてあげたいか、という気持ちを書いてみる。	□2	獣医師と動物看護師とでは動物を診る、看ることの違いがあるということを理解させることがKeyPoint。災害と戸惑う犬を見てそこで思う事こそが動物看護の心の基本と思う。その基盤となる目的と必要性にについて学びながら、動物看護師に必要とされるもの、求められているものを看護の基本理念を理解できるようにする。アビリティーモデル２００７を基本として推測できるようにする。
●	3．動物看護過程概論３		講義３０分＋確認テスト２０分＋休憩１０分
□3	□3：動物看護過程概論３ ①動物の看護とは何か、を倫理綱領の中で知る ②動物看護の基本とは？患者動物、家族に	□3	～動物看護の概念とは、あらゆる状態の動物を対象に実施される、ということを理解させることがKeyPoint。あらゆる健康レベルとは、健康な時、病気の時、回復の時、終末期の時を示す。健康とは何かを理解させ、また、その動物が動物らしく生きること、家族が豊かな人生を送る事を支えるものであることを理解してもらえるよ

（3）確認項目を定めておく

授業カルテにて、授業の理解度等を測定するための確認項目を示す。

授業の終わりの時間、または、前の時間の学習内容の振り返りとして授業の初めの時間に、小テストとして用いることを想定している。

「授業カルテ」　　動物看護師コアカリ検証委員会

XXクラス
カルテ

教科名：「成長分野等における中核的専門人材養成の戦ー分野の中核的専門人材養成プロジェクト
科目名：臨床動物看護学
1回／4回　　月　日

X年X期

講師名：山下眞理子

臨床動物看護学

科名：臨床動物看護学　クラス番号：　　氏名：

問題1	動物看護の目的とは？
解答1	
問題2	動物の看護とは何か？
解答2	
問題3	動物看護の基本とは？
解答3	
問題4	動物看護の対象は何でしょう
解答4	
問題5	健康とは？
解答5	
問題6	人の看護婦（看護師）で、動物看護の規範となっている人二名の名前を教えてください
解答6	

（４）達成度を評価する

授業カルテによるコマ単位等での達成度評価や、学期末試験等による科目単位での達成度評価などを基礎データとして、予め設定した「評価方法」に基づいて、学生等受講者の目的達成度を評価する。

4.　事業の成果

4.1.　調査・視察について＜動物・ペット産業のマネージャー養成分科会＞

（１）調査・視察結果とその分析

① 木俣動物病院の視察結果とその分析

【経営の特色】

木俣動物病院における経営の特色は、院長が明確なビジョンを掲げ、そのビジョンを理念どまりにせず、具体的な方法として常にスタッフ面々に伝える「ビジョン追求型の経営」に徹していることであった。

いわゆる「管理職」なるものを置かずに、「セクションリーダー」を指名し（これも役職ではないとして)、日常的な運営は毎日シフト制でスタッフが入れ替わることを前提に「当日リーダー」で組織を運営している。つまり木俣動物病院は、従来型のピラミッド型組織ではなく、フラットな組織で「管理職という組織に依存しない、ビジョン志向の自律型チームワーク経営」を行っている、一種の「ホロン経営」と言えるのではないかと考えている。

【組織の特性】

・動物の生死に関わる仕事で、飼い主の心のケアなどを扱い、働く者の心が問われる面が強い。従って、管理上の仕事はスタッフにとって精神的な重荷と感じられ易い。
・獣医師は専門職で、マネジメントまで要求すると上手くいかず。
・若いスタッフ（２０代)、しかも女性が多い職場
・シフト制で毎日メンバーが変わる
・従ってマネージャークラスは殆どが２０代後半の女性、但し、役職ではなく「セクションリーダー」とし、当日スタッフをリードする者をシニアクラスから「当日リーダー」として運営する。

このように、ほとんどのスタッフが２０代女性で占められ、しかもその若い女性がリーダーとなる職場は、他にあまり例がない。

このような特性を業務の面で見ると、動物病院における業務は「顧客接点サービス業務」として益々ホスピタリティが求められる。製造業のようなオペレーション業務が中心のところで最適化された従来型のＯＪＴが通じない状況が生まれつつあり、今後ますますやりがいや成長の内因的仕事観をしっかり強化するようなマネジメントが必要になってくる。

② オーシャン動物病院の視察結果とその分析

オーシャン動物病院は創業 7 年目、規模１０名であり、まさに今回の研修対象とする層である。その院長は、

「若いスタッフが中心の職場で、組織だった旧来型の会社にしたくなかった。あなたは役職者だからこうすべきというプレッシャーはかけたくない。役職と言うほどではないがリーダーと言う立場でやってもらっている」

「終身雇用制ならともかく、現状の就業年齢を考えるとピラミッド型にならない。むしろ若いがゆえに特定な人に役職をつけると潰れてしまう危険性がある」

「全体を引っ張るスタッフ・リーダーは看護師がいい。その下に各部門のリーダーを置く。獣医師はいつまで居てくれるか分からず、獣医師だけで固めると、上下感が出てしまう恐れがある。患者に一番近いのは看護師なのでまとめ役は看護師がいいと思う」と述べており、木俣動物病院と同じような組織観を持たれていた。

「マナジメント的なコーチングとリーダーシップ研修を行っていきたい」と述べられ、これもまた同じであった。ただ「『まだ組織発展の過渡期』なので」と述べられた点については、見解が異なる。業界の組織体制を考えると、これら２つの教育がスタッフ・リーダーに対する必然的、中心的な教育になってくるものと考えられる。

③ シートン動物病院の視察結果とその分析

長部院長は「スタッフのモチベーションを上げ、働きやすい組織に築き上げたいという思いは開業当初から持ち続けていた。より良い動物病院にするためには何から手つけたら良いのか？ぼんやりとした不安の中で出会ったセミナーがベティン先生（組織心理学者であるパトリック・ベティン博士（ワシントン大学)）のリーダーシップ理論であった。それまではリーダーシップとは一方的に人に影響を与える事だと思っていた。しかし、現代のリーダーシップは皆が強く惹かれるビジョン・価値観を共有し、チームとしての協力・信頼の風土を築き上げていく事だと知った。自分たちの動物病院は何のためにこの社会に存在するのか？何を誇りに喜びとして働いているのか？すぐに答える事が出来ない自分がいた。衝撃であった。今まで日々の診療活動の中で、そこまで掘り下げて考えた事が無かった。出発はここから始め

なければならないと強く心に念じた」と述べていた。

この実践者がＪＡＨＡで最初にグループリーダーシップ論を学んだ木俣院長と長部院長であり、その流れを受けた音成院長であったのだ。

更に長部院長は日本経営品質賞の中身を学習され、「高い顧客価値の提供」「質の高い動物医療の実践」を目指され、経営全体をシステム化され、実践されていることを垣間見ることができた。スタッフには思考プロセスの大切さを説き、ＰＤＣＡを実践させ、その全ての仕組みを通じて「働きやすく　働き甲斐のある職場」を作られ、チームとして人材を育てていた。

（２）マネージャー養成プログラムの検討（試案）

動物病院は業界としては歴史が長い。しかし、ペットブームで急増した最近の病院はその組織陣容と求められるホスピタリティ性から、若い女性が多く、女性がリーダーとなる職場にならざるを得ず、その経営はワークバランスも考え、「働きやすく、働き甲斐のある職場」を目指さなければならない。つまり、最近の動物病院はある意味で我が国の中で先端を行く経営・マネジメントが求められているとも言える。

これから行うマネージャー研修は、階層別研修にお決まりの「リーダーシップ、マネジメント、部下育成」研修とも、従来のピラミッド型組織を想定したものとも異なり、チームとしての自律性、一人一人の自主性が強く求められるものになるに違いない。

本分科会の使命からすると、ペット産業であるが故、新たな時代の「マネージャー研修＝階層別研修」の開発が求められていると言えるのではないだろうか。

ここでは、これまでの視察調査に基づき検討した結果として、ペット産業の中核である動物病院を対象としたマネージャー・リーダー等階層別研修（試案）を提案する。（詳しくは、第２章 1.3 項を参照のこと。）

尚、規模が１０人を超え、２０～３０人規模では院長の片腕としてスタッフ部門として「マネージャー」が必要になるとのことなので、「マネージャー」はスタッフ部門のリーダーを指し、通常の「リーダー」は獣看護師などのリーダーを指すことにする。

4.2.　カリキュラムの開発について＜動物看護師コアカリキュラム検証分科会＞

【目的】カリキュラム基準と達成度評価の前提として、シラバス・コマシラバス、授業カルテ、授業シートを作成することを目的とした。

【規模】実証講座を行う「臨床動物看護学（15 時間)」と「クライアントエジュケーション（30 時間)」について、シラバス・コマシラバスを作成する。また、社会人向け講座として、上記２講座を再構成（15 時間)。これらを踏まえ、教員養成講座（18 時間）を作成。

【実施体制】動物看護師コアカリキュラム検証分科会が担当。

4.3.　実証講座について＜動物看護師コアカリキュラム検証分科会＞

（１）臨床動物看護学（学生対象）　１５時間

◆参加者

学校法人宮崎総合学園　宮崎ペットワールド専門学校　動物看護学科

1 年生 18 名 2 年生 10 名：合計 28 名

◆実施場所

学校法人宮崎総合学園　宮崎ペットワールド専門学校

◆スケジュール（日程）

回数	授業内容	講師
第 1 回　12／16 (5 時間)	臨床動物看護学 概論1～6	国際動物専門学校 山下眞理子
第 2 回　12／17 (5時間)	臨床動物看護学 症状別動物看護「痛み」 「かゆみ」	国際動物専門学校 山下眞理子
第 3 回　1／24 (5 時間)	臨床動物看護学 症状別動物看護「嘔吐」 「排便異常」	宮崎ペットワールド専門学校　若松あゆみ

（２）臨床動物看護学（社会人対象）　１５時間

◆参加者

学校法人シモゾノ学園　国際動物専門学校　動物看護師　4 名

◆実施場所

学校法人シモゾノ学園　国際動物専門学校

◆スケジュール（日程）

回数	授業内容	講師
第 1 回　1／7 (6 時間)	臨床動物看護学 概論1～6	国際動物専門学校 山下眞理子
第 2 回　1／8 (6 時間)	臨床動物看護学 症状別動物看護「痛み」 「かゆみ」「嘔吐」	国際動物専門学校 山下眞理子
第 3 回　1／28 (3 時間)	臨床動物看護学 症状別動物看護「排便異常」	国際動物専門学校 山下眞理子

（3）クライアントエジュケーション（学生対象）　３０時間

◆参加者

学校法人宮崎学園　大阪ペピイ動物看護専門学校　２年生　29 名

◆実施場所

学校法人宮崎学園　大阪ペピイ動物看護専門学校

◆スケジュール（日程）

講師：島田実佳・野村弥生（大阪ペピイ動物看護専門学校）

平成 25 年度　後期			
	火		火
第 1 週	10/1	第 9 週	11/26
第 2 週	10/8	第 10 週	12/3
第 3 週	10/15	第 11 週	12/10
第 4 週	10/22	第 12 週	12/17
第 5 週	10/29	第 13 週	1/14
第 6 週	11/5	第 14 週	1/21
第 7 週	11/12	第 15 週	2/5(水)
第 8 週	11/19		

（4）クライアントエジュケーション（教員対象）　５時間

◆参加者

学校法人宮崎学園　大阪ペピイ動物看護専門学校　動物看護教員　4 名

◆実施場所

学校法人宮崎学園　大阪ペピイ動物看護専門学校

◆スケジュール（日程）

平成 26 年 1 月 25 日　5 時間　（講師：山下眞理子(国際動物専門学校)）

4.4. 開発したカリキュラムの評価について

今回は、目的達成度の評価を考慮せず、受講者アンケートの結果及び他の講師による評価から、カリキュラムの評価を行う。

なお、カリキュラムの評価は、動物看護師コアカリキュラム検証分科会にて実施するものとする。

① 臨床動物看護学について

シラバスの記述については、一定程度、わかりやすいものであったと判断した。

シラバスに沿った授業を提供できていたと評価した。

「質問しやすい雰囲気」の醸成が不十分であった可能性を指摘した。

受講者による講師評価は、いずれも良好であった。

受講者による授業の内容の評価は、４段階（４が最高評価）で「４」が最多回答であり、受講者の満足度が高かったと判断した。

他の講師からの評価も良好であり、かつ、さらなる質の向上を図るための積極的な提案や助言も多く寄せられていた。

以上のことから、当該カリキュラムならびに実証講座は、目的を達成するのに十分な内容となっていたと評価する。

② クライアントエジュケーションについて

シラバスの記述については、わかりやすいものであったと判断した。

シラバスに沿った授業を提供できていたと評価した。

受講者による講師評価は、いずれも良好であった。

カリキュラムの（系統的な）整理に課題があると推察した。

受講者による授業の内容の評価は、学生の場合には４段階（４が最高評価）で「３」が最多回答、動物看護教員の場合には「４」が最多回答であり、受講者の満足度が高かったと判断した。

他の講師からの評価も良好であり、かつ、さらなる質の向上を図るための積極的な提案や助言も多く寄せられていた。

以上のことから、当該カリキュラムならびに実証講座は、改善すべき課題を抱え

てはいるものの、目的を達成するのに十分な内容となっていたと評価する。

5. 事業終了後の成果活用について

本年度の事業で教育カリキュラム（コマシラバス、授業シート、授業カルテ）ならびにテキスト等を開発し、実証講座を開催した「臨床動物看護学」と「クライアントエジュケーション」の２科目については、本校ならびに事業協力校の７校では、平成26年度から既存学科コースの授業科目に加えて開講し、成果を活用する予定である。

また、動物看護師国家資格化検討推進協議会（一般社団法人　全国動物教育協会）に参加している４１校ならびに動物看護師養成コアカリキュラム採用校（５６校：重複在り）においても、本事業の成果である教育カリキュラム（コマシラバス、授業シート、授業カルテ）ならびにテキスト等の情報を共有し、さらに、修正・検討も加えながら、より質の高い教育活動を行うために、成果を活用する予定である。

6. 今後の課題について

本年度計画していた事業として、一定以上の成果を上げることはできたものの、新たに取り組むべき課題も明らかになってきた。

一つは、コマシラバスなどの教育カリキュラムを見直し、精度向上に向けた取り組みを進めるということである。本年度の事業にて、教育カリキュラムを開発し、実証講座で検証することができており、その過程で、見直すべき課題が明らかとなっている。今後、早急にこうした課題の見直しに取り組みたい。

二つ目は、マネージャー養成のための教育カリキュラムならびにテキストの開発である。本年度の事業にて、複数の動物病院を訪問し、中核的専門人材としてのマネージャー人材の役割と、その必要性について調査・分析することができた。その結果、マネージャー人材の養成が急務であることが明らかとなり、早急に取り組むべき課題となっている。

そして三つ目は、他の科目についても、教育カリキュラムとテキスト等を開発することである。本事業をとおして、動物病院等、動物看護師が活躍している現場から求められる教育ニーズに応えられる教育カリキュラムを開発し、それに沿ったテキスト等を開発し、それらを多くの学校で共有し活用することで、中核的専門人材の養成に

役立つことが実証できた。こうした取り組みをさらに進めるため、他の科目についても同様の成果を上げていくべきだと考えている。

以上が、本年度の事業成果を踏まえた、今後の取り組み課題である。

本年度、本事業をご採択いただき、こうした事業に取り組む機会を与えてくだり、ありがとうございました。また、事業協力校の皆様、ならびにご協力いただきました獣医師の先生方、大学関係の皆様、企業・団体等の皆様、お力添えをいただき本当にありがとうございました。ここに感謝の意を表します。

第2編　事業実施記録

1.　調査・視察について＜動物・ペット産業のマネージャー養成分科会＞

1.1.　調査・視察の目的

1.2.　調査・視察報告（記録）

1.3.　マネージャー養成プログラムの検討（試案）

1.4.　動物・ペット産業のマネージャー養成分科会実施記録

2.　カリキュラムの開発について＜動物看護師コアカリキュラム検証分科会＞

2.1.　到達目標となる人材像

2.2.　科目別の目的

2.3.　コマシラバスの作成

2.4.　授業シートの作成について

2.5.　授業カルテの作成について

3.　実証講座の実施および評価について＜動物看護師コアカリキュラム検証分科会＞

3.1.　実証講座の実施スケジュール

3.2.　実証講座の実施記録

3.3.　受講者アンケート結果

3.4.　目的達成度の評価についての考え方

3.5.　目的に対するカリキュラムの評価

第二編　事業実施記録

1.　調査･視察について＜動物･ペット産業のマネージャー養成分科会＞

1.1.　調査･視察の目的

本事業では、コンソーシアムの学習ユニット開発ＷＧと連動し、さらに動物看護師コアカリ検証部会の実証講座による検証及び産業（動物医療）のニーズに適した人材養成の仕組み構築の一助の目的を確認し、テーマである「ペット産業」では、広範多岐に渡ることから、今回は、主たる目的である「動物医療」の現場における、「マネージャー養成」に特化して、調査・分析を中心に実施する事とした。

したがって、動物看護師の主な就労の場である「動物病院」の現場調査・経営者の要求・院内での中核的人材要素の実態調査を行い、動物医療現場の「多様化するサービス」と運営に必要な中核的人材すなわち「マネージャー」の養成についてのカリキュラムの検討を行う事とした。

想定する検討課題は次の通りである。

① 動物医療現場の各種データ（人材養成が求められていることを示すエビデンス）
② 人材養成のあり方
③ 現場指導者としてのマネージャーの役割
④ マネージャーに求められる能力の検討
　・マネジメント（計数管理、労務知識、マーケティング、ＣＳＲ等）
　・コミュニケーション（定義、病院規模による場合分け）
　・リーダーシップ（行動科学の知見に基づく教育訓練等）

当分科会は、「ペット業界における現場責任者としてのマネージャーの役割について調査研究し、モデルカリキュラム構築を担当する」ことを目的として設置されているが、当面業界の規模からして今後増加が見込まれる「１０人規模の動物病院（院長(獣医師)、研修医１名、婦長、主任、主任補など)」で、このクラスの動物病院の婦長、主任、主任補クラスを「マネージャー」として想定することとした。尚、ここでは実態からして獣医師はあくまで専門職的位置づけと捉えた。

従って、本分科会が開発を検討するカリキュラムは専門学校生向けのカリキュラムではなく、あくまで現在働いているマネージャークラス、または、これからマネージャーになる人材を対象とするものになる。

1.2. 調査・視察報告（記録）

（1）木俣動物病院ヒヤリング調査報告

〒430-0904　静岡県浜松市中区中沢町 8-27

http://www.kimata-ah.com/info/index.html

訪問日：平成２５年１０月１０日

面談者：木俣院長　シニア看護師＝セクションリーダー・高木・山田さん

調査項目	ご回答
組織の概要と沿革	◎組織体制　組織図　◎沿革 浜松市　８０万人都市 木俣先生５５歳 二代目　１９９１年院長開業　　２００１年現在の地に 家業を受け継ぐ　４０年 高木さん２０００年入社　トリマー　勤続１３年 入社時　動物看護師４人・獣医師５人だった　全て自分達で 副院長２人 獣医師　８名　　１日５人位が常時勤務 動物看護師　　１３名（内シニアスタッフ　５人） レセプショニスト受付２名　会計経理１名 ・セクションリーダー　高木・山田さん　公平性が求められる　女性が多い職場故 ・４・５年経過した者に当日リーダーを指名する　バラバラでペア ・休診日・全員出勤 ・シニアスタッフ以外・話し合い、問題点を出す⇒シニアスタッで話し合う
病院経営上の問題	◎動物病院を経営する上での問題 基本的に休みなし　獣医師・スタッフの過重労働 長時間労働 ⇒夜間診療施設の創設　　シフト制 クリニカルパスで説明し診療　公平性 コミュニケーション不足 教育の時間がない　　福利厚生リクリエーションの時間がない

	◎院長の組織観 ＜組織の特性＞ ・獣医師は専門職でマネジメントまで要求すると上手くいかず。医療特化で行きたい。 ・セクション・リーダーを置くが、役職ではない。この仕事は死に接する職場　心が痛む。そこに更に役職で責任を負わせると苦しくなる。単純な管理だとスタッフが続かない。 ・休診日なし・全員出勤ゆえに、４・５年経過した者に当日リーダーを指名する。バラバラでペア ・シニアスタッフ以外で話し合い問題点を出す⇒シニアスタッで話し合い問題解決を図る。 ・問題点を徹底的に改善した。とにかくやってみる。できなければまたなおしてやってみる。 ・若い人たちが感じるハッピーは何かを考え追求する。そして、　いいものはどんどんやっていこうと思う。 ・教育はリーダーシップとコミュニケーション、接客マナー。 ⇒副院長はいても、いわゆる「管理職」はおらず、組織はフラット型であり、シフトに合わせ日々リーダーを変えるフレキシブルな組織。 運営は民主的でサッカーチーム的。行動重視で徹底した改善志向。 ＜経営の特性＞ クレドは作らず。トップダウンやらず　目標管理は断念。 但し、ビジョン・ゴールを提示し繰り返し言い、その実現を図る。 ①ハッピーペット ⇒入院の短期化　ペインのコントロール麻薬　予防 高度医療施設化 ②クライアントの幸せ ⇒確定診断（最初に診断し治療の説明する） 問題点提起型の診断手順　インフォームドコンセント　徹底した顧客満足を目指した改善 ③働く者の幸せ⇒福利厚生　労働時間の短縮　十分なサラリー　とり易い長期休暇　個人スキルの向上　リーダーシップミーティング ＜セクション・リーダーのリーダーシップ観＞は ⇒困ったことないかと聞くこと。但し、偉そうにしない。感謝の気持ち

	が大事で、先輩風を吹かせないこと。 後輩から教わるのも自然に行う。若いスタッフが嫌がることをしない。 ⇒院長が彼女たちに求めるもの・・・公平性。女性が多い職場故 ＜スタッフの面々は・・＞・ あるスタッフの例・・・大学を卒業後、民間に就職、やはりこの道にと言うことでペット学校に行き、就職するような人。モチベーションが非常に高い。また、長年就職し、一旦出産で休職、その後復帰した人もいる。離職率は極端に低い。
人材育成策	◎リーダーシップ、コミュニケーション、接遇など現在行っておる教育、その他技術教育の中身についてお教えください。 回答：理事をしている、日本動物病院福祉協会のマネージメントカリキュラムを活用しています。リーダーシップは藤原事務所の藤原先生、コミュニケーションはペピーの坂上先生、接遇は JAL アカデミーや ANA ラーニング等。 ◎現場で行っている改善活動（新人のミーティングで問題の課題化、シニアクラスで解決策の検討とお聞きした活動のこと）のやり方をできるだけ詳しくお教えください。 回答：月１回休診日で全員出席日をもうける。朝から、セクション別（受付、医療担当動物看護師、獣医師）に２時間くらい業務見直しを行う。獣医師セクション以外は、原則的にシニアスタッフは参加しない。その後各、セクションリーダーがシニアスタッフミーティングに参加し、プレゼンを行う。
	◎今後新たに教育をしていくとしたらどんな内容の教育が必要ですか。それはなぜですか。特に、リーダークラスに必要な教育をお教えください。 回答：人間の多様性を教えること。その中でのリーダーとしての行動や言動。人を支えることの喜び。個人としてのキャリア形成とはどんなことをして行けば良いのか。本を読む週間。知性とは何か。
	◎専門学校時代にこんなことを学ばせておいてほしいということがありましたらお教えください。 回答：社会人としての教育です。挨拶を始めとして、上司や仲間さらに顧客との接し方。電話応対の基本。クレームに対する初期対応。厳しい状況になっても、決して顔に出さない心構え。さらには、苦境でも心の

	病にならない備え。食生活を含めた私生活を健康に送る方法等。
管理・監督層の皆様の現状業務・役割	◎高木さん山田さんが「日常的に行っている業務」を其々お教えください。 高木　・外来診察や検査の助手 ・病院業務が問題なくできているか把握して統括 山田　・外来診察の対応（受付、会計の補助） ・電話対応 ・動物保険の事務処理、スタッフの勤務シフト作成 などの事務全般 ◎高木さん山田さんが「セクションリーダー」として行っていることをお教えください。 ・病院業務が問題なく進んでいるか、病院を見回る。 ・スタッフ一人一人に何か困った事がないか聞き取りして 改善策を提案する。 ・月一回のミーティングのスケジュールの組み立てをする。 ・院長からスタッフに向けての要望を聞き、スタッフに伝達して 行われているか確認をする。 ◎当日リーダーの選任方法は？ ・当日出勤で勤務３年以上のスタッフをランダムに指名しています。 ◎当日リーダーはどんなことをされるのか当日リーダーの役割・業務をお教えください。 ・外来の当日リーダーは診察の進行状況や来院患者を把握して円滑に進められるように促し、人員配置させます。 ・入院の当日リーダーは入院動物の把握、管理を行いその日に行う手術や検査などを優先順位をつけながらスケジュールを組み、人員配置させます。 ◎その業務の翌日への引き継ぎ方法は？ ・スタッフ全員に毎日入院動物の報告と外来での報告事項をそれぞれメールします。それと共に夜に翌日の出勤スタッフに向けて具体的な入院動物の報告やその他の報告事項を書き置きします。
視察記録 クリニカル・パスの	木俣動物病院さんで、最初に診察室のご案内をいただいたが、まず最初に目についたのは、壁に大きく掲示された診療料金一覧だった。動物

実践現場	病院はかなり訪問させていただいているが、これにはびっくりした。 　獣医療は一般に自由診療であり、動物保健に入っていない限り、診療費は飼い主さんの全額自己負担になる。自分のペットに元気になってほしいと同時に「いったいいくら位いかかるのだろう？」というお金の不安は、診察中最初から最後まで続く。その不安が最初に解消され、飼い主さんは、診療料金一覧を時折みながら、落ち着いて診断と治療方針を獣医師と相談することができる。 　さらに見学を続けていて驚いたことがあった。 　最初に訪れた診察室で、ほぼ「診断」と「治療」の大筋が決まる。それを木俣動物病院ではコンピューターに入力する。院内のコンピューターは連動しているので、一回の入力で診断のスケジュールと治療のスケジュールが決まる。診断で必要なX線機器などの使用予定や、処置、食事指導、手術の予定、薬の処方などが決まる。薬の使用予定量も決まり、在庫のチェックも同時に行われる。 　ということは、それにかかわる獣医師、動物看護師、受付などのスタッフの働く予定が決まるのである。スタッフはだれでもその予定を時系列でみることができるので、自分がいつ、どこで、何をどのようにすればよいのか？　がわかる。　さらに来院する患者さんひとりごとに積あがっていき先々の予定が埋められていく。 　業務命令でもなく、一人一人の力量に左右される自主性でもなく、パソコンの画面で時系列一覧表を確認するだけで、わかる仕組みになっている。これはまさにチーム医療を支える土台である。 （お聞きする時間がなかったが、院長はトータルでの売上や、支払いなどの経営情報を、チェックできるはずである。） 　最初の診察から、入院、退院までの計画的な治療、業務の効率化、無駄の排除を、個々のスタッフが同一の時系列の進行表を確認しながら「自然体で」行っている。 「クリニカル・パス」の実践の現場がまさに目のまえにあった。 　「クリニカル・パス」を取り入れた「チーム医療」の経営方針がなければ、一方的な業務命令、自主的にならざるを得ないバラバラな無駄な動き、とびきり気の利く優秀な人材への過度の負担が続いてしまう。スタッフは疲弊して、何も言わずに再診に来なくなる飼い主さんが増えるだけである。

木俣動物病院の視察結果とその分析

【経営の特色】

木俣動物病院における経営の特色は、上記のとおり、院長が明確なビジョンを掲げ、そのビジョンを理念どまりにせず、具体的な方法として常にスタッフ面々に伝える「ビジョン追求型の経営」に徹していること。院長は上記ビジョンを実現するため、人・モノの資源調達・投資に集中。日常業務はスタッフに任せ、徹底して顧客満足を目指した改善をめざし、よいことはどんどんさせていること。

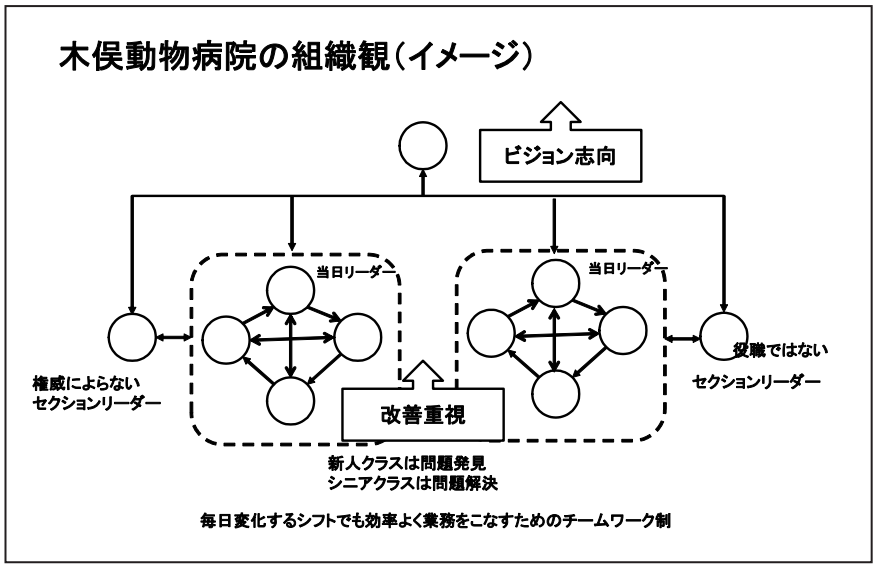
しかも、いわゆる「管理職」なるものを置かずに、「セクションリーダー」を指名し（これも役職ではないとして）、日常的な運営は毎日シフト制でスタッフが入れ替わることを前提に「当日リーダー」で組織を運営している。

つまり木俣動物病院は、従来型のピラミッド型組織ではなく、フラットな組織で「管理職という組織に依存しない、ビジョン志向の自律型チームワーク経営」を行っている、一種の「ホロン経営」と言えるのではないか。これが最初の印象だった。

ホロン経営【英】holonic management

「ホロン」とは、ハンガリー小説家アーサー・ケストラーが作り出した言葉である。ホロンは「全体子」という意味である。生命科学の分野では、「個と全体の有機的調和」を意味する。生物は、環境の変化に柔軟に対応しながら各細胞が自主的活動を行うことで、全体の調和が図られ生物として構成される。

上記のホロン的考え方を企業経営に当てはめたものがホロン経営（ホロンマネジメント）である。組織全体と組織で働く各個人がそれぞれの役割を担い、環境の変化に対応しながら全体・個ともに活かす企業活動を目指すのがホロン経営である。



こうした階層に依存しないフラットで自律的な組織を目指すのは、本病院だけの特

異性なのか、それとも動物病院の業界の特徴なのかが大きな問題と思われた。

【組織の特性】

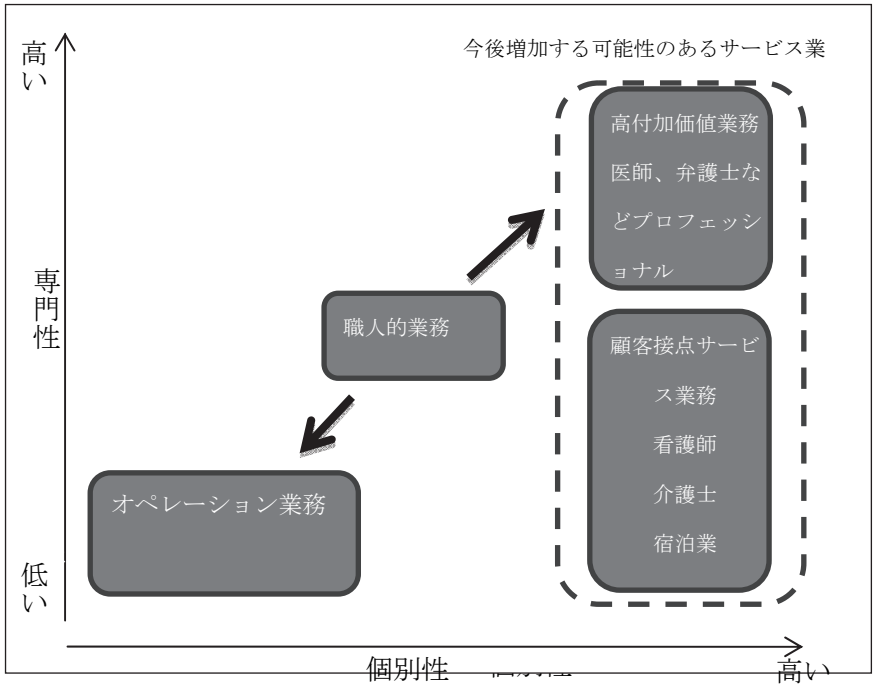
・動物の生死に関わる仕事で、飼い主の心のケアなどを扱い、働く者の心が問われる面が強い。従って、管理上の仕事はスタッフにとって精神的な重荷と感じられ易い。
・獣医師は専門職で、マネジメントまで要求すると上手くいかず。
・若いスタッフ（２０代）、しかも女性が多い職場
・シフト制で毎日メンバーが変わる
・従ってマネージャークラスは殆どが２０代後半の女性、但し、役職ではなく「セクションリーダー」とし、当日スタッフをリードする者をシニアクラスから「当日リーダー」として運営する。

このように、ほとんどのスタッフが２０代女性で占められ、しかもその若い女性がリーダーとなる職場は、他にあまり例がない。

このような特性を業務の面で見ると、動物病院における業務は図（サービス業務の分布図高橋俊介著「ホワイト企業　サービス業化する日本の人材育成戦略」）の通り「顧客接点サービス業務」として益々ホスピタリティが求められる。

動物病院も経営体故、存続のためには「利益確保」が絶対条件である。

しかし、飼い主の心のケアなどを扱い、働く者の心が問われる面が強く、そうした職場には、いわゆる「(売上) 目標」とか「管理」といった面を強調し難い面がありそうだ。実際木俣氏は「目標管理」を導入しようとしたが失敗したと言っている。



更に、若い２０代のスタッフの職場ということを考えると次のような問題も考えられる。先ず２０代の若い人たちは「ゆとり教育世代」と言われ、「承認欲求」が強い、「内因的仕事観」が強い、といった傾向にあると言われている。「内因的仕事観」とは自分のやりがいや成長に仕事の意味を感じることで、この仕事観は当然昔からあるが、この価値観が強まり、「やりたい仕事」を探す傾向にある。

つまりは、製造業のようなオペレーション業務が中心のところで最適化された従来型のＯＪＴが通じない状況が生まれつつあり、今後ますますやりがいや成長の内因的仕事観をしっかり強化するようなマネジメントが必要になってくる。

木俣氏が従来型のピラミッド型組織ではなく、フラットな組織で「管理職という組織に依存しない、ビジョン志向の自律型チームワーク経営」を行っているのは、背景にこのような理由があるからではないだろうか。

とりわけ木俣氏が活用している日本動物病院福祉協会ＪＡＨＡのマネージメントカリキュラムにおける「リーダーシップ」研修における講師藤原 直哉氏は、そのリーダーシップについて「昔は上から下へ一方的に影響力を及ぼすトップダウンこそリーダーシップの姿だと 思われることが多かったようですが、この複雑で変化の激しい今の時代にそのやり方 一辺倒では、もはや明るい未来は創れません。今求められるリーダーシップの姿とは、人々が自発的に自らの持つ能力を使いたいと思えるように助け、その力を成功に向けて結集させることです」とし、一人一人の自発性を引き出し、チームとして成功に向けていくことを強調し、リーダーシップ論の変化を感じさせる。と同時に今回見た若い人・リーダーが多く、フラットで自律的な組織を目指さなければならない動物病院には最適な理論と言えよう。

いま多くの企業が意思決定を迅速にするという面からこうしたフラット型の組織になりつつあるが、必ずしもその運営がうまくいっているわけではない。フラット型組織には下記のような弱点があるといわれている。

イ．職位数が少ないので、長い年数同じ業務に従事することになり、業務にマンネリ化が生じやすく、モチベーションの維持が問題となること。

ロ．縦の関係が希薄になり、組織力、現場力の低下が懸念されること。

ハ．管理・監督者としての準備期間、準備段階を経ずに登用されてしまうこと

ニ．指導・監督の対象人数が多くなるので、指導、命令の仕方、内容などの検討が求められる。

だからこそ、中堅クラスに対して上記のようなリーダーシップ研修が必要になってくる。

（２）オーシャン動物病院ヒヤリング調査報告

〒438-0045　静岡県磐田市上岡田 942-4

URL http://www.ocean-ahp.jp/access/index.html

訪問日：平成２５年１１月１２日

面談者：音成院長　シニア看護師・高木様・関塚様

調査項目	ご回答
組織の概要	◎組織体制 職員の状況（獣医師、動物看護師、受付事務など、人数） 管理職の状況（院長・副院長・部課長など　管理・監督層） ⑴職員の状況 獣医師３名：院長（６年／17.5 年）、勤務獣医師２名（２年／４年）（0.5 年／3.5 年）（当院での年数／臨床経験年数） VT３名　：5.5 年、4.5 年、0.5 年 トリマー３名　：5.5 年、1.5 年、1.5 年 ⑵組織図 院長　事務部門（１名） 獣医師部門（リーダー１名、他１名） 動物看護部門（リーダー１名、他２名） トリマー部門（リーダー１名、他２名） ドッグトレーニング部門（外部委託） ３年前に同じシートン動物病院に勤める。４病院を経て、現在に。 税理士　製薬会社　サラリーマン家庭で個人営業に反対され、開業不可能と思っていたが、腕一本で生きて行こうとして開業を目指す。 当業界は丁稚奉公的な世界で、看護師も同様。雇用条件の悪さを打破したかった。 開業準備・スタッフ募集の苦労は並大抵ではなかった。一緒に働いていた人たちで始める。獣医師の採用が難しく、募集広告を出しても電話すらない。獣医師募集インターネットに掲載し１１ヶ月半で漸く問合わせがあり、採用になった位。社会保険の加入が問題に。 若いスタッフが中心の職場で、組織だった旧来型の会社にしたくなかった。あなたは役職者だからこうすべきというプレッシャーはかけたくない。役職と言うほどではないがリーダーと言う立場でやってもらっている。

	終身雇用制ならともかく　現状の就業年齢を考えるとピラミッド型にならない。むしろ若いがゆえに特定な人に役職をつけると潰れてしまう危険性がある。
沿革	◎病院創設から現在までの沿革 2007.11/1　開業 獣医師１名、スタッフ３名（VT２名,トリマー１名） 2008.3/　獣医師１名、スタッフ５名（VT４名,トリマー２名） 福利厚生で『とらいあんぐる磐田』（福祉共済会）加入 2009. 3/1　法人化　（株）オーシャン動物病院に 獣医師１名、スタッフ５名（VT３名,トリマー２名） この段階では、社会保険未加入 2011.11/　獣医師２名体制、スタッフ６名（VT３名,トリマー３名） 2012. 5/1　厚生年金加入 2013.1/　フード通販事業／トレーニング事業開始 2013.3/　獣医師３名、スタッフ６名（VT３名、トリマー３名）
病院経営上の問題	(1)動物病院の経営上の問題点 ・　一般的な問題 獣医師が体系的なビジネスマナー教育を受けていない 経営学を学ぶ機会が少ない 閉鎖的環境で働き、生活している 世間的な一般常識に疎い 仕事に対するモチベーションや必死さが少ない 病院毎のレベルや雇用条件に差がある ・　人材育成、人事、雇用上の問題点 体系的教育スケジュールが無い 入社時に繁忙期に突入するために、教育に割く時間や人員が確保できない 体系的教育についての概念，考え方、知識が無い 地域的に人材確保が困難（特に獣医師） 安定した経営基盤がなければ良好な雇用条件を形成しにくい 丁稚奉公的考え方が残っている（獣医師） (2)問題解決方法

	外部の新人教育セミナーへの参加 外部のビジネスマナーセミナー受講 院内のビジネスマナーセミナー、VT セミナーの開催 オーナーアンケートの実施 院長の異業種交流経営勉強会開催 院長とトップリーダーの経営セミナー参加 ES 向上委員会の設置と希望事項の集約 今後；リーダー育成の為の管理職セミナー参加 院長及び各リーダーのコーチングセミナー参加 動物病院接遇コンサルタント契約
人材育成策	(1) 現状の人材育成策 「明るく優しく　笑顔と思いやり」をモットーにしている。 ・ 全体；毎月のリーダーミーティング、トップリーダー研修参加、 毎月の定期レポート提出（自己評価と他人の評価） 毎朝の朝礼（職場の教養読み合せ、 10 分間スタディで学術や CS についての話） 年始ミーティングと個人面談、 賞与前試験での質問（自己評価と目標設定） ・ 獣医師；外部セミナー、岐阜大研修、院内セミナー開催 ・ VT；隔月の学術セミナー ・ 院内セミナー ・獣医師　伝達講習 ・ビジネスマナーセミナー　毎月開催 ⇒担当を決め発表　夜業務外　メーカー支援も 日創研：定期レポート：良かったことを書き合う。評価されると嬉しいもの。自分では気づかないことをコメントさると、もっとこうしていこうと人は思うもの。 開業当時に理念と経営勉強会に誘われる。異業種交流会への参加。 目標管理制度までしっかりやると皆が引いてしまう。理念の唱和。
	◎今後の方向性 １.５次診療病院でいい。規模は倍にしていきたい。 全体を引っ張るスタッフリーダーは看護師がいい。その下に各部門のリーダーを置く。

	獣医師はいつまで居てくれるか分からない。また、獣医師だけで固めると、上下感が出てしまう。患者に一番近いのは看護師なのでまとめ役は看護師がいい。 まだ組織発展の過渡期なので、マナジメント的なコーチングとリーダーシップ研修を行っていきたい。 (2) 今後の教育（管理職） ・ 病院経営、運営の知識（病院の負担と院長の意志や思いを理解してもらう） ・ 労働基準法と労務管理に関しての正しい知識（ES 向上と病院の負担を理解してもらう） ・ コーチングスキル（コミュニケーションのために獣医師には必須） 獣医師は一方通行にスタッフに対して　直ぐ結論を出してしまう。 ・ 管理職教育（病院運営に必須） ・ 理念教育（スタッフの意思統一や方向性一致に必要） ・ ドラッガーのマネジメント（経営の勉強に非常に良い） リーダーの条件 高木看護師・・・現場の声を感じて成長させる　改善させること 関塚看護師・・・声をくみ取って上司に伝えること　病院の中で間の架け橋なること。 ・看護師の新たな役割 動物病院は既にピークを過ぎている。自分のところで出来ないときは他に回す。自分に責任がでは困るので回す。高度医療センターへ。 医療過誤の問題も。犬一頭１５年で３００万円で全額自己負担。そんなカネを払えなくなっている。 そうしたことをコントロールできるのは看護師である。
	(3) 専門学校カリキュラムへの要望 ・ ビジネスマナー ・ お金の大切さや時間とお金の感覚 ・ 病院経営 ・ コーチング理論 ・ 接遇教育 スタッフのことを考えれば考えるほどジレンマ 若い時は会社の利益と言う考えはない　せめて簿記レベル

	基礎教育が足りず、レベルが上がった時ついてこれなくなってしまう。 ２０歳の彼らに職業意識をどう教えるか。長期で働く意識を持たせることが出来るかどうかが課題。 ５年後簿記　１０年後人事というようにキャリア教育を
管理・監督層の皆様の現状業務・役割	階層別研修の対象・・・勤続１０年位が対象。規模は１０人以上。その位にならないと長期雇用を目指さない。１億５千万円が分岐点。 (1) 階層毎の役割，能力の期待 ・ 部門リーダー； 仕事に対する責任感と部門をまとめるリーダーシップ 報告連絡を密にした中間管理 病院長の意図と意志を伝える存在 患者様の気持ちを吸い上げ，反映させる提案をする ・ サブリーダー（現在無し）；リーダーの補助 リーダーになる為の勉強 新人教育 １０年目・動物病院リーダー育成教育 ・動物病院業界の動向とその経営課題 ・動物病院リーダーの役割と心構え ・リーダーシップとマネジメント ・病院長の意思と意図を伝える　ビジョン・方針展開力 ・スタッフのやる気を引き出し成長させるコーチング力 仕組み・仕掛けを考える ・上下・左右のコミュニケーション力 ・業務の無駄を発見し改善・工夫する　システム化力 ・損益概念を持つ　コストマネジメント力 ・患者満足を目指すＣＳマーケティング力 ５年目・・・ ・スタッフのやる気を引き出し成長させるコーチング力 ・報・連・相 ・問題を発見し解決・改善する　ソリューション力 原因結果系問題解決　課題設定型問題解決

	・顧客満足を目指すＣＳ力 ３年目・・・躾の仕方が分かる １年目・・・ビジネスマナー　挨拶がしっかりできる
	(2) 部門ごとの業務とリーダーへの期待 部門よりも個人単位で医療外サービスの業務を担当 ・ 獣医部門；　獣医療、ホテルとトリミングの健康チェック 動物看護；　受付、手術助手、ペットホテル、動物看護、入院ケア、清掃，雑務、 獣医師補助、フード管理、トレーニング補助 トリミング；トリミング関連、ホテルケア、獣医師補助、雑務清掃 ・ リーダー業務への期待 自分の部門状況の把握 他部門との調整 問題点の報告 目標の設定と報告 個別の評価 年間キャンペーン企画の発案と運営

オーシャン動物病院の視察結果とその分析

オーシャン動物病院は創業７年目、規模１０名のまさに今回の研修対象とする層である。その院長は

「若いスタッフが中心の職場で、組織だった旧来型の会社にしたくなかった。あなたは役職者だからこうすべきというプレッシャーはかけたくない。役職と言うほどではないがリーダーと言う立場でやってもらっている」

「終身雇用制ならともかく　現状の就業年齢を考えるとピラミッド型にならない。むしろ若いがゆえに特定な人に役職をつけると潰れてしまう危険性がある」

「全体を引っ張るスタッフ・リーダーは看護師がいい。その下に各部門のリーダーを置く。獣医師はいつまで居てくれるか分からず、獣医師だけで固めると、上下感が出てしまう恐れがある。患者に一番近いのは看護師なのでまとめ役は看護師がいいと思う」と述べられ、木俣動物病院と同じような組織観を持たれていた。

「マナジメント的なコーチングとリーダーシップ研修を行っていきたい」と述べられ、これまた同じであった。ただ「『まだ組織発展の過渡期』なので」と述べられた

のだが、業界の組織体制を考えると、この２つの教育がスタッフ・リーダーに対する必然的な、中心的な教育になってこよう。

尚、音成院長からは下記のような明確な階層別の役割と研修を求められた。

	役割と期待
部門リーダー	仕事に対する責任感と部門をまとめるリーダーシップ 報告連絡を密にした中間管理職 病院長の意図と意志を伝える存在 患者様の気持ちを吸い上げ，反映させる提案をする
サブリーダー	リーダーの補助 リーダーになる為の勉強 新人の教育育成

勤務年数に応じた教育内容

１０年目 動物病院リーダー育成教育	・動物病院業界の動向とその経営課題 ・動物病院リーダーの役割と心構え ・リーダーシップとマネジメント ・病院長の意思と意図を伝える　ビジョン・方針展開力 ・スタッフのやる気を引き出し成長させるコーチング力 仕組み・仕掛けを考える ・上下・左右のコミュニケーション力 ・業務の無駄を発見し改善・工夫する　システム化力 ・損益概念を持つ　コストマネジメント力 ・患者満足を目指すＣＳマーケティング力
５年目	・スタッフのやる気を引き出し成長させるコーチング力 ・報・連・相 ・問題を発見し解決・改善する　ソリューション力 原因結果系問題解決　課題設定型問題解決 ・顧客満足を目指すＣＳ力
３年目	躾の仕方が分かる
１年目	ビジネスマナー　挨拶がしっかりできる

最後に、木俣院長の推薦先であり、オーシャン動物病院音成院長の元勤務先であるシートン動物病院を視察させていただいた。

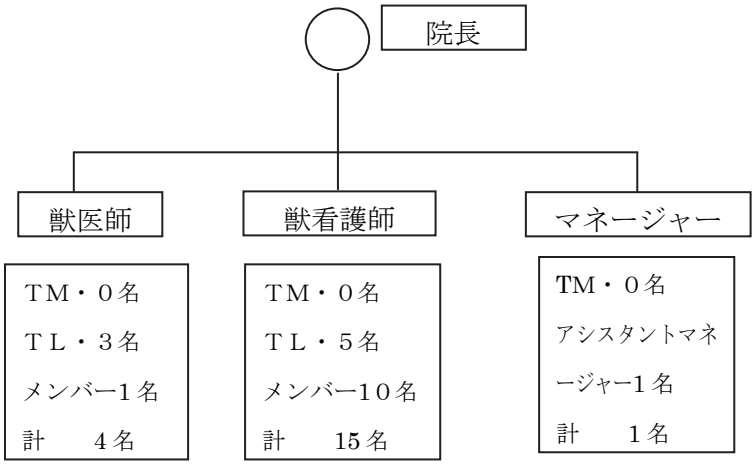
（3）シートン動物病院ヒヤリング調査報告

〒 940-0086　新潟県長岡市西千手 2 丁目 6-13

URL　http://seton.jp/index.html

訪問日：平成２５年１２月１１日（水）

面談者：院長・長部善憲氏　アシスタントマネジャー・長部由惟氏

調査項目	ご回答
組織の概要	◎組織体制・組織図 ＪＡＨＡ日本動物病院協会　ＡＨＡアメリカ・・・ 
沿革	◎病院創設から現在までの沿革 ⇒我々の業界には枯れてきている病院もあれば、毎年右肩上がりの成長を続けている病院も存在する。 私が開業した昭和 55 年の頃は技術力さえあれば安定した経営が可能であった。しかし、あれから 30 数年が経過し、動物病院を取り巻く環境・価値観の変化に伴い、技術力だけでは安定した経営が成り立たない時代に突入している。 数名のスタッフと供に開業しワンマン経営でうまくいっていた時代、次にスタッフの増加に伴い発生した労務問題で頭を抱えていた時代、そして自分が一歩引いた状態でスタッフたちが先頭に立ち、テキパキと日常業務を消化してくれている現在。今思えばスタッフたちのお陰で病院も自分も発展させてもらう事が出来たと考えている。
病院経営上の問題	◎動物病院を経営上の問題とその解決 **⇒開業時から今まで目指してきた方向は「質の高い動物医療の実践」で**

	あった。しかしその内容は年々変わり、技術力だけでなく、複数の要因を加味して考える必要性が出てきている。 **私が今考えている動物医療の質には４つの事がある。** **１、土地建物設備機材の質** **２、診療看護の質** **３、スタッフの質** **４、経営の質である。** １、充分な駐車スペース（一般的に年間売上１千万円につき１台必要)、清潔快適な建物（利用される側、利用する側から)、適切なグレードの医療機器、法令遵守した医療器具の扱い、など快適安心安全なものでなければならない。 ２、診療看護の質に関しては、動物医療の急速な進歩による高度化・専門化がおき、患者さんの要求水準の多様化が求められている現在、結果としての診療成績が最も重要な要素の一つではあるが、その経過も重要視さる。診断治療のプロセスの良し悪しが結果に影響するだけでなく、それぞれの作業も患者さんに評価される時代である。つまり動物病院に入ってから治療が終了するまでの全行程の高い質が要求される。適切な動物医療を行っていくためには、適切な設備だけでなく組織全体のチーム医療が重要であり、従事者の質の向上つまり教育研修の充実など、それを保障するための明確な基準も必要になる。 ３．スタッフの質・・・人材育成策参照 ４、経営の質とは動物病院全体の総合的質であり、組織管理（人事労務、施設設備、環境)、財務、スタッフの能力（技術、接遇）患者満足度が含まれる。 経営とは有限の資源を活用して組織の目的を達成するために行う活動であり、これを運営管理するためには就業規則、人事考課制度をはじめとした仕組みやルール作りが必要である。 また組織が持続的に成長していくためには、顧客満足度調査、従業員満足度調査などの客観的評価を行い、組織的な改善活動を行っていく必要がある。

人材育成策	◎現状行っている人材育成策 ⇒３、スタッフの質に関しては、人的資源は組織の役割を果たすために最も重要な経営資源の一つと考えることができる。人間は仕事に積極的に取り組み自分の仕事の問題課題を解決することを通して自らを成長させたいと考えている。スタッフの意欲が向上し組織としての効率もあがるような人事考課による処遇、教育、建設的組織文化を構築しておく必要がある。 スタッフのモチベーションを上げ、働きやすい組織に築き上げたいという思いは開業当初から持ち続けていた。 より良い動物病院にするためには何から手つけたら良いのか？ぼんやりとした不安の中で出会ったセミナーがベティン先生のリーダーシップ理論であった。それまではリーダーシップとは一方的に人に影響を与える事だと思っていた。しかし、現代のリーダーシップは皆が強く惹かれるビジョン・価値観を共有し、チームとしての協力・信頼の風土を築き上げていく事だと知った。自分たちの動物病院は何のためにこの社会に存在するのか？何を誇りに喜びとして働いているのか？すぐに答える事が出来ない自分がいた。衝撃であった。今まで日々の診療活動の中で、そこまで掘り下げて考えた事が無かった。出発はここから始めなければならないと強く心に念じた。 ２００５年６月、心を新たに改善活動の再スタートをきる事にした。最初に着手した事は、組織の方向性・価値観の共有であった。「ミッション・コアバリュー・ビジョン・行動指針」の作成である。 この当時のシートン動物病院の組織は承認・伝統・依存・逃避・権力・対立・完璧の所が強く、建設的文化（達成・自己実現・人間性促進・提携）が低い事が判明した。この組織文化を変えなければスタッフ達が自ら率先して提案や行動を起こしてくれないし、言われた事しか出来ない集団で終わってしまう。 では、なにをどのようにすればいいのか？気づいたのはダイナミックリーダーシップ理論を実践するしかない！ということであった。つまり、個々の能力が最大限発揮でき、自然とチームが形成され、コラボレーションするような仕掛けが必要だということであった。そこで、ＤｉＳＣ

	解析、みほこボード（認める、褒める、肯定する）・スキルアップボード・魔法の鏡・ビジョンストーリー発表会・Aware　Board・改善の窓・ＰＤＣＡボードなどのダイナミックリーダーシップ理論が浸透する活動を行った。その甲斐あって、今はスタッフ全員の心が同じ方向を向き、思い描いてきたビジョンの姿がより鮮明に見えてきている。 【行動指針の掘り下げとストーリー発表会】この方法は楽しく、そしてわかりやすく、行動指針がどういうものであるか理解するには良い方法であったと思います。 そして、プラスαの効果もあったように感じます。個人で掘り下げるだけでは難しく感じたり、各自の納得で終わったかもしれません。しかし、チームで話し合うことで、相手に考えを伝えるというアウトプットの訓練にもなりますし、チームメンバーの違う方向からの考えに刺激を受ける事ができます。また、連帯感が生まれたようにも感じました。何かに迷った時、行動指針に沿っているか？と考えます。これからもこの考え方を忘れず、スタッフを含め皆に愛される病院である様に取り組んでいきます。 　また、スタッフたちと院長の距離感をなくしていくために非常に参考になったのが、従業員満足度調査であった。多くの要望改善点が明確になった。就業規則の再検討もその一つである。専門家から来ていただき全体ミーティングを開き労働基準法に沿った新たな就業規則を作成した。 　更に、３６０度評価の人事評価制度（写真）作成も現在の病院の経営基盤の一つといえ、半年かけて当院独自の評価制度を作成した。
	◎今後の教育策
	◎専門学校時代にこんなことを学ばせておいてほしいということがありましたらお教えください。 　「経営品質」＋「リーダーシップ論（ベティン・メソッド」 　専門学校でも経営学、マナーも教えているが、身に迫ったものでないので身についていない。だからこそリカレント教育が必要でその流れを提案することも必要。
管理・監督層の皆様の現状業務・役割	◎階層ごとにどんな役割・能力を期待されていますか。 期待する教育 　挨拶　敬語の使い方・言葉づかい　電話応対　応対マナー 　人間性教育　患者の心のケア

	病院が１０人以上の規模になったら、院長だけでは経営できない。マナージャークラスの職員が必要になる。

シートン動物病院の視察結果とその分析

シートン動物病院長部院長は「シートン動物病院の経営改善のあゆみ」とした原稿を既に書かれており、事前に読んで訪問するよう要請された。事前にまとめておいたのが上記の表である。

ここで漸くＪＡＨＡのリーダーシップ研修の大元に行きつけた気がする。

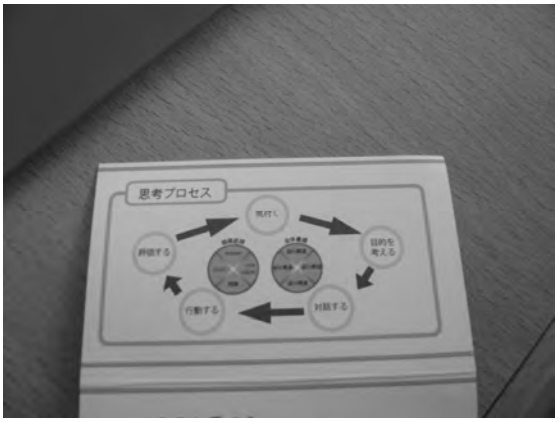
長部院長は「スタッフのモチベーションを上げ、働きやすい組織に築き上げたいという思いは開業当初から持ち続けていた。より良い動物病院にするためには何から手つけたら良いのか？ぼんやりとした不安の中で出会ったセミナーがベティン先生（組織心理学者であるパトリック・ベティン博士（ワシントン大学)）のリーダーシップ理論であった。それまではリーダーシップとは一方的に人に影響を与える事だと思っていた。しかし、現代のリーダーシップは皆が強く惹かれるビジョン・価値観を共有し、チームとしての協力・信頼の風土を築き上げていく事だと知った。自分たちの動物病院は何のためにこの社会に存在するのか？何を誇りに喜びとして働いているのか？すぐに答える事が出来ない自分がいた。衝撃であった。今まで日々の診療活動の中で、そこまで掘り下げて考えた事が無かった。出発はここから始めなければならないと強く心に念じた」

この実践者がＪＡＨＡで最初にグループリーダーシップ論を学んだ木俣院長と長部院長であり、その流れを受けた音成院長であったのだ。

更に長部院長は日本経営品質賞の中身を学習され、「高い顧客価値の提供」「質の高い動物医療の実践」を目指され、経営全体をシステム化され、実践されていることを垣間見ることができた。スタッフには思考プロセスの大切さを説き、ＰＤＣＡを実践させ、その全ての仕組みを通じて「働きやすく　働き甲斐のある職場」を作られ、チームとして人材を育てていた。

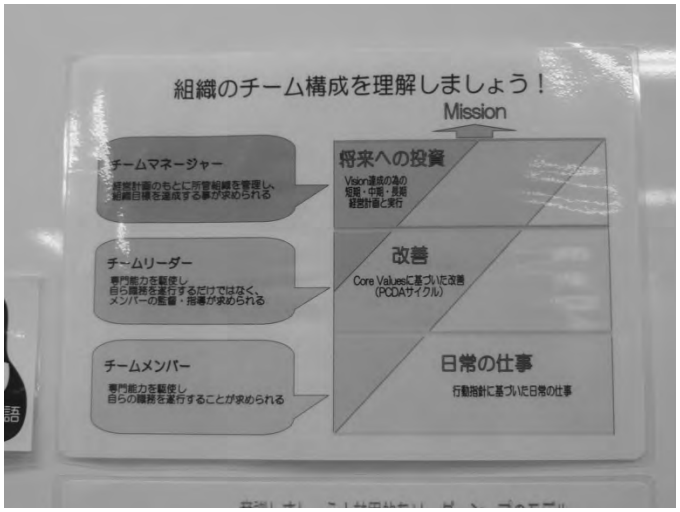
シートン動物病院視察記録　　平成２５年１２月１１日（水）

ミッション（使命）
コアバリュー（核となる価値）
ビジョン
行動指針
思考プロセス
を示し、職員が目指すべき道を説いている。⇒組織の方向性・価値観の共有
ビジョンはマイルストーンとして職員で決めている



思考プロセス
・気づく
・目的を考える
・対話する
・行動する
・評価する

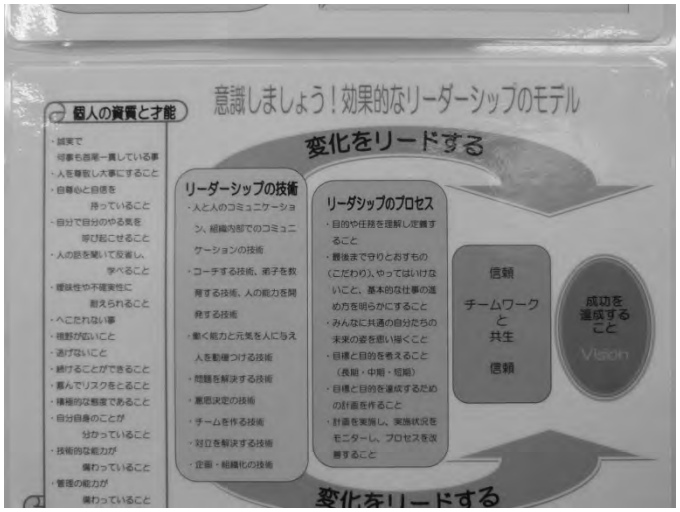
部分最適から全体最適へ
価値前提（ミッション・コアバリュー・価値・ビジョン）



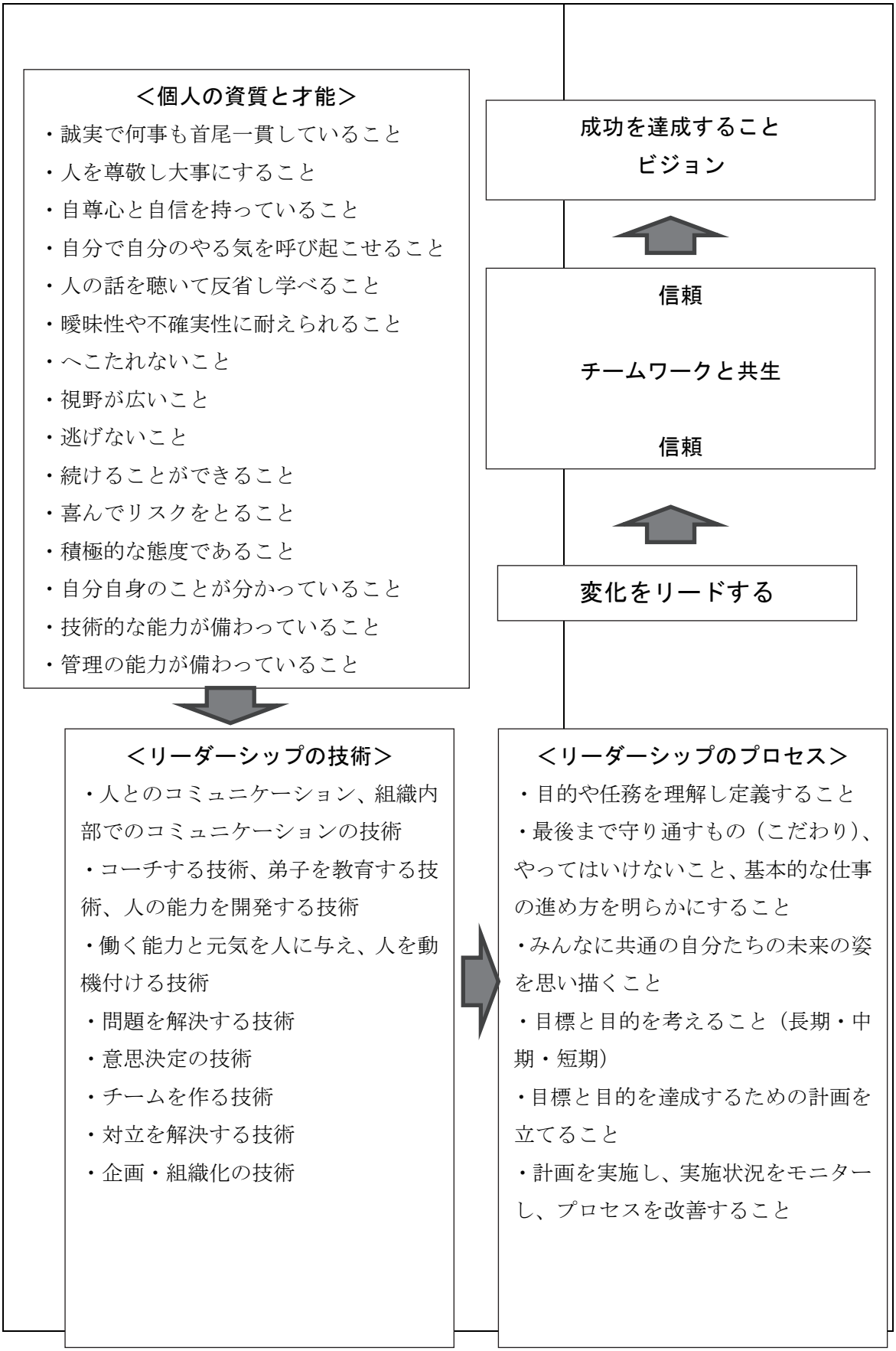
将来への投資・・・ビジョン達成のための短期・中期・長期経営計画と実行
改善・・・コアバリューに基づいた改善（ＰＤＣＡサイクル）
日常の仕事・・・行動指針に基づいた日常の仕事

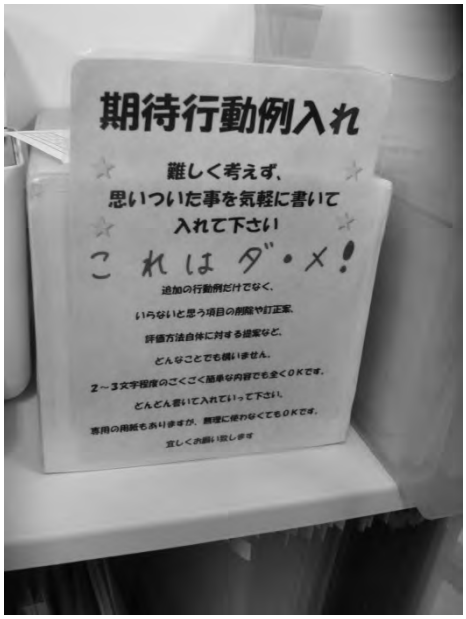
チームとして各メンバーの立場において求められる能力・役割を分かり易く図解している。

チームマネージャー・・・経営計画のもとに、所轄組織を管理し組織目標を達成することが求められる
チームリーダー・・・専門能力を駆使し自ら職務を遂行するだけでなく、メンバーの監督・指導が求められる
チームメンバー・・・専門能力を駆使し、自らの職務を遂行することが求められる



院長はベティン教授のダイナミック・リーダーシップ理論を学習している。
院長は勉強するならリーダーシップ論（ベティンメソッド）と「経営品質（日本経営品質賞)」だと明言する。


＜個人の資質と才能＞
・誠実で何事も首尾一貫していること
・人を尊敬し大事にすること
・自尊心と自信を持っていること
・自分で自分のやる気を呼び起こせること
・人の話を聴いて反省し学べること
・曖昧性や不確実性に耐えられること
・へこたれないこと
・視野が広いこと
・逃げないこと
・続けることができること
・喜んでリスクをとること
・積極的な態度であること
・自分自身のことが分かっていること
・技術的な能力が備わっていること
・管理の能力が備わっていること
成功を達成すること
ビジョン
信頼
チームワークと共生
信頼
変化をリードする
＜リーダーシップの技術＞
・人とのコミュニケーション、組織内部でのコミュニケーションの技術
・コーチする技術、弟子を教育する技術、人の能力を開発する技術
・働く能力と元気を人に与え、人を動機付ける技術
・問題を解決する技術
・意思決定の技術
・チームを作る技術
・対立を解決する技術
・企画・組織化の技術
＜リーダーシップのプロセス＞
・目的や任務を理解し定義すること
・最後まで守り通すもの（こだわり）、やってはいけないこと、基本的な仕事の進め方を明らかにすること
・みんなに共通の自分たちの未来の姿を思い描くこと
・目標と目的を考えること（長期・中期・短期）
・目標と目的を達成するための計画を立てること
・計画を実施し、実施状況をモニターし、プロセスを改善すること



ミッション・行動基準を示し、各人業績目標（お客様とスタッフのために何ができるか、何を課題にするか。）を設定（各人３項目以上）させている。
これを３６０度評価（全員評価）で賞与が決まる仕組み。
その一方で等級制度を設け、人事考課を行っているが、その等級制度の基準となる業績能力を「期待行動」として、自分たちで考えさせている。

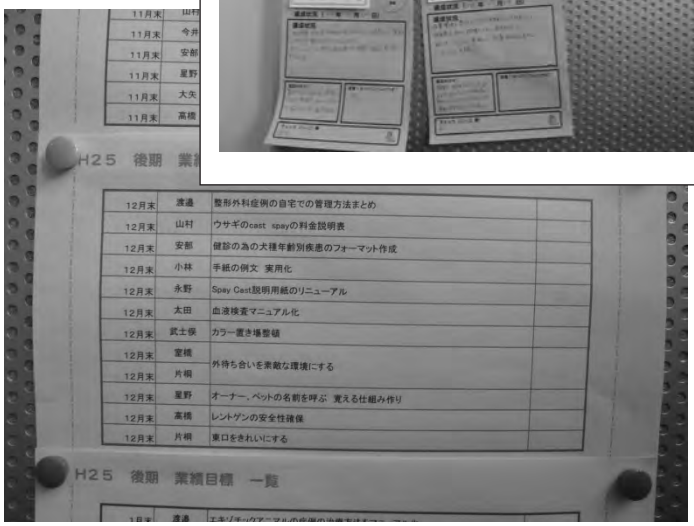
チームリーダーに対して、どんな行動を期待するのか（⇒自分が目指すべきリーダーの行動目標となる）⇒それができているかどうかで評価する仕組み。
評価表には「意欲」「能力」で評価項目が細分化され、定義・期待行動例が示されている。

○期業績目標
「私○○は○○を○○までに達成します」
達成状況が○印で分かるようにしている

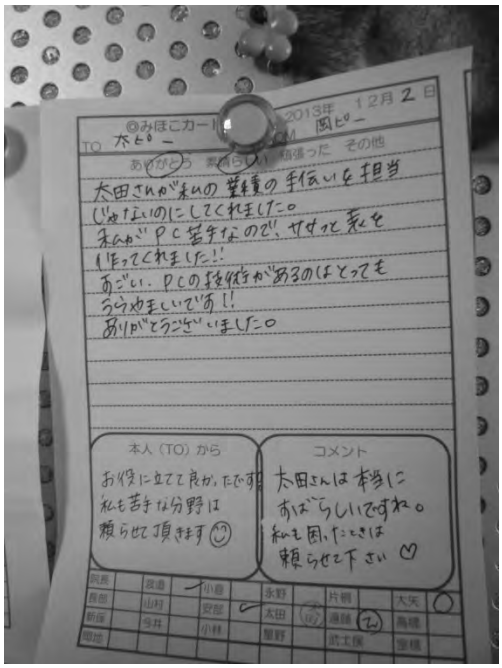
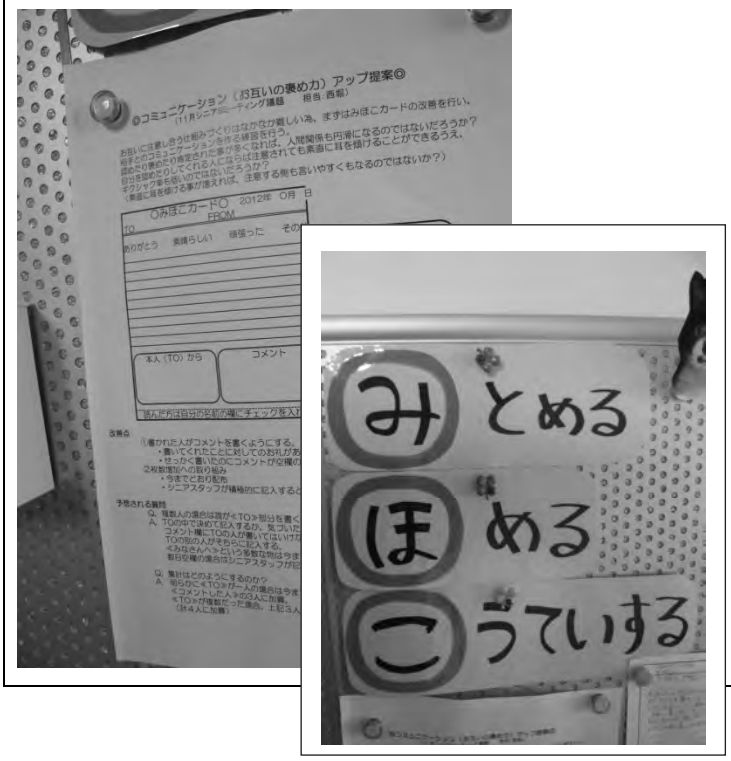
業績目標を達成したものは赤いカードのその状況を書いて掲示する。

「達成日」「達成状況」「成功のカギ」「もっとこうしておけば！」

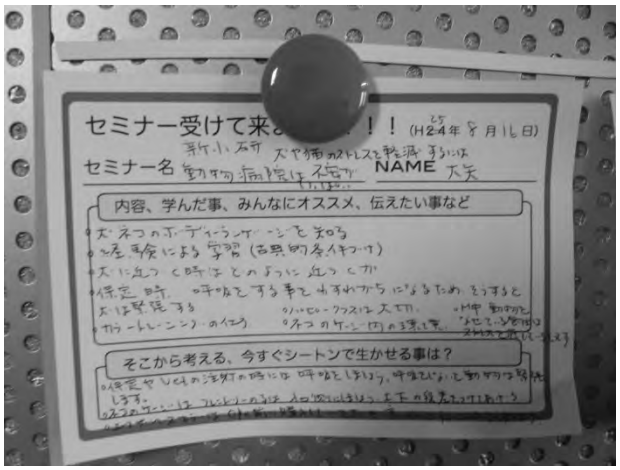
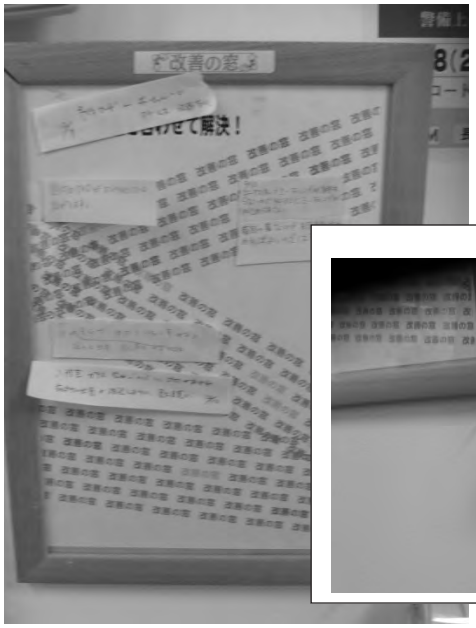
チェック・コメント



課題の一覧表　進捗が分かる

<table>
<tr>
<td> 
</td>
<td>みほこボード（認める、褒める、肯定する）
誰かが良いことをした人の行動について、感謝の言葉を書く。
それに対して本人からの返事と書いた人のコメントを載せ、全員に分かるように表示する。
お互いが認め合い、よい行動を認識し次につなげられるようにする仕組み。</td>
</tr>
<tr>
<td> 
</td>
<td>「コミュニケーション（お互いの褒め力）アップ提案」
みほこカードの目的⇒注意するのは難しい。そこでまずはお互いが認め合い、人間関係を築き、その上で注意し合える関係になろうと呼びかけている。

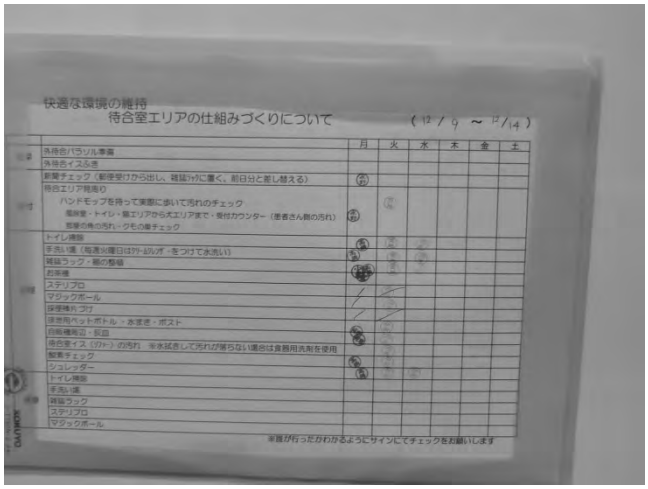
人は感謝されることで人間性を磨くことができるという発想。</td>
</tr>
</table>

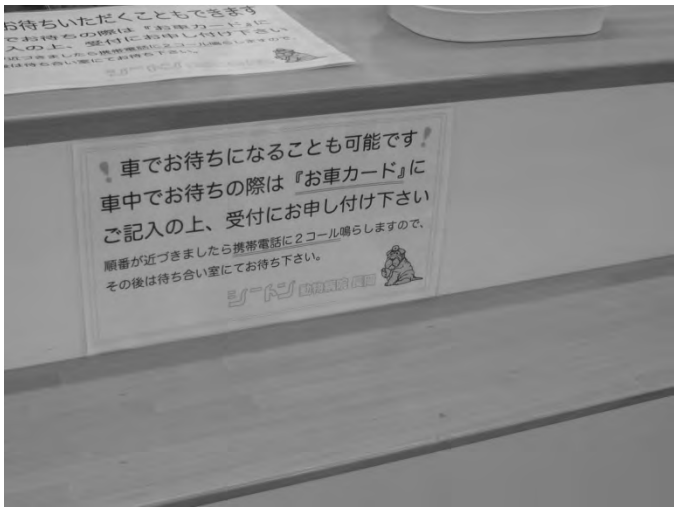
<table>
<tr>
<td> 
</td>
<td>セミナーを受けてきたら報告書を書くというのではなく、みんなに知らせる周知することに重きを置き、「学んだこと」を「自分の組織でどう生かすか」を考えさせ、見える化することで実行させる仕組みになっている。</td>
</tr>
<tr>
<td> 
</td>
<td>思考プロセス
・気づく
・目的を考える
・対話する
・行動する
・評価する

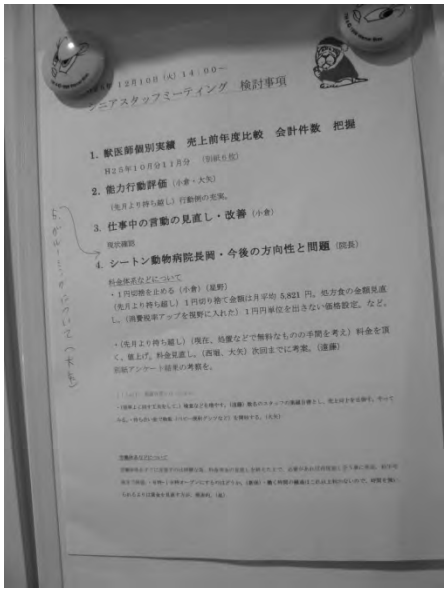
思考プロセスの実践を進める仕組み
①どんな些細なことでも気づいたら先ずボードに書き出す
②毎月、これは改善すべきというものを課題化し、各ペアに配布。
③各ペアは改善案を考え、納期を設定する
④ＰＤＣＡを回し、組織の仕組みにしていく</td>
</tr>
</table>

シートン動物病院
５Ｓ改善例
棚表示・ケースの識別

教育に当たっては最初の段階で身近な改善活動・見える化である「５Ｓ」の学習を行っていた。

	シートン動物病院 ５Ｓ改善例 整然としたカルテ
	シートン動物病院 ５Ｓ改善例 棚表示・ケースの識別
	清掃のチェックリストも一工夫し、「快適な環境の維持」という目的を前面に出している

	シートン動物病院 受付での改善例 来るまで待ちたいというお客のために
	シートン動物病院 受付での改善例 待ち時間がお客に分かるようにしている
	申し伝えミスの防止策

	自分たちが出られない会議の中身も全員が分かるようにしている。同時に事前に検討課題が明示されている。
	マニュアルも業績目標に入れ自分たちで開発している
	職員用の書物は 思考技術 ファシリテーション コーチング ＯＪＴ部下育成 顧客満足ＣＳ コンセプト　プロデュース論 ビジョン実現 見える化 業務改善など

OJTで部下が面白いほど育つ本 一瞬で「自分の夢」を実現する法 その時、会社が動いた 働く理由 人生の棚卸し術 上司はひと言 明るい病院改革 チーム ハックス	
CONCEPT LIFE コンセプトライフ 柴田陽子 ドラッカー経営ツボがよ〜くわかる本 超訳ニーチェの言葉 ものの言い方 キャビンアテンダントのおもてなし 上司はひと言 明るい病院改革 チーム ハックス	

1.3. マネージャー養成プログラムの検討（試案）

動物病院は業界としては歴史が長い。しかし、ペットブームで急増した最近の病院はその組織陣容と求められるホスピタリティ性から、若い女性が多く、女性がリーダーとなる職場にならざるを得ず、その経営はワークバランスも考え、「働きやすく、働き甲斐のある職場」を目指さなければならない。つまり、最近の動物病院はある意味で我が国の中で先端を行く経営・マネジメントが求められているとも言えるのではないだろうか。

これから行うマネージャー研修は階層別研修にお決まりの「リーダーシップ、マネジメント、部下育成」研修でも、従来のピラミッド型組織を想定したものとは異なるチームとしての自律性、一人一人の自主性が強く求められるものになるに違いない。

本分科会の使命からすると、ペット産業であるが故、新たな時代の「マネージャー研修＝階層別研修」の開発が求められていると言えるのではないだろうか。

以下、これまでの視察調査に基づき検討した結果として、ペット産業の中核である動物病院を対象としたマネージャー・リーダー等階層別研修（試案）を提案する。

尚、規模が１０人を超え、２０～３０人規模では院長の片腕としてスタッフ部門として「マネージャー」が必要になるとのことなので、「マネージャー」はスタッフ部門のリーダーを指し、通常の「リーダー」は獣看護師などのリーダーを指すことにする。

動物病院におけるマネージャー・リーダー等の階層別研修（試案）

狙いとする動物病院	想定する組織
スタッフ数１０名程度 開　業：３年～５年位	若い女性スタッフが多いフラット型の組織の中で、チーム医療により質の高い医療・サービスを目指す動物病院

対象となる階層 ・勤務年数（目安）	役割・	求められる能力	考えられる教科
マネージャー ：１０年	◎院長の片腕として、リーダーシップを発揮し、病院全体のマネジメントを行う ◎人事労務管理を行うこと スタッフのライフワーク・バランスを取る環境づくり ◎スタッフの教育を行うこと ◎マーケティング・プロモーションを行い、病院の発展に貢献すること ◎財務管理を行い、健全な経営を行うこと。	・病院経営・運営に関する知識を有し、実践できること。 ・病院長の意思と意図を伝えられること　ビジョン・方針展開力 ・労働基準法と労務管理に関しての正しい知識を持ち、ES 向上を図れること。 ・コーチングスキルを持って、スタッフ育成が出来ること。 ・病院の将来を考え、新市場の開拓、プロモーションができること。	・動物病院の経営とその仕組み ・ビジョン構築 ・創造力養成（新事業開発） ・人事労務管理論 人材育成を目指す評価制度 労働法関係 教育訓練体系の作り方 部下育成（コーチング等） ・リーダーシップとマネジメント ・事業計画の作成 ・マーケティング戦略 ・広告宣伝　ＰＯＰ制作 ・計数管理 ・ＣＲＭと顧客管理　ＣＳ

部門・チーム ・リーダー ：１０年	◎仕事に対して責任感を持ち部門・チームをまとめるリーダー ◎自部門の状況を把握し、他部門との調整・問題点の発見と報告・目標の設定と実行・検証評価を行う ◎院長・スタッフとの調整役として報告連絡を密にし、病院長の意図と意志を伝えるコミュニケーションのかなめ的存在 ◎患者様の気持ちを吸い上げ，病院経営に反映させるべく提案し改善する ◎年間キャンペーン企画の発案と運営	・動物病院リーダーの役割を理解しリーダーとしての心構えを持つこと。 ・リーダーシップを発揮し部門・チーム全体のマネジメントができること。 ・病院長の意思と意図を伝える　ビジョン・方針展開力 ・スタッフのやる気を引き出し成長させるコーチング力 ・上下・左右に対するコミュニケーションができること ・ＣＳ・ＥＳを目指して仕組み・仕掛けを考えられること ・業務の無駄を発見し改善・工夫するシステム化力 ・損益概念を持つこと　コストマネジメント力	・ビジョンづくりとリーダーシップ ・方針・目標によるマネジメント（環境分析～中期戦略課題の設定～重点課題・目標値方策～事業計画書作成～ＰＤＣＡサイクル） ・ソリューション（データ収集・分析　問題解決手法　問題解決＝改善のＣＡＰ・Ｄｏサイクル　） ・コミュニケーション力の養成 ・部下育成（目標管理コーチング等） ・マーケティング戦略 ・顧客満足の向上（ＣＳサークルの実践） ・行動会計（増収増益策　コストマネジメント）
サブ・リーダー：５年	◎リーダーの補助 ◎新人・スタッフの育成	・スタッフのやる気を引き出し成長させるコーチング力 ・報・連・相 ・問題を発見し解決・改善する　ソリューション力 原因結果系問題解決　課題設定型問題	・リーダーシップとマネジメント ・報・連・相の仕方 ・現場の問題解決（問題発見・データ収集・分析　見える化） ・部下育成（コーティング・ティーチング・カウンセリング）

		解決 ・顧客満足を目指すＣＳ力	・５Ｓリーダー養成 ・接遇トレーナー養成 ・行動会計（損益概念） ・クレーム対応の仕方 ・人間性教育　患者の心のケア
一般スタッフ：３年	◎躾が分かり、新人の手本なれる ◎顧客満足向上のため、日常の現場で問題に気付き、直ぐに報告・相談・改善する。 ◎先輩として新入スタッフの相談役になること	・新人指導 ・問題発見と改善工夫 ・クレームに対する初期対応ができること。	・リーダーシップ ・仕事の教え方（作業分解・ティーチング） ・クレームの初期対応 ・カウンセリング ・５Ｓ ・簿記・会計
新入スタッフ：１年	◎社会人としての心構えを持ち、明るく元気に顧客対応・スタッフ対応ができる ◎整理整頓を心がけ、常に明るく清潔な施設をすること	挨拶を始めとして、上司や仲間さらに顧客としっかり応対できること。 電話応対の基本を身につけていること。 仕事上で厳しい状況になっても、決して顔に出さない心構えができていること。	・ビジネスマナー・接遇訓練 挨拶　敬語の使い方・言葉づかい 電話応対　応対マナー ・仕事の教わり方 ・報・連・相 ・お金の大切さや時間とお金の感覚 ・病院経営に関する知識 ・仕事の仕方（品質・コスト・納期・生産性・安全・モラル・ＣＳ）

1.4. 動物・ペット産業のマネージャー養成分科会実施記録

（1）第1回分科会：出席6名（全委員）

① 日時　　平成25年9月3日(火)　１５：００～１８：００

② 場所　　ＴＫＰ虎ノ門会議室　カンファレンスルーム　３Ｃ

〒105-0001　東京都港区虎ノ門 1-19-9　虎ノ門ＴＢＬﾋﾞﾙﾃﾞｨﾝｸﾞ

TEL　03-5919-6536

③ 内容　　検討課題の精査及び確認、実施計画の詳細決定

（2）第2回分科会：出席5名、欠席1名（原大二郎）

① 日時　　平成25年10月10日(木)　１３：３０～１８：００

② 内容　　現場を視察し調査・分析

（責任者としてのマネージャーの役割について）

③ 場所　　現状視察：１３：３０～１５：３０

「視察及び情報収集（医院長・担当者）」

木俣動物病院　木俣　新（きまた　あらた）院長

〒430-0904　静岡県浜松市中区中沢町 8-27

http://www.kimata-ah.com/info/index.html

④ 移動　　検討会議：１５：５０～１８：００「分析及び検討」

専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー

〒430-0943　静岡県浜松市中区北田町 134-38

http://www.rap.ac.jp/

（3）第3回分科会：出席6名（全委員）

① 日時　　平成25年11月12日(火)　１３：３０～１８：００

② 場所　　現状視察：１３：３０～１５：３０

「視察及び情報収集（医院長・担当者）」

オーシャン動物病院　音成伸悟（おとなり　しんご）院長

〒438-0045　静岡県磐田市上岡田 942-4

URL http://www.ocean-ahp.jp/access/index.html

③ 移動　　検討会議：１６：００～１８：００「分析及び検討」

磐田グランドホテル　2F 高千穂の間

〒438-0016　磐田市岩井 2280

URL http://www.iwata-gh.co.jp/

（４）第４回分科会：出席６名（全委員）

①日時　　平成 25 年 12 月 11 日(水)　１３：００～１７：３０

②場所　　現状視察：１３：００～１５：００

「視察及び情報収集（医院長・担当者)」

シートン動物病院　長部善憲（おさべ　よしのり）院長

〒 940-0086　新潟県長岡市西千手 2 丁目 6-13

URL http://seton.jp/index.html

③移動　　検討会議：１５：００～１７：３０「分析及び検討」

長岡グランドホテル

〒940-0066　新潟県長岡市東坂之上町１丁目２番地１

URL　http://www.nagaokagrand.co.jp/

（５）第５回分科会：出席６名（全委員）

① 日時　　平成２６年１月２９日(水)　１３：００～１７：００

② 内容　　「現場視察の調査・分析のまとめ」、「養成プログラムの骨子の検討」

③ 場所　　株式会社緑書房　本社会議室

〒103-0004　東京都中央区東日本橋２－８－３　東日本橋グリーンビル

URL: http://www.pet-honpo.com/

2. カリキュラムの開発について＜動物看護師コアカリキュラム検証分科会＞

2.1. 到達目標となる人材像

本事業では、社会人の学び直しに役立つカリキュラムの検証を目的とし、臨床動物看護学とクライアントエジュケーションの２科目を対象に選んだ。それぞれの科目で到達目標としている人材像は、以下のとおりである。

（１）臨床動物看護学

動物看護師は、獣医師の診断と治療方針のもとで患者動物の援助や飼い主家族を支援できる専門職として、重要な役割を果たすようになってきている。動物看護師が指導する内容をよく理解し、家庭で患者動物に対して実行して貰えることは、その動物が治ることができるために非常に重要なことである。ここで指導教育する動物看護師が家族に信頼してもらえなければ、その教育指導内容をも信頼実行してもらえないことにもなりかねない。動物看護師がその役割を果たすためには、信頼して貰える動物看護師になることがまず必要となる。

そのためには、第一印象を良くし、指導者として信頼できる知識とそれを伝えるコミュニケーション能力と技術を持つことが必要となる。信頼される動物看護師は、観察、記録、コミュニケーション、援助技術ならびに獣医学の種々の知識を身につけているのである。

（２）クライアントエジュケーション

ヒトと動物のより良い共生を目指し、専門職の観点からご家族指導に活かす。今まで学習した専門知識を活用し啓蒙と個別に応じたご家族教育に活かす。ご家族に教育指導する場合には、まずは説明する立場の動物看護師個人を信頼し、耳を傾けてもらわねばその内容を受け入れてもらうことができない。その結果、治療や処置を必要としている動物に適切な処置がなされないまま、動物達は治療が為されないまま、又は適切な生活をすごすことができないまま放置されることになる。

患者動物に直接働きかけるわけではなく、常にその間にご家族が存在する治療となる獣医療の中で、家族に動物病院そのもの、または個人としてのスタッフが信頼されて、コンプライアンスを高められるかということが、直接、動物の福祉にかなった生活や治癒率に結びついていると考えられる。

そのためには、医療人として信頼されるための第一印象を得るための姿勢、ユニフォームの正しい着用、身だしなみ、身なり整理整頓などを心がけた上で、ご家族に受け入れていただけるような知識を蓄積し、その説明能力を身に着けていることが望ま

しい。また、ご家族は個々により環境や能力が異なるため、いかにその家族についての情報を読み取ることができるか、そしてその能力や環境に応じた方法程度を心得て説明できるかも重要である。

2.2. 科目別の目的

（1）臨床動物看護学

人の言葉を話せず、習性や生態もちがう患者動物の心理的な状態を予測すること、看護動物を取り巻く社会的な影響として環境や飼い主家族の特徴をとらえることは、家庭での看護援助を継続して貰うために非常に大切である。ここでは、看護動物や飼い主家族との信頼関係を構築するために臨床の現場で動物看護師として必要となる、観察、記録、コミュニケーション、援助技術ならびに獣医学の種々の知識を身につけることが目的である。

（2）クライアントエジュケーション

患者動物に直接働きかけるわけではなく、常にその間にご家族が存在する治療となる獣医療の中で、家族に動物病院そのもの、または個人としてのスタッフが信頼されて、コンプライアンスを高められるかということが、直接、動物の福祉にかなった生活や治癒率に結びついていると考えられる。ここでは、医療人として信頼されるための第一印象を得るための姿勢、ユニフォームの正しい着用、身だしなみ、身なり整理整頓などを心がけた上で、ご家族に受け入れていただけるような知識を蓄積し、その説明能力を身に着けることを目的とする。

2.3. コマシラバスの作成

次ページ以降に、臨床動物看護学、及びクライアントエジュケーションのコマシラバスを掲載する。

		シラバス(概要)
学科	動物看護学科	動物看護師は、獣医師の診断と治療方針のもとで患者動物の援助や飼い主家族を支援できる専門職として、重要な役割を果たすようになってきている。そのためには動物看護師としての観察、記録、コミュニケーション、援助技術と共に獣医学の種々の知識が必要であることは言うまでもない。人の言葉を話せなず、習性や生態もちがう患者動物の心理的な状態を予測すること、看護動物を取り巻く社会的な影響として環境や飼い主家族の特徴をとらえることは、家庭での看護援助を継続して貰うために非常に大切である。また、動物看護師が指導する内容をよく理解し、家庭で患者動物に対して実行して貰えることは、その動物が治ることができるために非常に重要なことである。ここで指導教育する動物看護師が家族に信頼してもらえなければ、その教育指導内容をも信頼実行してもらえないことにもなりかねない。そのためには、信頼して貰える動物看護師になることがまず必要となる、これには、第一印象を良くし、指導者として信頼できる知識とそれを伝えるコミュニケーション能力と技術を持つことが必要となる。また、患者動物の現在の状況を正しく分析することによって、今後予測される問題を検討し、どんな時にどのような看護を実施すべきなのかを判断しなければならない。(参照:「疾患別動物看護ハンドブック」)
コース	動物看護学	
年度	2013年度	
学年	1年生＋2年生	
期		
ユニット		
科目名	臨床動物看護学 (学生向け・教員向け授業)	
単位		
履修時間	15時間	
回数	15回	
必修・選択		
省庁分類		
授業形態	座学、演習	評価方法
作成者	山下眞理子	①1～10コマ、確認のための小試験(1～6コマでは、3コマ毎に1回×2回、症状別では2コマで1回×2回) 、11～14コマは2コマづつ2回の小試験　②授業後のアンケート
教科書	①疾患別 動物看護学ハンドブック ②今からはじめる 動物看護過程 ③動物看護者の倫理綱領 ④動物看護実践ハンドブック	

コマシラバス				
50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物看護学概論1	1.シラバスとの関係	臨床動物看護学の開始前に1年次の復習として動物看護	①疾患別 動物看護学ハンドブック ②今からはじめる 動物看護過程 ③動物看護者の倫理綱領 ④動物看護実践ハンドブック ⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	動物看護師とは何か？	
		3.コマ主題細目	動物看護概論の中の①動物看護とは？②動物看護の対象の理解③職業としての動物看護師 について考える	
		4.コマ主題細目深度	動物看護とは何か、動物看護過程とは何か、1年生で学習した動物看護学を見直し、復習する。写真を見て、どんな感情を持ったかを書留るところから各自が持つ動物への思いを確認する。それが 看護のイメージへとつながる。看護の歴史をナイチンゲールからひもとき、看護のこころと在り方、専門職としての動物看護師を知る。	
		5.次コマとの関係	動物看護過程の展開を知る	
2	動物看護学概論2	1.シラバスとの関係	臨床動物看護学の開始前に1年次の復習として動物看護について学び直す	①疾患別 動物看護学ハンドブック ②今からはじめる 動物看護過程 ③動物看護者の倫理綱領 ④動物看護実践ハンドブック ⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	動物看護師とは何か？	
		3.コマ主題細目	動物看護を実践する上で必要な観察技術について知る	
		4.コマ主題細目深度	動物看護とは、様々な情報を集積することにより看護過程を展開し、そこで得られた情報から今の問題を知ることによって展開できる。言葉を持たない動物の今と将来を想像する力が必要となる。動物への思いをバラバラに実行するのではなく、その思いをまとめて整理したものが動物看護過程であることの確認。	
		5.次コマとの関係	各自の持っている動物への思いやりが動物看護につながり、動物看護過程の展開につながる	
3	動物看護学概論3	1.シラバスとの関係	動物看護技術の要素とは何か、を知ることにより看護技術について知ることができる	①疾患別 動物看護学ハンドブック ②今からはじめる 動物看護過程 ③動物看護者の倫理綱領 ④動物看護実践ハンドブック ⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	どのステージにも「共通する動物看護技術」の要素	
		3.コマ主題細目	動物看護技術の要素①観察について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	動物看護の基本的な条件は、その動物がその動物らしく健康な生活が送れるように支援することであり、そのためには看護対象の状況を適切に捉える必要がある。このために必要なのが観察力。専門職としての観察技術により、患者動物が必要としている看護は何か？看護対象の状態はどうか？を観ることであり、そのためには正常である時を知っていることが重要で、その他の力を駆使して推測する力が必要。観察することで必要としている看護が見つかる。初めて受診する犬の事例を見て、おきる可能性のある問題点と解決法をグループワークする。動物看護とは？を知った上で動物看護者の倫理綱領について学ぶ.	
		5.次コマとの関係	「共通する動物看護技術」の要素を引き続き学ぶ	
4	動物看護学概論4	1.シラバスとの関係	共通する動物看護技術の要素とは何か、を知ることにより看護技術について知ることができる	①疾患別 動物看護学ハンドブック ②今からはじめる 動物看護過程 ③動物看護者の倫理綱領 ④動物看護実践ハンドブック ⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	動物看護技術の要素	
		3.コマ主題細目	動物看護技術の要素②記録について学ぶ。アセスメントのSOAPモデルが理解できるようになる	
		4.コマ主題細目深度	動物看護に関する知識は通常、経験豊かな動物看護師と獣医師の診療中の動作や会話の中で観察により得られる。観察によるアセスメントを実行し、それを記録として残すことにより看護診断や看護計画に通じる。また、診療の中では看護料として料金をいただける対象ともなり得る。ここでは特にアセスメントのSOAPモデルについて習得できる。アビリティーモデルについて知り、アセスメントや記録に活用できるようになる。動物看護の基本となる倫理綱領について学ぶ	
		5.次コマとの関係	看護を実践する上では技術が大切である。実際の技術を習得すると共に、他者とのコミュニケーション能力をも得ることができるようにする	

5	動物看護学概論5	1.シラバスとの関係	動物看護技術の要素とは何か、を知ることにより看護技術について知ることができる。引き続いて③について知	①疾患別 動物看護学ハンドブック ②今からはじめる 動物看護過程 ③動物看護者の倫理綱領 ④動物看護実践ハンドブック ⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	動物看護技術の要素	
		3.コマ主題細目	動物看護技術の要素③コミュニケーションについて学ぶ。患者動物がよりよく治るためには、飼主家族との関係が大切であるということを知る	
		4.コマ主題細目深度	動物とその飼主家族が健康的な生活を送るれるように援助するためには、対象とのコミュニケーションが重要である。コミュニケーションとは知覚、感情、思考の伝達であり分かち合う、伝達するという意味を持つ。患者動物の治療のためには飼主家族に動物看護師自身を良く理解し、信頼してもらうことが必要でありそのためにはコミュニケーションを取れることが必要になる。専門職として、社会人として必要なコミュニケーション手段を見直し、グループワークをしながら習得できる。	
		5.次コマとの関係	動物看護の基本を復習した上で、看護技術にはどんなものがあるかを知る	
6	動物看護学概論6	1.シラバスとの関係	動物看護技術の要素を知った上で、クライアントエジュケーションについてまなぶ	①疾患別 動物看護学ハンドブック ②今からはじめる 動物看護過程 ③動物看護者の倫理綱領 ④動物看護実践ハンドブック ⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	動物看護師による飼主教育について。	
		3.コマ主題細目	飼主教育（クライアントエジュケーション）について必要なこと。具体的な例をあげて実際を体験する	
		4.コマ主題細目深度	飼主に動物の管理や援助を依頼し、これを継続実施していくことは動物が回復し又は健康を維持ししていくためにとても重要な事である。飼主に指導するために必要な技術について知り、実際の時に臆せず実施できるようになる	
		5.次コマとの関係	基本的な看護精神と技術を知り、症状別の看護に進む	
7	症状別の動物看護1　痛み①	1.シラバスとの関係	臨床的な症状を観察し、それから推測出来る原因や患者動物の今を知ることにより患者動物が安全で安楽な看護	①疾患別 動物看護学ハンドブック ②今からはじめる 動物看護過程 ③動物看護者の倫理綱領 ④動物看護実践ハンドブック ⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	痛みについて。痛みのシステムと意味を知る	
		3.コマ主題細目	痛み。痛みがあるであろう患者動物の様子を観察し原因を推測する。また、その痛み自体についての知識を持つ	
		4.コマ主題細目深度	痛みのメカニズムや分類を知る。痛みがあるのであろう患者動物の観察により、安全な看護を実践するための過程を知るための学習をする。また、痛みの出る疾患を知り、獣医師による診断結果が出た時に理解し現状を共有できるための知識を持つことができる。慢性の高齢犬関節炎は、鎮痛剤のみでなく運動療法などリハビリテーションの技術によっても疼痛管理が可能であることを事例で検討する。	
		5.次コマとの関係	痛みとは何か、どんな様子を表すのかを知って痛みのある時の看護をしる	
8	症状別の動物看護2　痛み②	1.シラバスとの関係	臨床的な症状を観察し、それから推測出来る原因や患者動物の今を知ることにより患者動物が安全で安楽な看護を受けられるようになれる	①疾患別 動物看護学ハンドブック ②今からはじめる 動物看護過程 ③動物看護者の倫理綱領 ④動物看護実践ハンドブック ⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	痛みのある患者動物の看護はどのようにすればよいか	
		3.コマ主題細目	急性痛と慢性痛の違いを知り、それに沿った看護を理解	
		4.コマ主題細目深度	痛みのある患者動物の看護について学ぶ。痛みを表現することが不得手な患者動物に対して、どのように推測し、どこまで自分の痛みとして感じることができるか。断脚をした事例を前にして、術後の痛みの管理、看護師が介入できる援助について考えることにより患者動物の身になって考察できるようになる。慢性痛の代表的疾患を関節炎として事例で検討し、急性痛は断脚後の看護について検討す	
		5.次コマとの関係	次の症状別看護の「かゆみ」、に進む。	
9	症状別の動物看護3　かゆみ①	1.シラバスとの関係	臨床的な症状を観察し、それから推測出来る原因や患者動物の今を知ることにより患者動物が安全で安楽な看護を受けられるようになれる	①疾患別 動物看護学ハンドブック ②今からはじめる 動物看護過程 ③動物看護者の倫理綱領 ④動物看護実践ハンドブック ⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	かゆみから考えられること、皮膚疾患としてのかゆみと脱	
		3.コマ主題細目	かゆみを持つ動物の観察と、かゆみを伴う原因について考え、知識を得る	
		4.コマ主題細目深度	かゆみを伴う疾患にどんなものがあるのか？観察により患者動物の今を知る。また、原因をよく理解した上で獣医師の診断した内容が理解でき、情報を共有できるために知識を学ぶことができる。皮膚疾患の場合には長期闘病になる慢性疾患の看護が必要になるので、家族への教育指導の方法を知ることが必要。	

10	症状別の動物看護4　かゆみ②	1.シラバスとの関係	臨床的な症状の観察と、原因となる疾患の知識を持った上で患者動物が安全で安楽な看護を受けられるようにす	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	経過の長いであろう皮膚疾患の看護について	
		3.コマ主題細目	慢性疾患としての深在性膿皮症についての看護を学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	慢性疾患として経過が長い事が予想される皮膚疾患に対する看護を考える。かゆみを伴う疾患にどんなものがあるのか？家族の理解度を挙げ、患者動物が不快でない生活を送れるような看護を援助できるようにする	
		5.次コマとの関係	主に皮膚疾患としてのかゆみから、慢性疾患の長期看護の大変さを学び、まとめをする	
11	症状別の動物看護5　嘔吐①	1.シラバスとの関係	臨床的な症状を観察し、それから推測出来る原因や患者動物の今を知ることにより患者動物が安全で安楽な看護を受けられるようになれる	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	嘔吐とは？吐出との相違について確認する	
		3.コマ主題細目	嘔吐する患者動物の観察と、そこから発する看護技術に	
		4.コマ主題細目深度	嘔吐のメカニズムや分類を知る。嘔吐がある患者動物の今を知ることにより患者動物が安全な看護をうけられるよう、看護を実践するために嘔吐のある疾患の情報を獣医師と共有できるための知識を持つことができる。消化器系とは？嘔吐とは？吐出との違いとは？	
		5.次コマとの関係	嘔吐のある動物の看護を知る	
12	症状別の動物看護6　嘔吐②	1.シラバスとの関係	症状として嘔吐がある患者動物を想定して看護を学ぶ	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	嘔吐のある症状をもつ患者動物の事例を想定して看護を考える	
		3.コマ主題細目	異物摂取した犬、嘔吐する患者動物の観察と、そこから発する看護技術について学ぶことができる。十分に食べること、飲むことができない動物の看護について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	事例を想定し、その患者動物がアビリティーモデルの中の1十分に食べられるか？飲めるか？身づくろいができるか？を確認しながら看護を実践する。異物が胃内にある犬の看護過程について事例を見ながら検証する。	
		5.次コマとの関係	次の症状別看護の排便異常に進む	
13	症状別の動物看護7　排便異常①	1.シラバスとの関係	臨床的な症状を観察し、それから推測出来る原因や患者動物の今を知ることにより患者動物が安全な看護を受けられるようになれる	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	正常な排便と異常な排便について	
		3.コマ主題細目	異常な排便にはどのようなものがあるのか、その原因と看護について知る	
		4.コマ主題細目深度	異常な排便。下痢、軟便、血便、便秘。小腸性下痢、大腸性下痢。異常な排便を観察し、その原因をよく理解した上で獣医師の診断した内容が理解でき、情報を共有できるために知識を学ぶことができる	
		5.次コマとの関係	異常な排便についての知識を、患者動物の看護に活かす	
14	症状別の動物看護8　排便異常②	1.シラバスとの関係	臨床的な症状を観察し、それから推測出来る原因や患者動物の今を知ることにより患者動物が安全で安楽な看護を受けられるようになれる	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	排便異常のある事例を想定し、それについての看護をまなぶ	
		3.コマ主題細目	排便異常がある患者動物の看護をする時には、栄養学的知識や家での治療としての食事体制を、飼主家族に守って継続して貰えることが必要。	
		4.コマ主題細目深度	ジアルジア感染による下痢が考えられる事例を想定し、この事例から看護過程を実践してみる訓練により、実践できるようになる。人にも影響が考えられる原因があるため、治癒するまで入院が必要となる事例をもとにして看護過程を考えてみる。	
		5.次コマとの関係	事例により看護過程が実践できるようになり、次からの症状に活用できる	
15	症状別の動物看護のまとめ	1.シラバスとの関係	まとめ	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	動物看護概要と症状別看護のまとめ	
		3.コマ主題細目	症状別看護の総まとめ。症状別の看護を通して、改めて動物看護とは何か、を理解し振り返る	
		4.コマ主題細目深度	今回の症状別看護を学習し、改めて動物看護とは何か、どこに着眼して観察し、記録した上で看護技術を活かす。	
		5.次コマとの関係		

学科	動物看護学科	シラバス（概要）
コース		ヒトと動物のより良い共生を目指し、専門職の観点からご家族指導に活かす。今まで学習した専門知識を活用し啓蒙と個別に応じたご家族教育に活かす。ご家族に教育指導する場合には、まずは説明する立場の動物看護師個人を信頼し、耳を傾けてもらわねばその内容を受け入れてもらうことができない。その結果、治療や処置を必要としている動物に適切な処置がなされないまま、動物達は治療が為されないまま、又は適切な生活をすごすことができないまま放置されることになる。 患者動物に直接働きかけるわけではなく、常にその間にご家族が存在する治療となる獣医療の中で、家族に動物病院そのもの、または個人としてのスタッフが信頼されて、コンプライアンスを高められるかということが、直接、動物の福祉にかなった生活や治癒率に結びついていると考えられる。そのためには、医療人として信頼されるための第一印象を得るための姿勢、ユニフォームの正しい着用、身だしなみ、身なり整理整頓などを心がけた上で、ご家族に受け入れていただけるような知識を蓄積し、その説明能力を身に着けることが望ましい。ここでは、それらの順を追って学習する。また、ご家族は個々により環境や能力が異なるため、いかにその家族についての情報を読み取ることができるか、そしてその能力や環境に応じた方法程度を心得て説明できるかが重要である。
年度	2014	
学年	2	
期	前期・後期	
ユニット		
科目名	クライアントエジュケーション	
単位		
履修時間	30時間	
回数	30回	
必修・選択	必修	
省庁分類		
授業形態	座学、グループワーク、模擬プレ	評価方法
作成者	山下眞理子	座学（授業態度・取組姿勢）、グループワーク、模擬プレー
教科書	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻	

コマシラバス				
50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	クライアントエジュケーション概論	1.シラバスとの関係	この学科の全体を知る	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	クライアントエジュケーション概論	
		3.コマ主題細目	クライアントエジュケーションとは何か	
		4.コマ主題細目深度	クライアントエジュケーションとは何か、何故必要か、どのように進めるかの解説をし、今後の授業をスムーズに展開できるようにする	
		5.次コマとの関係	全体を知る前に意味を知る	
2	クライアントエジュケーションに関係用語の意味を知る	1.シラバスとの関係	クライアントエジュケーションとは？を知るための用語について	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	クライアントエジュケーションを知るための用語を知る	
		3.コマ主題細目	クライアントエジュケーションを知るための用語を知る	
		4.コマ主題細目深度	クライアントとは？エジュケーションとは？コンプライアンスとは？クライアントサービス、ホスピタリティー、対人能力、など専門的な用語を理解できるようになる	
		5.次コマとの関係	自分自身を信頼して貰えるために必要なテクニックに進む	
3	必要な情報を集約できる①	1.シラバスとの関係	適切な家族教育をするための情報収集について	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	カルテの情報から必要な情報を集約する	
		3.コマ主題細目	症例資料から、飼主家族教育に必要な情報を読み取る	
		4.コマ主題細目深度	看護対象である動物に対する情報を収集する時には、動物看護過程に沿ったSOAPモデルを活用した方法で実施できる。対象動物自体についての動物像のみならず家庭環境、必要な獣医学的知識や検査結果などをみていく。その中から読み取れる客観的情報と、その裏にある情報を読み取れるようになる。	
		5.次コマとの関係	飼主家族を知るための方法を習得する	
4	必要な情報を集約できる②	1.シラバスとの関係	適切な家族教育をするための情報収集について	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	カルテの情報から必要な情報を集約する	
		3.コマ主題細目	症例資料から、ご家族教育に必要な情報を読み取る	
		4.コマ主題細目深度	家庭環境、動物像、病像、をみていく。その中から読み取れる客観的情報と、その裏にある情報を読み取れるようになる。飼主家族に実施してもらう技術や知識を指導する上で、関連情報をいかに修得整理し、お互いの理解を深めた上で信頼関係を構築できるようになる。事例を用いて、関連図を作成してできるようになる	
		5.次コマとの関係	飼主家族を知るための方法を習得する	
5	クライアントのコンプライアンスの向上①	1.シラバスとの関係	信頼関係を築き、ご家族に教育を受け入れてもらうために	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	クライアントのコンプライアンスの向上	
		3.コマ主題細目	クライアントのコンプライアンスの向上させるためには？	
		4.コマ主題細目深度	コンプライアンスとは？コンプライアンスに影響する要因について。クライアントとはどんな人々なのか？次の観点からクライアントについて考察してみよう。年齢、性別、就労生活、自宅外で過ごす時間数、生活様式の選択肢、家庭内の動物の役割について理解し、クライアントの理解を深めるテクニックを持つことができるようになる	
		5.次コマとの関係	クライアントのレベルを知る	

6	クライアントのコンプライアンスの向上②	1.シラバスとの関係	クライアントの視点を理解する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	コンプライアンスを高めて、患者動物への対応を向上させる	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	クライアントの視点を理解する、動物看護師の役割とは？クライアントの経験を聞き、事例をかんがえてみよう。そして飼主家族との関わりを持つことが可能なテクニックを知ることが出来るようになる	
		5.次コマとの関係	模擬症例を見て、関わり方を考える	
7	クライアントのコンプライアンスの向上③	1.シラバスとの関係	飼主家族の視点を理解する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	事例を用いて架空の飼主家族への対応を考える	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	事例を見て、その事例では獣医師からの説明があったのかどうか、その説明を飼主家族は重要なものと受け止めていたのか、聞いた時の感情を考え、実行できそうな内容であるのかどうか、また、不可能な場合には問題点はどこか、解決方法はどうするか、を考えて一生に頑張りましょうという姿勢を示す。また、開始後は継続確認を確認する。発表できるようなる	
		5.次コマとの関係	院内サービス、クライアントサービスを考える	
8	私達が達成したいものは？	1.シラバスとの関係	動物病院の目標は何でしょうか？	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	私達が達成したいものは？	
		3.コマ主題細目	動物病院のサービス、クライアントの求めているものは？	
		4.コマ主題細目深度	クライアントの求めるものは？・・・これに応えることにより、クライアントの眼には、その病院が何者にも代えがたい存在と映るようになる。その内容について考え、対応できるようになる	
		5.次コマとの関係	クライアントを逃さないようにするためのサービスとは？	
9	ホスピタリティーについて学ぶ	1.シラバスとの関係	相手を教育するためには自分自身を信頼して貰えることが必要	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	ホスピタリティーとは	
		3.コマ主題細目	ホスピタリティーについて学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	全てのヒトに快適に感じてもらえる良い印象の全て。動物病院にはどのようなホスピタリティーが必要か？を考えられるようなる	
		5.次コマとの関係	各自が考える「もしも自分の動物病院だったら」の基礎知識	
10	ホスピタリティーのある動物病院を考える	1.シラバスとの関係	患者動物のご家族に信頼してもらえるためには。	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	ホスピタリティーのある動物病院	
		3.コマ主題細目	動物病院の各種分野のホスピタリティーについて学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	動物病院の各種分野のホスピタリティーについて。①患者動物のための、②飼主家族のための、③スタッフのための④周辺社会　以上4つの分類に対してホスピタリティーを考えられるようになる	
		5.次コマとの関係	各自が考える「もしも自分の動物病院だったら」をつくるための準備	
11	ホスピタリティーのある動物病院を考える「もしも、自分の動物病院だったら」1	1.シラバスとの関係	患者動物のご家族に信頼してもらえるためにはサービスと満足が必要	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	「もしも、自分の動物病院だったら」を考える	
		3.コマ主題細目	「もしも、自分の動物病院だったら」を分野ごとに考える	
		4.コマ主題細目深度	①動物病院のポリシー②名称③患者動物のための④飼主家族のための⑤スタッフのための⑥周辺社会のための、ホスピタリティーについて考え、今後、動物看護師として就業した際に実施できるようになれる	
		5.次コマとの関係	各自の発表をする準備	
12	ホスピタリティーのある動物病院を考える「もしも、自分の動物病院だったら」2	1.シラバスとの関係	患者動物のご家族に信頼してもらえるためにはサービスと満足が必要	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	「もしも、自分の動物病院だったら」を考える	
		3.コマ主題細目	「もしも、自分の動物病院だったら」を発表する	
		4.コマ主題細目深度	①動物病院のポリシー②名称③患者動物のための④ご家族のための⑤スタッフのための⑥周辺社会のための、ホスピタリティーについて発表し、考える。また、クラス全体で共に考え意見を述べることができるようになる	
		5.次コマとの関係	ご家族に教育指導するためにはまず、何から開始するかを考える	

13	飼主家族を理解納得させることができるか （フィラリア予防薬を使用するように説明する）1	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	フィラリア予防薬をすすめる	
		3.コマ主題細目	フィラリア予防薬を納得して利用してもらえるか	
		4.コマ主題細目深度	フィラリアという病気を理解し、その予防の必要性を知った上で、適切な方法で使用してもらえるように説明できるか、予想される質問を前提にして回答を準備する	
		5.次コマとの関係	模擬家族を前にして指導できるようにする	
14	飼主家族を理解納得させることができるか （フィラリア予防薬を使用するように説明する）2	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	フィラリア予防薬をすすめる	
		3.コマ主題細目	フィラリア予防薬を納得して利用してもらえるか	
		4.コマ主題細目深度	フィラリアという病気を理解し、その予防の必要性を知った上で、適切な方法で使用してもらえるように説明できるか、予想される質問を全員で予想し、抽出してどれに回答を準備し、説明できるようになる	
		5.次コマとの関係	次のテーマに進み、他の項目にも挑戦する	
15	飼主家族を理解納得させることができるか （ノミの駆除及び予防）1	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	飼主家族に理解してもらえうるか	
		3.コマ主題細目	飼主家族に、ノミのライフサイクルを説明し、見えているノミだけ駆除ではいけないことの理解を得られるように知識を駆使して伝えられる	
		4.コマ主題細目深度	体に寄生しているノミがいた場合、それだけを駆除すればよいのではなく、ノミのライフサイクルに合わせた駆除と予防が必要になる。何故必要なのか、などを知識として調べる。臨床の場での質問を予想して回答を準備することにより、患者動物の飼主家族の気持ちを理解し、どこがわかないのか理解できるようになる	
		5.次コマとの関係	模擬家族を前にして指導できるようにする	
16	飼主家族を理解納得させることができるか （ノミの駆除及び予防）2	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動
		2.コマ主題	ノミの駆除と予防に必要な知識を確認する	
		3.コマ主題細目	動物病院では実際にどのような方法を使っているか	
		4.コマ主題細目深度	動物病院で実際に使用している薬剤や方法を知り、それを飼主家族にどのようなツールで勧めればよいか、を考えて対応できるようになる。ある飼主が猫を連れて来院した。その猫にノミがついていたため、近所のドラックストアーでノミ取り首輪を買ってつけていたようだが、いまだに駆除できていないしひっかいている。動物看護師として専門的な駆除製品を購入する必要性について、どのように説得できるか。実演してみる	
		5.次コマとの関係	模擬家族を前にして指導できるようにする	
17	飼主家族を理解納得させることができるか （今は健康だが、定期健康診断を受けて貰えるように説明する）1	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	（今は健康だが、定期健康診断を受けて貰えるように説明	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	いつから健康診断をしたらよいか、どんな項目があるのか、何故必要なのか、などを知識として調べる。質問を予想して回答を準備することにより、患者動物の飼主家族の気持ちを理解し、どこがわかないのか理解できるようになる	
		5.次コマとの関係	模擬家族を前にして指導できるようにする	
18	飼主家族を理解納得させることができるか （今は健康だが、定期健康診断を受けて貰えるように説明する）2	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目	（今は健康だが、定期健康診断を受けて貰えるように説明	
		4.コマ主題細目深度	いつから健康診断をしたらよいか、どんな項目があるのか、何故必要なのか、などを知識として調べる。模擬家族からの質問に応える。準備した予想される質問を基に、医学的知理気のない飼主家族に対しても理解してもらえるように考えることができるようになる	
		5.次コマとの関係	次のテーマに進み、他の項目にも挑戦する	
19	飼主家族を理解納得させることができるか （歯肉炎、歯周病がある歯石除去を進める）1	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	歯肉炎、歯周病がある歯石除去を進める	
		3.コマ主題細目	歯肉炎、歯周病がある歯石除去を進める	
		4.コマ主題細目深度	歯肉炎とは？歯周病とは？歯石除去はなぜ必要か？実施するリスクと実施しないリスクは？納得してもらえるように知識を蓄える。出てきそうな質問を予想して抽出し、回答を準備することにより、知識を復習することができる	
		5.次コマとの関係	模擬家族を前にして指導できるようにする	

20	飼主家族を理解納得させることができるか （歯肉炎、歯周病がある歯石除去を進める）2	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	歯肉炎、歯周病がある歯石除去を進める	
		3.コマ主題細目	歯肉炎、歯周病がある歯石除去を進める	
		4.コマ主題細目深度	歯肉炎とは？歯周病とは？歯石除去はなぜ必要か？実施するリスクと実施しないリスクは？納得してもらえるように知識を蓄える。調べた知識を元に、質問に回答することにより、獣医学的知識のない人達に理解して貰えるよう解説することの困難さを知り、分かりにくいことは容易に理解して貰えるような術を習得できる	
		5.次コマとの関係	次のテーマに進み、他の項目にも挑戦する	
21	飼主家族を理解納得させることができるか （♂猫の去勢、♀猫の避妊手術を薦める）1	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	♂猫の去勢、♀猫の避妊手術について調べて知識を得る	
		3.コマ主題細目	飼主家族に手術を進め、理解し実施してもらえるようにす	
		4.コマ主題細目深度	手術について基礎知識を調べ、予想される質問に準備することで外科的、解剖学的知識が復習できる	
		5.次コマとの関係	ご家族に模擬説明体験できるよう準備する	
22	飼主家族を理解納得させることができるか（♂猫の去勢、♀猫の避妊手術を薦める）2	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	♂猫の共生、♀猫の避妊手術について	
		3.コマ主題細目	飼主家族に理解し納得してもらえるようにする準備	
		4.コマ主題細目深度	飼主家族から出る可能性のある質問を予想し、その答えを考えておく。グループで知識を集積し、説明プレーの準備をすることにより、各自がより理解度を深めることができる	
		5.次コマとの関係	飼主家族に模擬説明体験できるよう準備する	
23	飼主家族を理解納得させることができるか（♂猫の去勢、♀猫の避妊手術を薦める）3	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	♂猫の去勢、♀猫の避妊手術について手術を薦める	
		3.コマ主題細目	飼主家族に理解し納得してもらえるようにする	
		4.コマ主題細目深度	飼主家族に説明し、手術してもらえるよう理解を求め、説得できるか。模擬体験することにより実践的な雰囲気と、理解度を深めるための説明テクニックを学ぶことができる	
		5.次コマとの関係	次の課題に進む	
24	ご家族を理解納得させることができるか （狂犬病ワクチン接種の薦め）1	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	狂犬病ワクチンについて調べて知識を得る	
		3.コマ主題細目	ご家族に狂犬病ワクチンを進め、接種してもらえるように	
		4.コマ主題細目深度	ご家族から出る可能性のある質問を予想し、その答えを考えておく。グループで知識を集積し、説明プレーの準備をすることにより狂犬病の知識の復習ができる	
		5.次コマとの関係	ご家族に模擬説明体験できるよう準備する	
25	飼主家族を理解納得させることができるか（狂犬病ワクチン接種の薦め）2	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	狂犬病ワクチン接種を勧める	
		3.コマ主題細目	飼主家族に8種混合ワクチンを進め、接種してもらえるよ	
		4.コマ主題細目深度	ご家族に説明し、接種してもらえるよう理解を求め、説得できるか。模擬体験により実践を体験し、より理解を深めてもらえるような説明テクニックを習得することができるようになる	
		5.次コマとの関係	次の課題に進む	
24	飼主家族を理解納得させることができるか （8種混合ワクチン接種を進める）1	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	8種混合ワクチンについて調べて知識を得る	
		3.コマ主題細目	飼主家族に8種混合ワクチンを進め、接種してもらえるようにできるか	
		4.コマ主題細目深度	飼主家族から出る可能性のある質問を予想し、その答えを考えておく。グループで知識を集積し、説明プレーの準備をすることで基本的知識の復習をすることができるようになる	
		5.次コマとの関係	飼主家族に模擬説明体験できるよう準備する	
26	飼主家族を理解納得させることができるか （8種混合ワクチン接種を進める）2	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	8種混合ワクチン接種を勧める	
		3.コマ主題細目	飼主家族に8種混合ワクチンを進め、接種してもらえるようにできるか	
		4.コマ主題細目深度	大きな災害が発生した後には感染症が広まりやすい。ズーノーシスの中ではレプトスピラの発症が報告されている。また、災害復帰作業時には破傷風が発症する例がいくつかある。ワクチンで予防できるものは動物も人も可能な限りワクチン接種によって予防対策を講じるようにする。飼主家族に説明し、接種してもらえるよう理解を求め、説得できるか。模擬体験により、より実践的な雰囲気を体験し、各自が説明できる術をもつことができるようになる	
		5.次コマとの関係	次の課題に進む	

27	飼主家族を理解納得させることができるか （総合栄養食指導）1	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	総合栄養食指導	
		3.コマ主題細目	総合栄養食指導ができるような知識を蓄える	
		4.コマ主題細目深度	栄養学的知識を復習し、飼主家族からの質問を予想して答えられるように準備することでより深く復習することができる	
		5.次コマとの関係	ご家族に対して回答できるように質問に答える	
28	飼主家族を理解納得させることができるか （総合栄養食指導）2	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	総合栄養食指導	
		3.コマ主題細目	想定した質問を用意し、飼主家族に説明納得してもらう	
		4.コマ主題細目深度	飼主家族に見立てたスタッフ（素人）に動物看護師として説明し、理解納得してもらえ、総合栄養食を使用してもらえるようにする	
		5.次コマとの関係	次回は、1年間の総合まとめに入る	
30	クライアントエジュケーションに関わるまとめ	1.シラバスとの関係	クライアントエジュケーションについてまとめ	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	クライアントエジュケーションのまとめ	
		3.コマ主題細目	クライアントエジュケーションとはどんなことだったか	
		4.コマ主題細目深度	総まとめ	

2.4. 授業シートの作成について

次ページ以降に、臨床動物看護学、及びクライアントエジュケーションの授業シートを掲載する。

XXクラス 授業シート	教科名：「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」コアカリ検証授業 科目名： 臨床動物看護学 第（ / 回） 2013年12月16日	X年X期 X

今日の授業： **動物看護過程の概論１～６**

講師名： 山下眞理子

●シラバス

臨床動物看護学で症状別看護を学ぶ前に、１年生で習得している動物看護学の動物看護過程概論を６コマで復習として学ぶ。ここでは、動物看護過程とは何か、動物看護とは？動物看護の対象を理解し、かつ動物看護師の本来の仕事を再考する。動物看護のイメージを改めて自分の中で思い浮かべ、すべてのライフステージで動物が安楽に健やかに過ごせるように援助することが看護の基本であり、そのためには疾病についての知識、解剖生理学、症状を知ることが必要となる。これらの知識は、獣医療を理解し、看護の対象に理解をよせるために必要な知識となる。

●今日の授業		●キーポイント	
●	１．動物看護過程概論１		導入案内が5分→自己紹介１０分＋講義３５分＋休憩10分
□1	□1：動物看護とは何か？ ① 動物看護の目的 ② 動物看護の対象 ③ 動物看護の方法・技術とは？	□1	動物看護の目的とは、すべての生活ステージにおける、その動物の一生を支えること。個々の動物の状況を理解し、個別性をふまえた看護を行うことであることを理解させることがKeyPoint。また、これを実践するためには「動物看護の視点」で考えることを理解してもらう。看護のイメージの基本は、奉仕する職業であるが、それだけではないことを理解させる。
●	２．動物看護過程概論２		講義５０分＋休憩10分
□2	□2：獣医師と動物看護師の仕事の違いは何か？ ① 獣医師の仕事は、診察・診断・手術・予後判定・獣医師は病気を診る。 ② 動物看護師にしかできないことは、動物の全体を看ること ③ ２０１１年3月の新聞記事に載った福島の犬の写真をスライドで見て、この犬に何をしてあげたいか、という気持ちを書いてみる。	□2	獣医師と動物看護師とでは動物を診る、看ることの違いがあるということを理解させることがKeyPoint。茫然と佇む犬を見てそこで想う事こそが動物看護の心の基本と思う。その基盤となる目的と必要性にについて学びながら、動物看護師に必要とされるもの、求められているものを看護の基本理念を理解できるようにする。アビリティーモデル２００７を基本として推測できるようにする。
●	３．動物看護過程概論３		講義３０分＋確認テスト２０分＋休憩１０分
□3	□3：動物看護過程概論３ ① 動物の看護とは何か、を倫理綱領の中で知る ② 動物看護の基本とは？患者動物、家族にとってどうあるべきか？ ③ 動物看護の目的は？動物看護が必要なのはどんな時でしょうか？	□3	～動物看護の概念とは、あらゆる状態の動物を対象に実施される、ということを理解させることがKeyPoint。あらゆる健康レベルとは、健康な時、病気の時、回復の時、終末期の時を示す。健康とは何かを理解させ、また、その動物が動物らしく生きること、家族が豊かな人生を送る事を支えるものであることを理解してもらえるようにする。観察し推測する力が必要な事を理解させる。動物看護者の倫理綱領を考えることにより、事例を身近に感じながら実感できるようにする。
●	４．動物看護過程概論４		講義５０分＋休憩１０分
□4	□4：動物看護過程とは何か？ ① 観察によるアセスメントを実行 ② 看護問題の抽出、看護診断 ③ 看護計画、計画の実施、評価。症状や環境の変化による評価の違いで、再アセスメントを実施	□4	動物看護過程は、対象を観察し、理解し、看護の目的を遂行するために問題を抽出する過程。看護上のアプローチであることを理解させることがKeyPoint。動物看護の目的とは何か、その動物が安楽に健やかにまっとうできることを目的に実施する。その道筋であり考え方である。SOAPモデルとアビリティーモデルに沿って観察し、目的達成に向かうことを理解してもらえるようにする。
●	５．動物看護過程概論５		講義５０分＋休憩１０分
□5	□5：動物看護技術とは何か？要素とは？ ① 動物とその家族が健康な生活を送れるようにするために援助するには、コミュニケーション技術が重要 ② コミュニケーションとは何か？ ③ 患者動物が治るためには家族の協力が必須である	□5	患者動物が治るためには、家族とのコミュニケーション能力が必須であり、動物看護師を信頼してもらうことによって治療や処置の協力が得られるということを理解させることがKeyPoint。そのためには、第一印象と規制概念的スタイルが大切であることを理解してもらう。すべてのステージに共通して必要な看護技術について理解ができるようになる。

●	６．動物看護過程概論６		講義３０分＋確認テスト２０分＋休憩１０分
□6	□６：動物看護師による飼い主教育について学ぶ ① 動物看護師は、動物が健やかな生活を送ることができるためにどのような事を指導したらよいか ② 信頼してもらえるための技術、知識を持つことの重要性	□６	動物看護学の看護過程のまとめとして、看護過程とそれを実施するために必要な技術、知識などが重要であることを理解させることがKeyPoint。 クライアントエジュケーションの事例を示して考えてみる。

●参照資料

□1	「臨床動物看護学」オリジナルPPT資料「臨床動物看護学；動物看護過程の概論」《P２からP６まで》
□2	「臨床動物看護学」オリジナルPPT資料「臨床動物看護学；動物看護過程の概論」《P７からP２１まで》
□3	「臨床動物看護学」オリジナルPPT資料「臨床動物看護学；動物看護過程の概論」《P２２からP２８まで》
□4	「臨床動物看護学」オリジナルPPT資料「臨床動物看護学；動物看護過程の概論」《P２８からP３３まで》
□5	「臨床動物看護学」オリジナルPPT資料「臨床動物看護学；動物看護過程の概論」《P３３からP３８まで》
□6	「臨床動物看護学」オリジナルPPT資料「臨床動物看護学；動物看護過程の概論」《P３８からP３９まで》

●授業コメント

授業後で実施する学生評価および、受講した教員による授業評価から抽出できる。学生評価は、統計が別紙。

●資格関連度

XXクラス 授業シート	教科名：「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」コアカリ検証授業 科目名： 臨床動物看護学 第（ / 回） 2013年12月17日	X年X期 X

今日の授業： 症状別動物看護：「痛み」「かゆみ」

講師名： 山下眞理子

●シラバス

臨床動物看護においては臓器別の疾患を考えられてきたが、今回は動物が現すであろう症状別の看護について考える。動物たちには言葉がないが健やかな一生を過ごせるように願っている（動物看護者の倫理綱領より）ので、動物看護師はいかにその症状をわが身と感じて看護援助することができるか、を考えながら進む。その症状の原因となっているであろう疾患、獣医師が実施している治療や対処の意味が理解できるよう、代表的な症状を知ることでその動物の近い将来の推測ができるようになれるよう進む。動物看護師はその症状を観察し、主観的客観的情報を収集した上でアセスメントから始められるよう事例で訓練する。

●今日の授業		●キーポイント	
●	1．症状別の動物看護１「痛み」①		導入案内が5分→講義４５分＋休憩10分
□1	□1：痛みについて。痛みのシステムと意味を知る ① 痛みを感じるシステム ② 痛みのメカニズムと分類 ③ 痛みの出る疾患を知り、獣医療の知識を持つ。痛みの持つ意味を知り、痛みが感じなかったらどうなるかを知る。 ④慢性痛を持つ患者動物の看護は？事例で考える	□1	痛みのあるであろう患者動物の様子を観察し原因を推測できるように考えられるようにする。その痛み自体についての知識を持ち、痛みのメカニズムや分類を知る。取らねばならない痛みを知ることにより、安楽な健やかな一生を全うできるよう痛みのない生活が出来るよう援助できるようにする。痛みを表現するのが苦手な動物の痛みの程度を知るのにはどうしたらよいか？特徴的な行動や生理的影響を理解できるようにすること。代表的な慢性痛を持つ疾患として、高齢犬の骨関節炎の事例を見ながら観察、今後の予測、考えられる看護を理解できるようにする。
●	2．症状別の動物看護２「痛み」②		講義３０分＋確認テスト２０分＋休憩10分
□2	□2：痛みのある患者動物への看護にはどんな方法があるか？のまとめ ① 急性通と慢性痛の看護はどう違うか？ ② 急性痛を持つ患者動物の看護は？事例で考える	□2	また、急性痛の最たる疾病として団脚をした犬の事例を見ながら、観察と問題抽出、看護診断と方法を学ぶ。痛みについて、2回分の確認テストを実施する。
●	3．症状別の動物看護３ 「かゆみ」①		講義５０分＋休憩１０分
□3	□3：かゆみのある患者動物への理解をする ① かゆみから考えられること ② かゆみを持つ疾病を知り、獣医療の場での理解が増すようにする ③ 皮膚の定義、解剖生理学、機能を知る	□3	かゆみや脱毛、皮膚疾患の代表的な症状を持つ疾病にはどんなものがあるのか？観察により患者動物の今を知る。また、原因をよく理解した上で獣医師の診断し多内容が理解でき、情報を共有できるために知識を学ぶ。長期経過を有する皮膚疾患の家庭での看護について、教育指導できる内容を理解できるようになる。
●	4．症状別の動物看護３ 「かゆみ」②		講義３０分＋確認テスト２０分＋休憩１０分
□4	□4：慢性疾患として経過の長い皮膚疾患の看護 ① かゆみを持つ疾患の事例を見て看護過程を考える ② 慢性疾患時の長期関与する家族への指導 ③ 皮膚疾患の看護援助技術を知る	□4	代表的な皮膚疾患の名前をあげ、代表的な症状を知る。事例を踏まえて看護方法を理解できるように指導する。家族の理解度をあげ、患者動物が健やかで安楽な生活が出来るように看護援助技術を考える。 かゆみの確認テストを実施する。
●	5．症状別看護のまとめ		講義５０分＋休憩１０分
□5	□5：症状別看護のまとめ ① 動物看護の基本である看護過程を振り返りながら症状別看護を考える ② コミュニケーションとは何か？ ③ 患者動物が治るためには家族の協力が必須である	□5	患者動物が治るためには、家族とのコミュニケーション能力が必須であり、動物看護師を信頼してもらうことによって治療や処置の協力が得られるということを理解させることがKeyPoint。そのためには、第一印象と規制概念的スタイルが大切であることを理解してもらう。すべてのステージに共通して必要な看護技術について理解ができるようになる。

●参照資料

□1	「臨床動物看護学」オリジナルPPT資料「臨床動物看護学；症状別の動物看護１”痛み”①」《P１からP１６まで》
□2	「臨床動物看護学」オリジナルPPT資料「臨床動物看護学；症状別の動物看護２”痛み”②」《P１７からP１９まで》
□3	「臨床動物看護学」オリジナルPPT資料「臨床動物看護学；症状別の動物看護３”かゆみ”①」《P１からP１０まで》
□4	「臨床動物看護学」オリジナルPPT資料「臨床動物看護学；症状別の動物看護４”かゆみ”②」」《P１１からP１９まで
□5	

●授業コメント
授業後で実施する学生評価および、受講した教員による授業評価から抽出できる。学生評価は、統計が別紙。
●資格関連度

XXクラス 授業シート	教科名：「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」コアカリ検証授業 科目名： 臨床動物看護学 第（ / 回） 2014年 月 日	X年X期 X

今日の授業： 症状別動物看護：「嘔吐」「排便異常」

講師名：

●シラバス

臨床動物看護においては臓器別の疾患を考えられてきたが、今回は動物が現すであろう症状別の看護について考える。動物たちには言葉がないが健やかな一生を過ごせるように願っている（動物看護者の倫理綱領より）ので、動物看護師はいかにその症状をわが身と感じて看護援助することができるか、を考えながら進む。その症状の原因となっているであろう疾患、獣医師が実施している治療や対処の意味が理解できるよう、代表的な症状を知ることでその動物の近い将来の推測ができるようになれるよう進む。動物看護師はその症状を観察し、主観的客観的情報を収集した上でアセスメントから始められるよう事例で訓練する。

●今日の授業		●キーポイント	
●	1．症状別の動物看護５「嘔吐」①		導入案内が5分→講義４５分＋休憩10分
□1	□1：嘔吐について。嘔吐のシステムと意味を知る ① 動物看護とは？復習し振り替える ②嘔吐とはなにか ③ 痛みのメカニズム ④ 消化器系とは何か、獣医療の知識を持つ。 ⑤嘔吐の持つ意味を知り、吐出との相違を理解する。 ⑥嘔吐の原因となりうる病気を知る。⑦事例を紹介しグループワークの準備をする	□1	嘔吐のある患者動物のアセスメントをし、看護診断、実施ができるように知識を習得する。嘔吐自体についての知識を持ち、嘔吐のメカニズムや吐出との違いを知る。家人不在時に嘔吐の原因となるような事があり、胃内異物を持った犬の今必要な看護計画と、今後おきるかもしれないことを予想できるようにする。嘔吐が症状として出る原因疾患を知り、嘔吐がある時の看護計画を事例で検討できるように、準備する。
●	2．症状別の動物看護６「嘔吐」②		講義３０分＋確認テスト２０分＋休憩10分
□2	□2：嘔吐はあったが、元気で原因が異物摂取、という事例の場合の動物看護過程のまとめ ① ロッキー君のアセスメントから、動物看護過程の流れについて ② 通常の嘔吐とは異なるが、自宅で維持生活するための飼主家族の指導と、今後の予想をする	□2	異物摂取による嘔吐があった事例で検討する。確認テスト実施。回答編はまとめ時に手渡して、解説する。この際には、通常の嘔吐がある疾患時の看護との相違を説明する。
●	3．症状別の動物看護７ 「排便異常」①		講義５０分＋休憩１０分
□3	□3：排便異常がある患者動物を理解をする ① 下痢とは何か？ ② 下痢を症状とする疾病を知り、獣医療の場での理解が増すようにする ③ 消化器系の定義、解剖生理学、機能を知る ④ジアルジアが原因の下痢は感染性のものとして対処する	□3	生後4か月、混合ワクチンの接種が終了している柴犬。下痢の検便の結果ジアルジアが検出され、家庭では子供や高齢者がいるために入院治療をする。このモンド君の情報をアセスメントし、看護問題を抽出して看護診断をする。この場合には、感染性であるということを知り、感染を広めないための看護技術が必要になる。また、生後4か月の子犬なので社会科の時期をケージの中で過ごすことのリスクも考慮する。
●	4．症状別の動物看護８ 「排便異常」②		講義３０分＋確認テスト２０分＋休憩１０分
□4	□4：人にも感染源となる下痢症状の動物の看護 ① 事例を見て看護過程を考える ② 家族への指導 ③ 確認テスト	□4	下痢とは何か、を知る。小腸性下痢と大腸性下痢の相違を知る。それぞれの特徴と今後の対応を予想し、看護過程の展開をする。
●	5．症状別看護のまとめ		講義５０分＋休憩１０分
□5	□5：症状別看護のまとめ ① 動物看護の基本である看護過程を振り返りながら症状別看護を考える ② SOAPモデルを使用して情報の収集を訓練する ③ アセスメント後、看護診断をし、看護計画を立てて実施にうつる。その後は評価をして適切な結果でない時にはアセスメントに戻	□５	患者動物が治るためには、家族とのコミュニケーション能力が必須であり、動物看護師を信頼してもらうことによって治療や処置の協力が得られるということを理解させることがKeyPoint。そのためには、第一印象と規制概念的スタイルが大切であることを理解してもらう。すべてのステージに共通して必要な看護技術について理解ができるようになる。

●参照資料	
□1	「臨床動物看護学」オリジナルPPT資料「臨床動物看護学；症状別の動物看護１”嘔吐”①
□2	「臨床動物看護学」オリジナルPPT資料「臨床動物看護学；症状別の動物看護２”嘔吐”②
□3	「臨床動物看護学」オリジナルPPT資料「臨床動物看護学；症状別の動物看護３”排便異常”①
□4	「臨床動物看護学」オリジナルPPT資料「臨床動物看護学；症状別の動物看護４”排便異常”②」
□5	

●授業コメント
授業後で実施する学生評価および、受講した教員による授業評価から抽出できる。学生評価は、統計が別紙。

●資格関連度	

授業シート

科目名： クライアントエジュケーション
第（ / 回） 2014年1月25日

今日の授業： クライアントエジュケーションについて

講師名： 山下眞理子（学校法人シモゾノ学園）

●シラバス

ヒトと動物のより良い共生を目指し、専門職の観点から飼主家族指導に活かす。今まで学習した専門知識を活用し啓蒙と個別に応じたクライアント教育に活かす。飼主家族に教育指導する場合には、まずは説明する立場の動物看護師個人を信頼し、耳を傾けてもらわねばその内容を受け入れてもらうことができない。その結果、治療や処置を必要としている動物に適切な処置がなされないまま、動物達は治療が為されないまま、又は適切な生活を送ることができないまま放置されることになる。　実行への理解を求める説明が患者動物に直接行われるわけではなく、その間には常に飼主家族が存在する獣医療の中で、家族に動物病院そのもの、または個人としてのスタッフが信頼されて、いかにコンプライアンスを高められるかということが、直接、動物の福祉にかなった生活や治癒率に結びついていくと考えられる。そのためには、獣医療人として信頼されるための良い第一印象が得られる姿勢、ユニフォームの正しい着用、身だしなみ、身なりの整理整頓などを心がけた上で、飼主家族に受け入れてもらえるような知識を蓄積し、その説明能力を身に着けることが望ましい。ここでは、それらの順を追って学習する。また、飼主家族は個々により環境や能力が異なるため、いかにその家族についての情報を読み取ることができるか、そしてその能力や環境に応じた方法程度を心得て説明できるかが重要である。説明内容は、獣医療についてほとんど素人である飼主家族にわかってもらえるよう、平易な言葉で説明するように努め、むずかしいことをわかりやすく解説できる配慮が必要である。信頼関係の構築は、優れたビジネスの中核を担うものだということを理解する。

●今日の授業		●キーポイント	
●	1．クライアントエジュケーション概論	導入案内が25分→講義25分＋休憩10分	
□1	□1：クライアントエジュケーション概論 ① 授業を今後どのように進めるのかを解説 ② クライアントエジュケーションとは何か ③何故必要なのか	□1	動物病院は一つのビジネスであり、動物医療はサービス業である。動物病院は選ぶ立場ではなく選ばれる立場であり、健全な経営無くして良質で健全な診療はあり得ない、ということを理解してもらうのがKeyPoint。それを理解した上で、獣医療の現場では診療対象の動物が最良の獣医療を受けられるためには飼主家族への、適切な指導と教育が必要であることを理解させる。また、動物看護師というプロの視点で発する言葉を信頼して取り上げてもらえるためには、どのような動物看護師であったらよいのか、を理解させる。
●	2．クライアントエジュケーションに関係する用語を知る	講義50分＋休憩10分	
□2	□2：クライアントエジュケーションに関係する用語を理解する ① クライアントとは？ ② エジュケーションとは？ ③ クライアントサービスとは？ ④コンプライアンスとは？ ⑤ホスピタリティーとは？ ⑥対人能力とは？ ⑦コミュニケーションの質を高める3つの方法 ⑧色々な種類のコミュニケーション手段を活用	□2	クライアントエジュケーションを実施するためには、飼主家族と対面して説明できる能力や不快感を与えないためのホスピタリティー、コミュニケーション能力、コンプライアンスの向上などの能力と技術が必要であることを理解させることがKeyPoint。それぞれの言葉を確認しながら進む。
●	3．多角的にアセスメントした情報からクライアントエジュケーションに必要な情報を集約する	講義50分＋休憩10分	
□3	□3：適切なクライアントエジュケーションのための情報収集について ① 動物看護過程展開に沿って情報を集約する ② SOAPモデルの活用 ③ ちょっとしたことから情報を得る方法	□3	対象動物に対する適切な対応を飼主家族に納得してっもらうためには、その家族と動物に関心を持って接し、親身になって接することができるようなることが必要であることを理解してもらうことがKeyPoint。カルテに記載されている情報や対話の中から、その家族とお付き合いしていくために必要となる情報の収集の仕方、そしてちょっとした会話の中から動物看護師を信頼し、親しみを持って対面してもらえるテクニックを理解できるようになる。

●	4．コンプライアンスの向上①		講義２５分＋確認テスト２５分＋休憩10分糞
□4	□4：コンプライアンスを向上させるためには ① クライアントとはどんな人々なのか ② 家族に関する情報 ③ これらを理解した上で関わり方を知る	□4	コンプライアンスとは何かを学ぶ。その上でコンプライアンスに影響する要因について考える。４コマで学んだ内容の理解度を確認するための小テストを実施する。この時点では、解答用紙のみを配布するが、別に回答編を準備しておく。
●	5．クライアントエジュケーションのまとめ		講義５０分＋休憩10分糞
□5	□5：本時のまとめ ① クライアントエジュケーションの意味 ② 動物看護師技術としてのクライアントエジュケーション ③ コンプライアンスについて ④学生評価アンケート実施	□5	飼主家族に選ばれる動物病院として、また、対象動物にとって最良の対応ができるための技術の一つとしてのクライアントエジュケーションとは何かを理解させることがKeyPoint。今後、これらの意識を忘れないようにして次の段階に進めるように興味を失わないよう指導する。

●参照資料

□1 「クライアントエジュケーション概論」オリジナルPPT資料、配布資料
□2 「クライアントエジュケーションに関係する用語の意味を知る」オリジナルPPT資料、配布資料
□3 「必要な情報を集約できる」オリジナルPPT資料、配布資料
□4 「クライアントのコンプライアンスの向上①②」オリジナルPPT資料、配布医療
□5 「本時のまとめ」オリジナルPPT資料

●授業コメント

●資格関連度

2.5. 授業カルテの作成について

次ページ以降に、臨床動物看護学、及びクライアントエジュケーションの授業カルテを掲載する。

XXクラス カルテ	教科名：「成長分野等における中核的専門人材養成の戦ぢ一分野の中核的専門人材養成プロジェクト 科目名：臨床動物看護学 1回／4回　　月　　日	X年X期 X

講師名：山下眞理子　　**臨床動物看護学**

科名：臨床動物看護学　クラス番号：　　氏名：

問題1	動物看護の目的とは？
解答1	
問題2	動物の看護とは何か？
解答2	
問題3	動物看護の基本とは？
解答3	
問題4	動物看護の対象は何でしょう
解答4	
問題5	健康とは？
解答5	
問題6	人の看護婦（看護師）で、動物看護の規範となっている人二名の名前を教えてください
解答6	
問題7	問題６の二名が説いた内容を教えてください
解答7	
問題8	獣医師の職域と、看護師の職域の特徴を教えてください
解答8	
問題9	診療場面での動物看護師の役割とはどんなことでしょうか
解答9	
問題10	飼主家族に対して動物看護師の役割はどんなことがありますか
解答10	

XXクラス	教科名：「成長分野等における中核的専門人材養成の戦ー分野の中核的専門人材養成プロジェクト	X年X期
カルテ	科目名：臨床動物看護学	X
回答編	1回／4回　　月　　日	

講師名：山下眞理子　　**臨床動物看護学**

科名：臨床動物看護学　クラス番号：　　氏名：

問題1	動物看護の目的とは？
解答1	動物看護の目的は、実在あるいは潜在するすべての健康問題に対する動物や飼主家族の反応を、看護上の問題点と判断し、介入すること。動物看護師は、看護の対象である動物と、飼主家族のために常に何ができるかを考える。動物は健康な時でも病院に来るので、あらゆる健康レベルにある動物とその飼主家族に対して看護は行われる。全ての生活ステージにおける、その動物の一生を支えること。個々の動物の状況を理解し、個別性をふまえた看護を行う。（インターズー：事例でやさしく解説　今からはじめる動物看護過程　松原孝子著：参照）
問題2	動物の看護とは何か？
解答2	動物の看護は、多様な環境に生存する多様な動物種を対象として、動物の健康の保持と増進、病気の予防と動物医療の補助に勤め、動物たちが健やかな一生を全うするように援助すること（動物看護者の倫理綱領　参照）
問題3	動物看護の基本とは？
解答3	動物の安全、安楽、自立（自分で生活に必要な動作ができること）を基本とし、個別性を持って看護する
問題4	動物看護の対象は何でしょう
解答4	動物と動物の飼主家族
問題5	健康とは？
解答5	健康とは、完全に身体、精神及び社会的に良い状態（安定）であることを意味し、単に病気でないとか虚弱でないとかを意味するものではない
問題6	人の看護婦（看護師）で、動物看護の規範となっている人二名の名前を教えてください
解答6	①フローレンス・ナイチンゲール　②ヴァージニア・ヘンダーソン
問題7	問題６の二名が説いた内容を教えてください
解答7	①病気を診るのではなく病人を看よ　・観察力がなければいくら献身的であっても無用である ②病人であれ健康人であれ、各人が、健康あるいは健康の回復（あるいは平和な死）に資するよう行動するのを援助すること。その人が必要なだけの体力と意思力と知識とを持っていれば、これらの行動は他者の援助を得なくても可能であろう　・確認ができるだけ早く自立できるように助けることもまた看護の機能である
問題8	獣医師の職域と、看護師の職域の特徴を教えてください
解答8	・獣医師は、病気を診る（診断、治療、処方、予後）　・動物看護師は、病人を看る
問題9	**診療場面での動物看護師の役割とはどんなことでしょうか**
解答9	患者動物が、安全で安心して診療を受けられるために活躍する。①情報の収集により身体的、精神的、環境の問題は何かを考える　②獣医師からの指示を正確に実施できるようにする　③問題点は報告・連絡・相談する　④治療などは計画的に、看護計画に沿って実施　⑤動物をよく観察し、症状や経過を記録・報告・連絡する　⑥個別性を大切にした看護
問題10	飼主家族に対して動物看護師の役割はどんなことがありますか
解答10	①動物への配慮とともに、飼主家族への気遣いも動物看護師の担当分野　②来院時の気持ちを察し、不安、悩み、緊張、恐怖に対応する　③獣医師の説明が理解できているか？　治療方針に納得できているか？　自分の意見を言えているか？　重病とわかってショックを受けていないか？　生活環境に合った指示が出ているか？　指示内容が無理な注文になっていないか？　を観察し対応する

XXクラス カルテ	教科名：「成長分野等における中核的専門人材養成の戦ー分野の中核的専門人材養成プロジェクト 科目名：臨床動物看護学 2回／4回　　月　　日	X年X期 X

講師名：山下眞理子　　**臨床動物看護学**

科名：臨床動物看護学　クラス番号：　　氏名：

問題1	動物看護の視点とはどんなことでしょうか？
解答1	
問題2	動物看護過程を学ぶ目的とは何でしょうか？
解答2	
問題3	動物看護過程のアセスメントの意味を教えてください
解答3	
問題4	アセスメントSOAPモデルの、SOAPについて解説してください
解答4	
問題5	アビリティーモデルに著されている１０項目とはなんですか？
解答5	
問題6	共通する看護技術にはどんなことが挙げられますか？
解答6	
問題7	看護技術の要素にはどんなことがあげられますか？
解答7	
問題8	動物看護師の行う観察とは、どんなことに注意しておこなうのでしょうか
解答8	
問題9	観察するときのポイントをあげてください
解答9	
問題10	第一印象が大切、ということはどういうことでしょうか
解答10	

XXクラス	教科名：「成長分野等における中核的専門人材養成の戦ー分野の中核的専門人材養成プロジェクト	X年X期
カルテ	科目名：臨床動物看護学	X
回答編	2回／4回　　月　　日	

講師名：山下眞理子　　**臨床動物看護学**

科名：臨床動物看護学　クラス番号：　　氏名：

問題1	動物看護の視点とはどんなことでしょうか？
解答1	①その動物の一生を支えること。その動物が、一生涯のライン上のどの時点にいるのか、動物看護師としての観察力で観察し、予測する。　患者動物の問題点を把握する。レベルにあった対応と処置を実施する　②個々の動物と患者家族に合った内容であること。　飼主家族の気持ちを察することができる人、　人とのコミュニケーション力があること、　人との接し方を知っていること　③動物看護師に最も必要とされるものは、眼の前の動物と飼主家族の状況を正しく判断し、どんな動物看護業務が必要とされているか、を考える
問題2	動物看護過程を学ぶ目的とは何でしょうか？
解答2	看護過程とは、看護師が患者に最適な看護ケアを提供するためのアプローチ法という意味。看護過程は、健康レベルを問わず、看護の視点からその患者の問題を分析し、判断して組織的に系統立てて看護を提供、支援するーつの問題解決技法。つまり、看護師が臨床の場で、看護を規則的に一定の筋道で順序立てて、組み立てられるようにと意図された知的な活動。As（インターズー）事例で学ぶ疾患別看護の視点　松原孝子　参照）
問題3	動物看護過程のアセスメントの意味を教えてください
解答3	個々の動物に対して体系的な情報収集や分析を行うこと。看護過程の基本、しっかり行わないと効果的なケアーができない。動物の情報を的確に収集することが重要。特に客観的な情報を得ることが目的。動物の現症を確認することが大切。それだけではなく今の症状の結果、潜在的な問題を推測できることも重要。
問題4	アセスメントSOAPモデルの、SOAPについて解説してください
解答4	S（主観的）どこが悪いのか、ここは通常、飼主や動物から得た関連情報に含まれる。これは目的に繋がる部分（例：下痢が見られたのであれば、下痢を止めることが目的となる）O（客観的）臨床検査と診断テストの詳細な結果、データーなど。A（アセスメント）主観的評価と客観的なデーターに基づいた鑑別診断。観察と情報収集。P（計画）主観的な部分に記載された目標を達成するために治療や実施計画が必要となる。
問題5	アビリティーモデルに著されている１０項目とはなんですか？
解答5	患者動物ができていますか？を問うている。①十分に食べられるか　②十分に飲めるか？　③正常に排尿できているか④正常に排便しているか　⑤正常に呼吸しているか　⑥正常体温を維持しているか　⑦自分で身づくろいし、清潔か　⑧運動能力は充分にあるか？　⑨睡眠や休息を十分にとれていますか？　⑩正常な行動をしていますか？
問題6	共通する看護技術にはどんなことが挙げられますか？
解答6	技術とは、何かをする為の特定のわざ。対象が安全・安楽であり自立という明確な目的を持って実践される専門的なわざのまとまり。
問題7	看護技術の要素にはどんなことがあげられますか？
解答7	①健康な時　②病気の時　③回復の時　④終末期の時　全てにおいて必要になる看護技術は、観察、援助技術、コミュニケーション、記録・報告の技術。
問題8	動物看護師の行う観察とは、どんなことに注意しておこなうのでしょうか
解答8	物事の様相などをありのままに見極める、そこにある種々の事情を推測し、更なることを知ること。どのような事柄で成立しているのか？どんな意味があるのか？　どんな事が起きる可能性があるのか？
問題9	観察するときのポイントをあげてください
解答9	①今の状況をありのままに見る　②その状況が持つ意味を考える　③自分が感じた事（主観）、気がついたことを記録する　④聞いた事、に誤りはないか確認する　⑤この状態の下に潜む意味を考えてみる
問題10	第一印象が大切、ということはどういうことでしょうか
解答10	飼主家族はスタッフが職業人として持っている知識や技術がどの程度のものなのか、をその人の話し方や立ち居振る舞い方によってイメージして判断している。そのため、医療人としてのイメージを崩さないような身なりをしている必要性がある。清潔で信頼できる存在であるため。

XXクラス カルテ	教科名：「成長分野等における中核的専門人材養成の戦ー分野の中核的専門人材養成プロジェクト 科目名：臨床動物看護学 3回／4回　　月　　日	X年X期 X

講師名：山下眞理子　　**臨床動物看護学**

科名：臨床動物看護学　クラス番号：　　氏名：

問題1	痛み、とはどういうことでしょうか？
解答1	
問題2	もしも痛みを感じなかったら、身体にどんな影響がおきるのでしょうか？
解答2	
問題3	「痛い」と感じる機序を教えてください
問題4	痛みの分類をしてください
解答4	
問題5	疼痛管理をする重要性をあげてください
解答5	
問題6	急性痛と慢性痛の特徴をあげてみましょう
解答6	
問題7	慢性疼痛を伴う代表的な疾患をあげ、その看護方法について整理してみてください
解答7	
問題8	痛みによる生理的な変化をあげてみましょう
解答8	
問題9	痛みによる行動の変化をあげてみましょう
解答9	
問題10	急性痛を伴う代表的な例をあげ、その看護方法について整理してみましょう
解答10	

XXクラス	教科名：「成長分野等における中核的専門人材養成の戦ー分野の中核的専門人材養成プロジェクト	X年X期
カルテ	科目名：臨床動物看護学	X
回答編	3回／4回　　月　　日	

講師名：山下眞理子　　**臨床動物看護学**

科名：臨床動物看護学　クラス番号：　　氏名：

問題1	痛み、とはどういうことでしょうか？
解答1	痛みは、皮膚や粘膜、骨膜、内臓の神経終末が刺激されておきる。痛みの情報は、局所から背髄を上行し大脳皮質に至り、痛みとして自覚される。痛みは、身体に加えられた侵害や、体内に生じた異常をすばやく自覚するために必要な感覚。
問題2	もしも痛みを感じなかったら、身体にどんな影響がおきるのでしょうか？
解答2	何をしても痛くない、ということは何をしても平気、ということ。痛い、ということは「そこまでが限界」ということを認識できる。「痛くない」は命の危険。「痛み」は生きていく上でなくてはならない身体が発する非常に重要なシグナル。
問題3	「痛い」と感じる機序を教えてください
	①変換・・・痛覚レセプターは知覚神経末端の侵害受容器、刺激を電気エネルギーに変換　②伝達・・・末端から脳へ。脱分極して電気信号に変換求心性に伝達　③変調・・・刺激の選別。上行性刺激（痛み）全てを受容せず、選別し抑制している　④知覚・・・大脳が痛みを認識。背髄を介して大脳へ伝達処理・解読、痛みの認識をする。
問題4	痛みの分類をしてください
解答4	痛覚は体性痛、内臓痛に分かれる。体性痛は表在痛、深部痛（結合組織、筋・骨・関節）に分かれる。表在痛は速い痛み、遅い痛み（皮膚）に分かれる。
問題5	疼痛管理をする重要性をあげてください
解答5	疼痛は、動物の健康に悪影響を与え、回復能力を妨げる。家族は動物の疼痛緩和を要望している。疼痛管理により、患者動物と家族のQOLを向上させることになる。動物病院に対する家族の信頼が強化され、病院の発展に寄与することとなる。
問題6	急性痛と慢性痛の特徴をあげてみましょう
解答6	①急性痛・・・鋭い痛み。持続は短い。異常を知らせるシグナルであることが多い　②慢性痛・・・4週間以上持続するもの。動物の回復能力を妨げる要因となる。残しておいて良いことはないので鎮痛することが重要
問題7	慢性疼痛を伴う代表的な疾患をあげ、その看護方法について整理してみてください
解答7	骨関節炎。①鎮痛　②動かないことによる痛みの増強があるので関節の可動性をあげる　③制限された運動を維持する　④筋の拘縮を避けるためのマッサージや温シップ（リハビリ）　⑤適度の運動　⑥適切な体重制限
問題8	痛みによる生理的な変化をあげてみましょう
解答8	①心血管系・・・心拍数の増加、不整脈、血圧上昇、低下、血管収縮　②呼吸数・・・呼吸数の増加、浅速呼吸　③消化器系・・・食欲不振、流涎、嘔吐、下痢または便秘　④内分泌・・・高血糖、コルチゾール増加、アドレナリン増加　⑤筋骨格系・・・筋緊張、振戦
問題9	痛みによる行動の変化をあげてみましょう
解答9	異常姿勢（体を丸める、硬直、祈りの姿勢、異常な姿勢）異常運動（歩きたがらない、こわばった歩行、患部をかばった歩行、起立に時間がかかる）異常行動（落ち着きがない、不眠、震え）、声の変化（キャンキャン鳴く、クンクン、吠える）、性格の変化（攻撃的、恐怖、臆病、慰める）、態度の変化（触れられるのを嫌がる、耳を後ろにひく、尾を丸める、尾を振らない、グルーミング異常）排尿排便の変化、食欲の変化（廃絶、現象）、表情の変化（硬直、うつろ、散瞳、横目で見る）
問題10	急性痛を伴う代表的な例をあげ、その看護方法について整理してみましょう
解答10	①断脚術に必要な解剖学を復習しておく　②術前の動物の観察　③飼主家族への説明と慰め　④術中の観察　⑤術後に必要な感染予防の知識や鎮痛剤の知識の確認　⑤疼痛とそれによっておきてくる問題点をあげる　⑥3本の肢で生活できる術を教える　リハビリ、運動療法など。起立と歩行の補助。体重管理のための栄養管理。

XXクラス カルテ	教科名：「成長分野等における中核的専門人材養成の戦ー分野の中核的専門人材養成プロジェクト 科目名：臨床動物看護学 4回／4回　　月　　日	X年X期 X

講師名：山下眞理子　　**臨床動物看護学**

科名：臨床動物看護学　クラス番号：　　氏名：

問題1	かゆい、時の鑑別診断の方法を教えてください
解答1	
問題2	皮膚疾患の看護に必要な知識とはどんなことでしょうか
解答2	
問題3	皮膚の定義を整理しましょう
解答3	
問題4	皮膚の機能について教えてください
解答4	
問題5	皮膚疾患の代表的な症状をあげなさい
解答5	
問題6	皮膚の構造について教えてください
解答6	
問題7	犬に皮膚疾患が多い理由をあげてみましょう
解答7	
問題8	犬の皮膚疾患で多い診断名をあげてみましょう
解答8	
問題9	皮膚疾患は、慢性疾患として長い時が必要です。飼主家族に必要な指導とは？
解答9	
問題10	皮膚疾患に必要な看護技術を整理しましょう
解答10	

XXクラス	教科名：「成長分野等における中核的専門人材養成の戦ー分野の中核的専門人材養成プロジェクト	X年X期
カルテ	科目名：臨床動物看護学	X
回答編	4回／4回　　月　　日	

講師名：山下眞理子　　**臨床動物看護学**

科名：臨床動物看護学　クラス番号：　　氏名：

問題1	かゆい、時の鑑別診断の方法を教えてください
解答1	皮膚がかゆい⇒外部寄生虫の有無⇒有り、は駆虫　ナシはアレルギーを疑う⇒IgE反応性アレルギーがある時にはアトピーを疑う。
問題2	皮膚疾患の看護に必要な知識とはどんなことでしょうか
解答2	皮膚の解剖、皮膚の生理、皮膚の機能、皮膚疾患の原因、症状、皮膚疾患の看護として慢性疾患に対する飼主家族へのサポート。①原因や誘発因子を取り除く②皮膚の保護を図る　③外用薬・内服薬による処置　④分泌物・落屑で不潔になる部分の二次感染予防、⑤病変部の清拭、⑥環境の整備、⑦寝具の素材選択、⑧皮膚回復を促す食事　飼主家族の協力要請
問題3	皮膚の定義を整理しましょう
解答3	暑さ寒さ、紫外線などの物質的刺激や、さまざまな化学物質による刺激、身体内部に侵入して病気を引き起こす多くの微生物の充満している環境の中で生活している動物の体を守っている。
問題4	皮膚の機能について教えてください
解答4	①身体内部を外界の影響から保護すること　②外界についての情報を感覚として受け取ること　③発汗や血流調節によって体温を調節する　④水分や一部の物質を汗として排出すること　⑤水分の過剰な蒸発を防ぐ　⑥皮膚に含まれるメラニンが紫外線を防ぐ　⑦吸収機能（経皮吸収）
問題5	皮膚疾患の代表的な症状をあげなさい
解答5	皮膚炎の症状として、急性湿疹、慢性湿疹。急性湿疹はかゆみが強い。なめる、ひっかくなどで症状が変化する。慢性湿疹は皮膚の肥厚、色素沈着、落屑など。かゆみが代表的。ひっかくことで二次的な感染を起こす。疼痛、発赤、腫れ。ペタペタ感。臭い。脱毛。
問題6	皮膚の構造について教えてください
解答6	表皮、真皮、皮下組織。表皮は角質層、顆粒層、有棘層、基底層。真皮層の中に神経終末、血管、感覚の受容体が存在する。
問題7	犬に皮膚疾患が多い理由をあげてみましょう
解答7	・脂漏していると皮膚上の粘着度が増して、細菌が付着し増殖する。・皮膚上にあるブドウ球菌の数が人の70倍存在している　・舐める、ひっかくによる傷　・被毛があることによる湿度　・被毛があるために異常を発見しずらい
問題8	犬の皮膚疾患で多い診断名をあげてみましょう
解答8	細菌性皮膚炎、表在性膿皮症、深在性膿皮炎、ノミアレルギー性皮膚炎
問題9	皮膚疾患は、慢性疾患として長い時が必要です。飼主家族に必要な指導とは？
解答9	・長期に薬使用が必要になるので、飽きないように継続してもらう　・かゆい様子を見ていると、飼主もいらいらしたりするので、かゆくなった時のケアーの仕方を教え（冷やす、環境を変える、空気を入れ代える、など）・散歩などで気分転換をする　・思いつめないで相談してもらえるようにする
問題10	皮膚疾患に必要な看護技術を整理しましょう
解答10	・外用薬、内服薬を理解する　・薬浴シャンプー剤の理解をする　・皮膚の解剖生理を理解する　・家族に信頼してもらえるような態度で接する

XXクラス	教科名：「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略	O	X年X期
カルテ	科目名：臨床動物看護学 「嘔吐」1回　　月　日		X

講師名：　　**臨床動物看護学**

科名：臨床動物看護学　クラス番号：　　氏名：

問題1	動物看護とはどういうことでしょうか？（復習です）
解答1	
問題2	動物の看護過程の展開とは何でしたか？（復習です）
解答2	
問題3	ロッキー君のSOAPに基づいたアセスメントをしてみましょう
解答3	
問題4	嘔吐と吐出の違いについて述べなさい
解答4	
問題5	消化器系とはどんなものですか？
解答5	
問題6	嘔吐の原因として考えられている病気にはどんなものがあるか？
解答6	
問題7	アセスメントで、どんなロッキー君の生活環境がわかりましたか？
解答7	
問題8	ロッキー君の看護診断で、どんなことが診断されましたか？
解答8	
問題9	ロッキー君の看護ケアーのうち、家族への指導としてしたことはどんなことですか？
解答9	
問題10	今後、ロッキー君に予想されることはどんなことでしょうか
解答10	

XXクラス	教科名：「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略	O	X年X期
カルテ	回答編	科目名：臨床動物看護学 「嘔吐」1回　　月　　日	X

講師名：　　**臨床動物看護学**

科名：臨床動物看護学　クラス番号：　　氏名：

問題1	動物看護とはどういうことでしょうか？（復習です）
解答1	動物の看護とは、その動物がどの動物らしく生きることと、家族（飼主）が豊かな人生を送ることを支えるもの。動物看護に大切なものは、動物と家族を思うこころであり、それが動物看護を豊かにする。対象である動物の健康、不健康を問わず、個体または集団の健康生活の保持増進及び健康への回復を援助する。動物の生命及び体力を守り、生活環境を整え、日常生活への適応を援助し、早期に活動できるように支援する。不幸にして死に臨む時には、平和な死への援助をする。
問題2	動物の看護過程の展開とは何でしたか？（復習です）
解答2	患者動物に対して系統的でホリスティックケアを提供する職業臨床看護の中心になってきているもの。体系的に構成なれたアプローチにより、主として患者動物の身体的ニーズのみに焦点を当て、個々の患者動物の要求を組み入れた一貫性のある看護ケアが望まれる。アセスメント、看護診断、看護計画、ケアの実行、評価、が繰り返される。
問題3	ロッキー君のSOAPに基づいたアセスメントをしてみましょう
解答3	S=いつもより食欲がない、食器を前にして考えている感じがあった、食後のゲップをしていた。一時間くらいして嘔吐した。O=血液検査、レントゲン、エコー、検便、尿検査。レントゲン以外は異常なし。A=胃内異物が停留している　P=このままにして様子を見るか、胃内異物摘出術を実施するか。
問題4	嘔吐と吐出の違いについて述べなさい
解答4	嘔吐は胃腸疾患でもっともみられる一般的な症状。胃内の内容物を口から外に排出すること。本来は生理的な反射・食道や胃に不快感を感じる・嘔吐中枢が刺激される（延髄）・幽門の括約筋が閉鎖・横隔膜、胃の筋が収縮・反射的に胃内容物を口から勢いよく排出。吐出は事前に明瞭な前兆がない。突然に噴出すように排出する。そのため吐物が気管内に入ってしまい誤嚥性肺炎になることがある。吐物は消化されていない。
問題5	消化器系とはどんなものですか？
解答5	摂取した食物を消化、吸収するための器官系。口腔内＋消化管＋膵臓、肝臓。消化管は、口腔から肛門までの一本の管。口・・・・咀嚼、食物を砕く、食道に移送する。食道・・・胃まで移送する。胃・・・・・最初の消化をするところ、酸性の胃液。小腸・・・十二指腸には膵液、胆汁が分泌し消化。大腸・・・大部分が結腸、水分をさらに吸収
問題6	嘔吐の原因として考えられている病気にはどんなものがあるか？
解答6	消化管に問題がおきた時：誤食（人の食事を盗食、ゴミをあさる）：過食：食物アレルギー過敏性：胃腸炎（細菌性、異物、ウイルス性、寄生虫）：閉塞：胃拡張・胃捻転症候群：胃腸運動機能の障害：炎症性疾患（炎症性腸炎、慢性胃炎、潰瘍）：腫瘍
問題7	アセスメントで、どんなロッキー君の生活環境がわかりましたか？
解答7	家族は３人。留守のことが多いのでロッキーにおもちゃを与えているが、よくかじってあるとのこと。医療関係者のため、説明の理解度は高い。治療方針にも協力的。毎日の便観察はできそう。食事は一日２回、減量のためのドライフード使用中。散歩は一日２～３回。トイレは散歩時、室内のトイレも使用できる。トリミングは２か月に一回くらい。おもちゃ大好き。小心者で臆病、いろいろかじる
問題8	ロッキー君の看護診断で、どんなことが診断されましたか？
解答8	。胃内異物の正体は不明であるが、豚のぬいぐるみが怪しい、とわかった。当面は、嘔吐があるためにフードの選択が必要。元気で散歩もできるので、毎日の便を観察し、フードの調整で日常生活を自宅で継続する。繊維素が多く便量を多くし、異物を保護して移動できるかどうか試す。フードの選択と、回数、量の計画を立てる。飼主家族に実施できるよう指導する。今後は、定期的にレントゲン検査に通院してもらって今後を決定する。維持期であるが、今後異物の移動によっては急性期になる可能性
問題9	ロッキー君の看護ケアーのうち、家族への指導としてしたことはどんなことですか？
解答9	飼主家族への指導・・・毎日の便をつぶして検査してもらう。定期的通院
問題10	今後、ロッキー君に予想されることはどんなことでしょうか
解答10	もしレントゲン結果で腸内に移動しそうならば内視鏡も含めて手術を検討する

XXクラス	教科名：「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略	○	X年X期
カルテ	科目名：臨床動物看護学 「排便異常」回／回　　月　　日		X

講師名：　　**臨床動物看護学**

科名：臨床動物看護学　クラス番号：　　氏名：

問題1	下痢とはどういうことか説明してください
解答1	
問題2	小腸性下痢と大腸性下痢を比較してください
解答2	
問題3	モンドちゃんのSOAPに基づいたアセスメントをしてみましょう
解答3	
問題4	犬・下痢症の感染因子を教えてください
解答4	
問題5	感染伝搬の可能性があるモンドちゃんが入院します。看護をする上で問題点をあげましょう
解答5	
問題6	院内感染を生じさせないための看護技術で、今回の事例で必要だったことはどんな事ですか
解答6	
問題7	アセスメントで、どんなモンドちゃんの生活環境がわかりましたか？
解答7	
問題8	モンドちゃんの看護診断で、どんなことが問題点となりましたか？
解答8	
問題9	モンドちゃんの看護ケアーのうち、家族への指導としてしたことはどんなことですか？
解答9	
問題10	今後、家庭生活を送るモンドちゃんに必要な指導はどんなことでしょうか
解答10	

XXクラス	教科名：「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略	O	X年X期
カルテ	回答編	科目名：臨床動物看護学 「排便異常」回／回　　月　　日	X

講師名：　　**臨床動物看護学**

科名：臨床動物看護学　クラス番号：　　氏名：

問題1	下痢とはどういうことか説明してください
解答1	腸疾患でもっともみられる代表的な症状は下痢 下痢・・・水分の多く含まれた便⇒形のある軟らかい便を軟便
問題2	小腸性下痢と大腸性下痢を比較してください
解答2	小腸性：①１回量が多い ②回数が少ない ③脂肪が含まれることもある ④胃・小腸上部消化管からの出血は便が黒色（メレナ）で血便、下血 大腸性：①１回量が少ない ②回数が多い ③「しぶり」の姿勢 ④粘液が混入することもある ⑤大腸からの出血は新鮮血が糞便中に出るため赤色
問題3	モンドちゃんのSOAPに基づいたアセスメントをしてみましょう
解答3	S：家人よりの情報として、１週間前から下痢、少し食欲低下と元気がない O：下痢がある、脱水はどうか、体重は減っていないか、体温は正常か、などのデーター。検便 A：検便によりジアルジア。人への感染可能性があるので入院　P：入院中は感染予防の技術が必要。絶食にはできないので駆虫薬とともに処方されたフードを少量を回数多くして与える。
問題4	犬・下痢症の感染因子を教えてください
解答4	コロナウイルス、ジアルジア 犬パルボウイルス、犬ジステンパーウイルス 犬アデノウイルス ロタウイルス、犬カリシウイルス
問題5	感染伝搬の可能性があるモンドちゃんが入院します。看護をする上で問題点をあげましょう
解答5	ジアルジアの直接感染だけではなく、間接感染を防ぐ必要がある。子犬なので、隔離したままでは運動不足や釈迦性欠如になるのでできれば専用の担当者が看護できるとよいが、人数不足でそれは難しい。ジアルジアは人への感染の可能性があるので、家庭には子供と高齢者がいて、なかなかすぐには退院できないかもしれない。
問題6	院内感染を生じさせないための看護技術で、今回の事例で必要だったことはどんな事ですか
解答6	院内での感染を防御するための技術が必要。感染は、直接感染、間接感染があるので患者動物からの排泄物はもちろんだが、看護する人を介した感染がおきないような注意が必要。入院施設は清掃の手順に従って衛生環境整備する必要がある。そのためには、できれば看護する担当者を決めておき他者が触れないようにする。子犬なので隔離したままでは運動不足や社会性欠如があるので、なるべく担当者がモンドと一緒に遊べるようにする。ジアルジアが検出されなくなるまで入院となるので、食器やタオルなども専用を準備する必要がある。
問題7	アセスメントで、どんなモンドちゃんの生活環境がわかりましたか？
解答7	３週間前に購入してきた。家族は５人、子供、高齢者がいっしょにいる。先住犬も１２歳なので感染させないような管理が必要。退院してもおかあさんは、あまり管理できないので入院中にフードの量や種類、回数などを決めて伝える必要なある。
問題8	モンドちゃんの看護診断で、どんなことが問題点となりましたか？
解答8	人への感染も可能性がある。院内感染を防ぐための看護技術を見直す必要がある。子犬なので入院中の運動不足がある。社会性を身につける時期である。成長過程なので今後のフードの量や種類に指導が必要。
問題9	モンドちゃんの看護ケアーのうち、家族への指導としてしたことはどんなことですか？
解答9	ジアルジアは環境の変化によって繰り返し検出することがあるので、体調管理が必要。定期的な検便が必要なので便を病院に届けてもらう。成長期なので体重を量って、フード量を変える必要があるので病院に連絡をしてほしい。排便は、下痢になったらすぐに連絡してもらう。良い便であっても、子供が触れたりしないうちに即座に始末し、手をよく洗う。
問題10	今後、家庭生活を送るモンドちゃんに必要な指導はどんなことでしょうか
解答10	高齢犬と同居なので、遊びたいモンドちゃんがあまりかかっていかないようにしておくようにする。社会性を身に着ける時期なので、パピークラスを活用していく。定期的な検便をして体調管理に注意する。１歳までと、それ以降ではフードの種類を変更する必要がある。ワクチン接種の指導。

#REF!
授業カルテ

#REF! | #REF!

科目名： クライアントエジュケーション

第（ / 回） 2014年1月25日

講師名： 山下眞理子（学校法人シモゾノ学園）

クライアントエジュケーションについて

解答1	動物病院にとって”クライアント”とは何を意味しますか。クライアントのどんな点を考察しますか。
解説1	
解答2	クライアントサービスの定義を教えてください
解説2	
解答3	クライアントにとってサービスは「ちょっとした出来事」の積み重ねによって成り立ちます。ちょっとしたサービスにはどんなことがあるでしょうか
解説3	
解答4	コンプライアンスの定義を教えてください。
解説4	
解答5	クライアントが求めている８つのこと、を教えてください。
解説5	
解答6	動物看護師が飼主家族から、信頼してもらえるようにするためには、どのようなことに注意したらよいでしょうか。
解説6	
解答7	動物看護過程の展開による情報収集とはどのような技術のことでしょうか。
解説7	
解答8	コミュニケーションの質を高める3つの方法について教えてください
解説8	

解答9	色々な種類の、活用できるコミュニケーションの手段を教えてください

解説9	

解答10	クライアントとの信頼関係を築く助けとなる実践的な方法を挙げてください。

解説10	

#REF!
解答

#REF! #REF!

科目名： クライアントエジュケーション

第（ / 回） 2014年1月25日

講師名： 山下眞理子（学校法人シモゾノ学園）

クライアントエジュケーションについて

科名：クライアントエジュケーション　クラス番号：　　氏名：

解答1	動物病院にとって”クライアント”とは何を意味しますか。クライアントのどんな点を考察しますか。
解説1	動物、飼主家族のこと。そのクライアントがどういう人であるかに注目することが必要。考察する点は、年齢、性別、就労生活スタイル、自宅外で過ごす時間数、生活様式の選択肢、家庭無い動物の役割
解答2	クライアントサービスの定義を教えてください
解説2	クライアントサービスとは、クライアントの期待に応え、期待以上のものを提供する能力のこと。事前の期待より事後の期待のほうが大きいことを感動と言う。事前の期待＝事後の期待は、満足という。人は感動によりその動物病院のファンとなり、ファンがその動物病院を大きく育て、ブランドにしていく。
解答3	クライアントにとってサービスは「ちょっとした出来事」の積み重ねによって成り立ちます。ちょっとしたサービスにはどんなことがあるでしょうか
解説3	もっとも重要な「ちょっとした出来事」はスタッフとの対面時に発生するものであるため、クライアントが良い出来事を体験し、満足して動物病院から帰ることができるようにスタッフが取り組まねばならない。その中には、受付係の電話対応の好感度、待ち時間の短さ、動物看護師の動物へのやさしい気遣い、衛生的な環境作り、飼主家族の行動への興味（荷物を持つ、ドアーを開ける、タクシーを止める、傘をさしかけるなど）
解答4	コンプライアンスの定義を教えてください。
解説4	WHOによるコンプライアンスの定義：「医療提供者からのアドバイスに合意した患者が、どれだけそれに従った行動をとるか（治療薬の服用、食事療法の遵守、生活様式の改善の実施など）」
解答5	クライアントが求めている８つのこと、を教えてください。
解説5	温かさ、心遣い、丁寧さ、能力、コミュニケーション、誠実さ、信頼感、利用しやすさ、環境
解答6	動物看護師が飼主家族から、信頼してもらえるようにするためには、どのようなことに注意したらよいでしょうか。
解説6	動物看護師が、飼主家族に看護指導や保健に必要な知識の指導をする時には、正しく伝えその内容が適切に伝わり理解してもらえるだけの、伝えるカ＝コミュニケーションのカが必要となる。動物病院での飼主家族は、動物看護師より年長者であり、人生経験が豊富であり、社会的にも年長者であることが多いので、その方々に信頼してもらえた上でなければ、発する言葉に信憑性はなく、信頼してもらうことができない。そのことは、動物が健康を維持し、治療を遂行することの妨げとなり、健康で不利益とならない一生を過ごしてもらうことができない事になる。では、動物看護師が飼主家族や、獣医療現場において信頼してもらえうようになるためのコミュニケーション能力を習得するためにはどのような要素が必要なのか。・笑顔・医療従事者としての清潔な身なり（既成概念を裏切らないような）・正しい言葉使い（適した挨拶、敬語を使えるなど）信頼できる姿勢
解答7	動物看護過程の展開による情報収集とはどのような技術のことでしょうか。
解説7	看護過程では、アセスメントすなわち個々の動物に対して体系的な情報収集をし、それを整理して分析判断をすることから始まる。最適にアセスメントできることにより効果的な看護過程を作成実施できることとなる。アセスメントの段階では、多角的で詳細な観察力により動物の現状を把握することが大切であるが、あらゆる知識を集約し、活用し、現症状の結果、その後に隠れている潜在的な問題点が具現化（顕在化）することに留意し、推測できることが重要である。SOAP方式を使って正確な情報を収集できるようにする。収集する情報は、患者動物自身についての事（種類、年齢、避妊手術の有無、性格、身体検査内容）、カルテに記載されている飼主家族の事、獣医師による診断と治療内容、さまざまな臨床検査の結果などより収集し、整理する。動物看護過程の基本は観察、アセスメントであると述べてきた。アセスメントを実施せねばならないが、いったいどんな情報をどのように収集したらよいのだろうか？これをわかりやすい手順で次の担当者が記録を読んだ時に、理解しやすいように整理して記録に残すことが必要である。このアセスメント方法は、Hildegard Peplauによって、精神医学患者の発展的ケアモデルとして初めて記載されたとのことであるが、一般的なことを論じる傾向にあり看護介入の専門領域は網羅されていなかったようである（「動物看護実践ハンドブック　桜井富士朗監訳、P20）しかし、SOAPモデルは人医療の看護記録を作成するのに広く活用されている方式である。Sは主観的情報であり、動物はどこが悪いのか、に対して飼主の言葉や患者動物の鳴き声などを記載する。Oは客観的な情報であり、観察してわかったこと、各検査結果や診断テストの結果、データーなどを記す。ここのアセスメントは、理解・判断をするもので、主観的評価と客観的なデーターにより考えられる看護上の問題点とそこから考えられる看護目標、看護計画などを記載する。Pは計画と実施した内容を記録として残すことにより次回担当者に理解してもらえるようにする。
解答8	コミュニケーションの質を高める3つの方法について教えてください
解説8	コミュニケーションの質を高める3つの方法とは、①効果的な聞き方をする・・・注目する、話を聴く、共感する、原因を探る　②色々な種類のコミュニケーションを使い分けるタイミングや方法を知る　③動物病院のスタッフごとにメッセージが食い違わないようにする・・・動物病院のスタッフ全員がクライアントに同じメッセージを伝えることが大切。これによりクライアントの混乱や誤解を防止できる。

解答9	色々な種類の、活用できるコミュニケーションの手段を教えてください
解説9	ヒトは色々な方法で情報をやりとりしている、情報伝達方法をクライアントに合わせて変化させてみると、クライアントとのコミュニケーションがさらに深まることがわかる。①目で見て理解する（視覚）　②耳で聴いて理解する（聴覚）　③感性で理解する
解答10	クライアントとの信頼関係を築く助けとなる実践的な方法を挙げてください。
解説10	クライアントが動物病院に来院するときには、大体の場合、無意識のうちに二つのことを考えていると思われる。①この動物病院は私が求めているものをわかってくれるだろうか　②この動物病院は私に何をしてくれるだろうか。これらの事に応えるように努めること。そして、信頼関係を築く実践的な方法は、①プロとしての立ち居振る舞いを意識し、責任ある行動をとる　②挨拶をし、来院動物を名前で呼ぶ　③興味を持って接する　④優しく接する、上手な保定　⑤治療費の見積もりを嫌がらない　⑥難しいことば（医学用語）ではなくわかりやすい言葉を使う⑦たとえ聞き飽きた内容であっても熱心に初めて聞く内容のように耳を傾ける　⑧清潔な場所であるように協力する

3. 実証講座の実施および評価について＜動物看護師コアカリキュラム検証分科会＞

3.1. 実証講座の実施スケジュール

（1）臨床動物看護学（学生対象）　１５時間

◆参加者

学校法人宮崎総合学園　宮崎ペットワールド専門学校　動物看護学科

1 年生 18 名 2 年生 10 名：合計 28 名

◆実施場所

学校法人宮崎総合学園　宮崎ペットワールド専門学校

◆スケジュール（日程）

回数	授業内容	講師
第 1 回　12／16 (5 時間)	臨床動物看護学 概論1～6	国際動物専門学校 山下眞理子
第 2 回　12／17 (5時間)	臨床動物看護学 症状別看護「痛み」 「かゆみ」	国際動物専門学校 山下眞理子
第 3 回　1／24 (5 時間)	臨床動物看護学 症状別看護「嘔吐」 「排便異常」	宮崎ペットワールド専門 学校　若松あゆみ

（2）臨床動物看護学（社会人対象）　１５時間

◆参加者

学校法人シモゾノ学園　国際動物専門学校　動物看護師　4 名

◆実施場所

学校法人シモゾノ学園　国際動物専門学校

◆スケジュール（日程）

回数	授業内容	講師
第 1 回　1／7 (6 時間)	臨床動物看護学 概論1～6	国際動物専門学校 山下眞理子
第 2 回　1／8 (6 時間)	臨床動物看護学 症状別看護「痛み」 「かゆみ」「嘔吐」	国際動物専門学校 山下眞理子
第 3 回　1／28 (3 時間)	臨床動物看護学 症状別看護「排便異常」	国際動物専門学校 山下眞理子

（3）クライアントエジュケーション（学生対象）　３０時間

◆参加者

学校法人宮崎学園　大阪ペピイ動物看護専門学校　２年生　29 名

◆実施場所

学校法人宮崎学園　大阪ペピイ動物看護専門学校

◆スケジュール（日程）

講師：島田実佳・野村弥生（大阪ペピイ動物看護専門学校）

平成 25 年度　前期			
	火		火
第 1 週	10/1	第 9 週	11/26
第 2 週	10/8	第 10 週	12/3
第 3 週	10/15	第 11 週	12/10
第 4 週	10/22	第 12 週	12/17
第 5 週	10/29	第 13 週	1/14
第 6 週	11/5	第 14 週	1/21
第 7 週	11/12	第 15 週	2/5(水)
第 8 週	11/19		

（4）クライアントエジュケーション（教員対象）　5時間

◆参加者

学校法人宮崎学園　大阪ペピイ動物看護専門学校　動物看護教員　4名

◆実施場所

学校法人宮崎学園　大阪ペピイ動物看護専門学校

◆スケジュール（日程）

平成 26 年 1 月 25 日　5時間　（講師：山下眞理子(国際動物専門学校)）

3.2. 実証講座の実施記録

（１）臨床動物看護学（学生対象）　１５時間

（２）臨床動物看護学（社会人対象）　１５時間

（３）クライアントエジュケーション（学生対象）　３０時間

3.3. 受講者アンケート結果

次ページ以降に、
臨床動物看護学（学生対象）　１５時間
臨床動物看護学（社会人対象）　１５時間
臨床動物看護学（総合）
クライアントエジュケーション（学生対象）　３０時間
クライアントエジュケーション（教員対象）　５時間
クライアントエジュケーション（総合）
の受講者アンケート結果を掲載する。

科目名： 臨床動物看護学

授業に関するアンケート(学生)

◎対象学生：宮崎ペットワールド専門学校　学生向け授業　実施後学生アンケート結果（1年生） 18名

◎実証時間：10時間（全体で15時間のうち、平成25年12月16日～17日分）

	質問事項	回答選択肢				合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて a)シラバスの内容が理解できましたか	充分理解できた	大体できた	少しできなかった	全くできなかった	
	回答数(人)	0	15	3	0	18
	割合（%）	0%	83%	17%	0%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて b)「少しできた」又「全くできなかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的な学力が不足していた	資料が不適切であった	授業内容が不適切であった	その他	
	回答数(人)	2	0	0	1	3
	割合（%）	67%	0%	0%	33%	100%
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか？	十分身についた	大体身に付いた	付いていない	全く付いていない	
	回答数(人)	0	15	3	0	18
	割合（%）	0%	83%	17%	0%	100%
3	授業はシラバスに沿っていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全くしていなかった	
	回答数(人)	10	8	0	0	18
	割合（%）	56%	44%	0%	0%	100%
4	シラバスは授業を理解する為に役立ったと思いますか？	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	
	回答数	5	12	1	0	18
	割合	28%	67%	6%	0%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか？	十分参加した	大体参加した	少し参加した	全くしない	
	回答数(人)	4	10	4	0	18
	割合（%）	22%	56%	22%	0%	100%
6	理解できないことは質問しましたか？	十分できた	大体できた	少しだけできた	全くできなかった	
	回答数(人)	0	1	1	16	18
	割合（%）	0%	6%	6%	89%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価して下さい	4	3	2	1	
	回答数(人)	0	16	2	0	18
	割合（%）	0%	89%	11%	0%	100%
8	教員は授業の準備は充分に出来ていましたか？	十分できていた	大体できていた	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	13	5	0	0	18
	割合（%）	72%	28%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じられなかった	全く感じなかった	
	回答数(人)	11	7	0	0	18
	割合（%）	61%	39%	0%	0%	100%
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	
	回答数(人)	8	10	0	0	18
	割合（%）	44%	56%	0%	0%	100%

11	教員は積極的に質問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	
	回答数(人)	2	16	0	0	18
	割合(%)	11%	89%	0%	0%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	
	回答数(人)	5	13	0	0	18
	割合(%)	28%	72%	0%	0%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	
	回答数(人)	11	7	0	0	18
	割合(%)	61%	39%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いましたか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	
	回答数(人)	0	15	3	0	18
	割合(%)	0%	83%	17%	0%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	
	回答数(人)	11	6	0	0	17
	割合(%)	65%	35%	0%	0%	100%
16	あなたの将来に役立つと思いましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	13	5	0	0	18
	割合(%)	72%	28%	0%	0%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	
	回答数(人)	5	11	1	1	18
	割合(%)	28%	61%	6%	6%	100%
18	関連学習をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	7	11	0	0	18
	割合(%)	39%	61%	0%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階（4が最高評価）で評価してください	4	3	2	1	
	回答数(人)	11	6	1	0	18
	割合(%)	61%	33%	6%	0%	100%

＊この授業に関して自由にご意見を書いて下さい

科目名: 臨床動物看護学

授業に関するアンケート(学生)

◎対象学生:宮崎ペットワールド専門学校　学生向け授業　実施後学生アンケート結果(1年生) 17名

◎実証時間:5時間(全体で15時間のうち、平成26年1月24日分)

	質問事項	回答選択肢				合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて a)シラバスの内容が理解できましたか	充分理解できた	大体できた	少しできなかった	全くできなかった	
	回答数(人)	5	9	1	0	15
	割合(%)	33%	60%	7%	0%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて b)「少しできた」又「全くできなかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的な学力が不足していた	資料が不適切であった	授業内容が不適切であった	その他	
	回答数(人)	1	0	0	0	1
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか?	十分身についた	大体身に付いた	付いていない	全く付いていない	
	回答数(人)	1	16	0	0	17
	割合(%)	6%	94%	0%	0%	100%
3	授業はシラバスに沿っていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全くしていなかった	
	回答数(人)	13	4	0	0	17
	割合(%)	76%	24%	0%	0%	100%
4	シラバスは授業を理解する為に役立ったと思いますか?	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	
	回答数	9	8	0	0	17
	割合	53%	47%	0%	0%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか?	十分参加した	大体参加した	少し参加した	全くしない	
	回答数(人)	11	6	0	0	17
	割合(%)	65%	35%	0%	0%	100%
6	理解できないことは質問しましたか?	十分できた	大体できた	少しだけできた	全くできなかった	
	回答数(人)	2	10	0	4	16
	割合(%)	13%	63%	0%	25%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価して下さい	4	3	2	1	
	回答数(人)	4	10	0	0	14
	割合(%)	29%	71%	0%	0%	100%
8	教員は授業の準備は充分に出来ていましたか?	十分できていた	大体できていた	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	14	3	0	0	17
	割合(%)	82%	18%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか?	強く感じた	大体感じた	感じられなかった	全く感じなかった	
	回答数(人)	13	4	0	0	17
	割合(%)	76%	24%	0%	0%	100%
10	プリントや資料は有効と感じましたか?	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	
	回答数(人)	13	4	0	0	17
	割合(%)	76%	24%	0%	0%	100%

11	教員は積極的に質問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	
	回答数(人)	14	3	0	0	17
	割合(%)	82%	18%	0%	0%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	
	回答数(人)	12	5	0	0	17
	割合(%)	71%	29%	0%	0%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	
	回答数(人)	14	3	0	0	17
	割合(%)	82%	18%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いましたか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	
	回答数(人)	1	15	1	0	17
	割合(%)	6%	88%	6%	0%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	
	回答数(人)	9	8	0	0	17
	割合(%)	53%	47%	0%	0%	100%
16	あなたの将来に役立つと思いましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	13	4	0	0	17
	割合(%)	76%	24%	0%	0%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	
	回答数(人)	8	8	1	0	17
	割合(%)	47%	47%	6%	0%	100%
18	関連学習をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	6	11	0	0	17
	割合(%)	35%	65%	0%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階（4が最高評価）で評価してください	4	3	2	1	
	回答数(人)	13	4	0	0	17
	割合(%)	76%	24%	0%	0%	100%

＊この授業に関して自由にご意見を書いて下さい

科目名： 臨床動物看護学

授業に関するアンケート(学生)

◎対象学生：宮崎ペットワールド専門学校　学生向け授業　実施後学生アンケート結果（2年生） 10名

◎実証時間：10時間（全体で15時間のうち、平成25年12月16日～17日分）

	質問事項	回答選択肢				合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて a)シラバスの内容が理解できましたか	充分理解できた	大体できた	少しできなかった	全くできなかった	
	回答数(人)	1	6	3	0	10
	割合（%）	10%	60%	30%	0%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて b)「少しできた」又「全くできなかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的な学力が不足していた	資料が不適切であった	授業内容が不適切であった	その他	
	回答数(人)	2	0	0	1	3
	割合（%）	67%	0%	0%	33%	100%
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか？	十分身についた	大体身に付いた	付いていない	全く付いていない	
	回答数(人)	0	9	1	0	10
	割合（%）	0%	90%	10%	0%	100%
3	授業はシラバスに沿っていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全くしていなかった	
	回答数(人)	6	4	0	0	10
	割合（%）	60%	40%	0%	0%	100%
4	シラバスは授業を理解する為に役立ったと思いますか？	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	
	回答数	8	1	1	0	10
	割合	80%	10%	10%	0%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか？	十分参加した	大体参加した	少し参加した	全くしない	
	回答数(人)	1	3	5	1	10
	割合（%）	10%	30%	50%	10%	100%
6	理解できないことは質問しましたか？	十分できた	大体できた	少しだけできた	全くできなかった	
	回答数(人)	0	0	1	9	10
	割合（%）	0%	0%	10%	90%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価して下さい	4	3	2	1	
	回答数(人)	0	3	5	2	10
	割合（%）	0%	30%	50%	20%	100%
8	教員は授業の準備は充分に出来ていましたか？	十分できていた	大体できていた	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	8	2	0	0	10
	割合（%）	80%	20%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じられなかった	全く感じなかった	
	回答数(人)	6	4	0	0	10
	割合（%）	60%	40%	0%	0%	100%
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	
	回答数(人)	5	5	0	0	10
	割合（%）	50%	50%	0%	0%	100%

11	教員は積極的に質問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	
	回答数(人)	5	4	1	0	10
	割合(%)	50%	40%	10%	0%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	
	回答数(人)	3	7	0	0	10
	割合(%)	30%	70%	0%	0%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	
	回答数(人)	7	3	0	0	10
	割合(%)	70%	30%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いましたか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	
	回答数(人)	0	9	1	0	10
	割合(%)	0%	90%	10%	0%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	
	回答数(人)	4	6	0	0	10
	割合(%)	40%	60%	0%	0%	100%
16	あなたの将来に役立つと思いましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	3	6	1	0	10
	割合(%)	30%	60%	10%	0%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	
	回答数(人)	3	5	1	1	10
	割合(%)	30%	50%	10%	10%	100%
18	関連学習をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	1	6	3	0	10
	割合(%)	10%	60%	30%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階（4が最高評価）で評価してください	4	3	2	1	
	回答数(人)	6	4	0	0	10
	割合(%)	60%	40%	0%	0%	100%

＊この授業に関して自由にご意見を書いて下さい

科目名： 臨床動物看護学

授業に関するアンケート(学生)

◎対象学生：宮崎ペットワールド専門学校　学生向け授業　実施後学生アンケート結果（2年生） 9名

◎実証時間：5時間（全体で15時間のうち、平成26年1月24日分）

	質問事項	回答選択肢				合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて a)シラバスの内容が理解できましたか	充分理解できた	大体できた	少しできなかった	全くできなかった	
	回答数(人)	1	8	0	0	9
	割合（%）	11%	89%	0%	0%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて b)「少しできた」又「全くできなかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的な学力が不足していた	資料が不適切であった	授業内容が不適切であった	その他	
	回答数(人)					0
	割合（%）					
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか？	十分身についた	大体身に付いた	付いていない	全く付いていない	
	回答数(人)	0	9	0	0	9
	割合（%）	0%	100%	0%	0%	100%
3	授業はシラバスに沿っていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全くしていなかった	
	回答数(人)	6	2	0	0	8
	割合（%）	75%	25%	0%	0%	100%
4	シラバスは授業を理解する為に役立ったと思いますか？	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	
	回答数	6	2	0	0	8
	割合	75%	25%	0%	0%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか？	十分参加した	大体参加した	少し参加した	全くしない	
	回答数(人)	7	1	0	0	8
	割合（%）	88%	13%	0%	0%	100%
6	理解できないことは質問しましたか？	十分できた	大体できた	少しだけできた	全くできなかった	
	回答数(人)	0	1	2	6	9
	割合（%）	0%	11%	22%	67%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価して下さい	4	3	2	1	
	回答数(人)	1	7	1	0	9
	割合（%）	11%	78%	11%	0%	100%
8	教員は授業の準備は充分に出来ていましたか？	十分できていた	大体できていた	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	9	0	0	0	9
	割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じられなかった	全く感じなかった	
	回答数(人)	9	0	0	0	9
	割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	
	回答数(人)	8	1	0	0	9
	割合（%）	89%	11%	0%	0%	100%

11	教員は積極的に質問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	
	回答数(人)	8	1	0	0	9
	割合(%)	89%	11%	0%	0%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	
	回答数(人)	8	1	0	0	9
	割合(%)	89%	11%	0%	0%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	
	回答数(人)	9	0	0	0	9
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いましたか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	
	回答数(人)	1	8	0	0	9
	割合(%)	11%	89%	0%	0%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	
	回答数(人)	5	4	0	0	9
	割合(%)	56%	44%	0%	0%	100%
16	あなたの将来に役立つと思いましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	6	3	0	0	9
	割合(%)	67%	33%	0%	0%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	
	回答数(人)	4	5	0	0	9
	割合(%)	44%	56%	0%	0%	100%
18	関連学習をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	2	7	0	0	9
	割合(%)	22%	78%	0%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	
	回答数(人)	8	1	0	0	9
	割合(%)	89%	11%	0%	0%	100%

＊この授業に関して自由にご意見を書いて下さい

科目名： 臨床動物看護学

授業に関するアンケート(学生)

◎対象学生：宮崎ペットワールド専門学校　学生向け授業　実施後学生アンケート結果（全体） 28名

◎実証時間：10時間（全体で15時間のうち、平成25年12月16日～17日分）

	質問事項	回答選択肢				合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて a)シラバスの内容が理解できましたか	充分理解できた	大体できた	少しできなかった	全くできなかった	
	回答数(人)	1	21	6	0	28
	割合（%）	4%	75%	21%	0%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて b)「少しできた」又「全くできなかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的な学力が不足していた	資料が不適切であった	授業内容が不適切であった	その他	
	回答数(人)	4	0	0	2	6
	割合（%）	67%	0%	0%	33%	100%
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか？	十分身についた	大体身に付いた	付いていない	全く付いていない	
	回答数(人)	0	24	4	0	28
	割合（%）	0%	86%	14%	0%	100%
3	授業はシラバスに沿っていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全くしていなかった	
	回答数(人)	16	12	0	0	28
	割合（%）	57%	43%	0%	0%	100%
4	シラバスは授業を理解する為に役立ったと思いますか？	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	
	回答数	13	13	2	0	28
	割合	46%	46%	7%	0%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか？	十分参加した	大体参加した	少し参加した	全くしない	
	回答数(人)	5	13	9	1	28
	割合（%）	18%	46%	32%	4%	100%
6	理解できないことは質問しましたか？	十分できた	大体できた	少しだけできた	全くできなかった	
	回答数(人)	0	1	2	25	28
	割合（%）	0%	4%	7%	89%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価して下さい	4	3	2	1	
	回答数(人)	0	19	7	2	28
	割合（%）	0%	68%	25%	7%	100%
8	教員は授業の準備は充分に出来ていましたか？	十分できていた	大体できていた	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	21	7	0	0	28
	割合（%）	75%	25%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じられなかった	全く感じなかった	
	回答数(人)	17	11	0	0	28
	割合（%）	61%	39%	0%	0%	100%
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	
	回答数(人)	13	15	0	0	28
	割合（%）	46%	54%	0%	0%	100%

11	教員は積極的に質問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	
	回答数(人)	7	20	1	0	28
	割合(%)	25%	71%	4%	0%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	
	回答数(人)	8	20	0	0	28
	割合(%)	29%	71%	0%	0%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	
	回答数(人)	18	10	0	0	28
	割合(%)	64%	36%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いましたか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	
	回答数(人)	0	24	4	0	28
	割合(%)	0%	86%	14%	0%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	
	回答数(人)	15	12	1	0	28
	割合(%)	54%	43%	4%	0%	100%
16	あなたの将来に役立つと思いましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	16	11	1	0	28
	割合(%)	57%	39%	4%	0%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	
	回答数(人)	8	16	2	2	28
	割合(%)	29%	57%	7%	7%	100%
18	関連学習をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	8	17	3	0	28
	割合(%)	29%	61%	11%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階（4が最高評価）で評価してください	4	3	2	1	
	回答数(人)	17	10	1	0	28
	割合(%)	61%	36%	4%	0%	100%

＊この授業に関して自由にご意見を書いて下さい

科目名: 臨床動物看護学 （現役動物看護師向け）

授業に関するアンケート(社会人)

◎対象受講者:現役動物看護師(社会人) 4名　開催場所:学校法人シモゾノ学園 国際動物専門学校

◎実証時間:6時間(全体で15時間のうち、平成25年1月7日分)

	質問事項	回答選択肢				合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて a)シラバスの内容が理解できましたか	充分理解できた	大体できた	少しできなかった	全くできなかった	
	回答数(人)	1	2	1	0	4
	割合(%)	25%	50%	25%	0%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて b)「少しできた」又「全くできなかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的な学力が不足していた	資料が不適切であった	授業内容が不適切であった	その他	
	回答数(人)	1	0	0	0	1
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか？	十分身についた	大体身に付いた	付いていない	全く付いていない	
	回答数(人)	0	4	0	0	4
	割合(%)	0%	100%	0%	0%	100%
3	授業はシラバスに沿っていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全くしていなかった	
	回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%
4	シラバスは授業を理解する為に役立ったと思いますか？	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	
	回答数	4	0	0	0	4
	割合	100%	0%	0%	0%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか？	十分参加した	大体参加した	少し参加した	全くしない	
	回答数(人)	1	1	2	0	4
	割合(%)	25%	25%	50%	0%	100%
6	理解できないことは質問しましたか？	十分できた	大体できた	少しだけできた	全くできなかった	
	回答数(人)	1	1	0	2	4
	割合(%)	25%	25%	0%	50%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価して下さい	4	3	2	1	
	回答数(人)	0	4	0	0	4
	割合(%)	0%	100%	0%	0%	100%
8	教員は授業の準備は充分に出来ていましたか？	十分できていた	大体できていた	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じられなかった	全く感じなかった	
	回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	
	回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%

11	教員は積極的に質問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	
	回答数(人)	3	1	0	0	4
	割合(%)	75%	25%	0%	0%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	
	回答数(人)	3	1	0	0	4
	割合(%)	75%	25%	0%	0%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	
	回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いましたか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	
	回答数(人)	0	4	0	0	4
	割合(%)	0%	100%	0%	0%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	
	回答数(人)	2	2	0	0	4
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	100%
16	あなたの将来に役立つと思いましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	
	回答数(人)	1	3	0	0	4
	割合(%)	25%	75%	0%	0%	100%
18	関連学習をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	2	2	0	0	4
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階（4が最高評価）で評価してください	4	3	2	1	
	回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%

＊この授業に関して自由にご意見を書いて下さい

科目名: 臨床動物看護学 （現役動物看護師向け）

授業に関するアンケート(社会人)

◎対象受講者:現役動物看護師(社会人) 4名　開催場所:学校法人シモゾノ学園 国際動物専門学校

◎実証時間:6時間(全体で15時間のうち、平成25年1月8日分)

	質問事項	回答選択肢				合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて a)シラバスの内容が理解できましたか	充分理解できた	大体できた	少しできなかった	全くできなかった	
	回答数(人)	2	2	0	0	4
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて b)「少しできた」又「全くできなかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的な学力が不足していた	資料が不適切であった	授業内容が不適切であった	その他	
	回答数(人)					0
	割合(%)					0%
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか？	十分身についた	大体身に付いた	付いていない	全く付いていない	
	回答数(人)	2	2	0	0	4
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	100%
3	授業はシラバスに沿っていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全くしていなかった	
	回答数(人)	3	1	0	0	4
	割合(%)	75%	25%	0%	0%	100%
4	シラバスは授業を理解する為に役立ったと思いますか？	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	
	回答数	3	1	0	0	4
	割合	75%	25%	0%	0%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか？	十分参加した	大体参加した	少し参加した	全くしない	
	回答数(人)	2	2	0	0	4
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	100%
6	理解できないことは質問しましたか？	十分できた	大体できた	少しだけできた	全くできなかった	
	回答数(人)	1	1	1	0	3
	割合(%)	33%	33%	33%	0%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価して下さい	4	3	2	1	
	回答数(人)	2	1	1	0	4
	割合(%)	50%	25%	25%	0%	100%
8	教員は授業の準備は充分に出来ていましたか？	十分できていた	大体できていた	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じられなかった	全く感じなかった	
	回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	
	回答数(人)	3	1	0	0	4
	割合(%)	75%	25%	0%	0%	100%

11	教員は積極的に質問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	
	回答数(人)	3	1	0	0	4
	割合(%)	75%	25%	0%	0%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	
	回答数(人)	3	1	0	0	4
	割合(%)	75%	25%	0%	0%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	
	回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いましたか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	
	回答数(人)	0	4	0	0	4
	割合(%)	0%	100%	0%	0%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	
	回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%
16	あなたの将来に役立つと思いましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	
	回答数(人)	2	2	0	0	4
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	100%
18	関連学習をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	3	1	0	0	4
	割合(%)	75%	25%	0%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階（4が最高評価）で評価してください	4	3	2	1	
	回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%

＊この授業に関して自由にご意見を書いて下さい

科目名: 臨床動物看護学

授業に関するアンケート(総合)

	質問事項	回答選択肢				合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて a)シラバスの内容が理解できましたか	充分理解できた	大体できた	少しできなかった	全くできなかった	
	宮崎ペットワールド専門学校(1年生18名① 回答数(人)	0	15	3	0	18
	割合(%)	0%	83%	17%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校(1年生17名② 回答数(人)	5	9	1	0	15
	割合(%)	33%	60%	7%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校(2年生10名① 回答数(人)	1	6	3	0	10
	割合(%)	10%	60%	30%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校(2年生)9名② 回答数(人)	1	8	0	0	9
	割合(%)	11%	89%	0%	0%	100%
	現役動物看護師(社会人) 4名① 回答数(人)	1	2	1	0	4
	割合(%)	25%	50%	25%	0%	100%
	現役動物看護師(社会人) 4名② 回答数(人)	2	2	0	0	4
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて b)「少しできた」又「全くできなかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的な学力が不足していた	資料が不適切であった	授業内容が不適切であった	その他	
	宮崎ペットワールド専門学校(1年生18名① 回答数(人)	2	0	0	1	3
	割合(%)	67%	0%	0%	33%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校(1年生17名② 回答数(人)	1	0	0	0	1
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校(2年生10名① 回答数(人)	2	0	0	1	3
	割合(%)	67%	0%	0%	33%	100%
	現役動物看護師(社会人) 4名① 回答数(人)	1	0	0	0	1
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか?	十分身についた	大体身に付いた	付いていない	全く付いていない	
	宮崎ペットワールド専門学校(1年生18名① 回答数(人)	0	15	3	0	18
	割合(%)	0%	83%	17%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校(1年生17名② 回答数(人)	1	16	0	0	17
	割合(%)	6%	94%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校(2年生10名① 回答数(人)	0	9	1	0	10
	割合(%)	0%	90%	10%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校(2年生)9名② 回答数(人)	0	9	0	0	9
	割合(%)	0%	100%	0%	0%	100%
	現役動物看護師(社会人) 4名① 回答数(人)	0	4	0	0	4
	割合(%)	0%	100%	0%	0%	100%
	現役動物看護師(社会人) 4名② 回答数(人)	2	2	0	0	4
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	100%

	授業はシラパスに沿っていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全くしていなかった	
	宮崎ペットワールド専門学校(1年生18名① 回答数(人)	10	8	0	0	18
	割合(%)	56%	44%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校(1年生17名② 回答数(人)	13	4	0	0	17
	割合(%)	76%	24%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校(2年生10名① 回答数(人)	6	4	0	0	10
3	割合(%)	60%	40%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校(2年生)9名② 回答数(人)	6	2	0	0	8
	割合(%)	75%	25%	0%	0%	100%
	現役動物看護師(社会人) 4名① 回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%
	現役動物看護師(社会人) 4名② 回答数(人)	3	1	0	0	4
	割合(%)	75%	25%	0%	0%	100%
	シラパスは授業を理解する為に役立ったと思いますか?	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	
	宮崎ペットワールド専門学校(1年生18名① 回答数(人)	5	12	1	0	18
	割合(%)	28%	67%	6%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校(1年生17名② 回答数(人)	9	8	0	0	17
	割合(%)	53%	47%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校(2年生10名① 回答数(人)	8	1	1	0	10
4	割合(%)	80%	10%	10%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校(2年生)9名② 回答数(人)	6	2	0	0	8
	割合(%)	75%	25%	0%	0%	100%
	現役動物看護師(社会人) 4名① 回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%
	現役動物看護師(社会人) 4名② 回答数(人)	3	1	0	0	4
	割合	75%	25%	0%	0%	100%
	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか?	十分参加した	大体参加した	少し参加した	全くしない	
	宮崎ペットワールド専門学校(1年生18名① 回答数(人)	4	10	4	0	18
	割合(%)	22%	56%	22%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校(1年生17名② 回答数(人)	11	6	0	0	17
	割合(%)	65%	35%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校(2年生10名① 回答数(人)	1	3	5	1	10
5	割合(%)	10%	30%	50%	10%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校(2年生)9名② 回答数(人)	7	1	0	0	8
	割合(%)	88%	13%	0%	0%	100%
	現役動物看護師(社会人) 4名① 回答数(人)	1	1	2	0	4
	割合(%)	25%	25%	50%	0%	100%
	現役動物看護師(社会人) 4名② 回答数(人)	2	2	0	0	4
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	100%

6	理解できないことは質問しましたか？	十分できた	大体できた	少しだけできた	全くできなかった	
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生18名① 回答数(人)	0	1	1	16	18
	割合（%）	0%	6%	6%	89%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生17名② 回答数(人)	2	10	0	4	16
	割合（%）	13%	63%	0%	25%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生10名① 回答数(人)	0	0	1	9	10
	割合（%）	0%	0%	10%	90%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生）9名② 回答数(人)	0	1	2	6	9
	割合（%）	0%	11%	22%	67%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名① 回答数(人)	1	1	0	2	4
	割合（%）	25%	25%	0%	50%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名② 回答数(人)	1	1	1	0	3
	割合（%）	33%	33%	33%	0%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価して下さい	4	3	2	1	
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生18名① 回答数(人)	0	16	2	0	18
	割合（%）	0%	89%	11%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生17名② 回答数(人)	4	10	0	0	14
	割合（%）	29%	71%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生10名① 回答数(人)	0	3	5	2	10
	割合（%）	0%	30%	50%	20%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生）9名② 回答数(人)	1	7	1	0	9
	割合（%）	11%	78%	11%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名① 回答数(人)	0	4	0	0	4
	割合（%）	0%	100%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名② 回答数(人)	2	1	1	0	4
	割合（%）	50%	25%	25%	0%	100%
8	教員は授業の準備は充分に出来ていましたか？	十分できていた	大体できていた	思わない	全く思わない	
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生18名① 回答数(人)	13	5	0	0	18
	割合（%）	72%	28%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生17名② 回答数(人)	14	3	0	0	17
	割合（%）	82%	18%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生10名① 回答数(人)	8	2	0	0	10
	割合（%）	80%	20%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生）9名② 回答数(人)	9	0	0	0	9
	割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名① 回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名② 回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%

9	教員の熱意を強く感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じられなかった	全く感じなかった	
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生18名① 回答数(人)	11	7	0	0	18
	割合（%）	61%	39%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生17名② 回答数(人)	13	4	0	0	17
	割合（%）	76%	24%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生10名① 回答数(人)	6	4	0	0	10
	割合（%）	60%	40%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生）9名② 回答数(人)	9	0	0	0	9
	割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名① 回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名② 回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生18名① 回答数(人)	8	10	0	0	18
	割合（%）	44%	56%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生17名② 回答数(人)	13	4	0	0	17
	割合（%）	76%	24%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生10名① 回答数(人)	5	5	0	0	10
	割合（%）	50%	50%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生）9名② 回答数(人)	8	1	0	0	9
	割合（%）	89%	11%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名① 回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名② 回答数(人)	3	1	0	0	4
	割合（%）	75%	25%	0%	0%	100%
11	教員は積極的に質問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生18名① 回答数(人)	2	16	0	0	18
	割合（%）	11%	89%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生17名② 回答数(人)	14	3	0	0	17
	割合（%）	82%	18%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生10名① 回答数(人)	5	4	1	0	10
	割合（%）	50%	40%	10%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生）9名② 回答数(人)	8	1	0	0	9
	割合（%）	89%	11%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名① 回答数(人)	3	1	0	0	4
	割合（%）	75%	25%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名② 回答数(人)	3	1	0	0	4
	割合（%）	75%	25%	0%	0%	100%

	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	
12	宮崎ペットワールド専門学校（1年生18名① 回答数(人)	5	13	0	0	18
	割合（%）	28%	72%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生17名② 回答数(人)	12	5	0	0	17
	割合（%）	71%	29%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生10名① 回答数(人)	3	7	0	0	10
	割合（%）	30%	70%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生）9名② 回答数(人)	8	1	0	0	9
	割合（%）	89%	11%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名① 回答数(人)	3	1	0	0	4
	割合（%）	75%	25%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名② 回答数(人)	3	1	0	0	4
	割合（%）	75%	25%	0%	0%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生18名① 回答数(人)	11	7	0	0	18
	割合（%）	61%	39%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生17名② 回答数(人)	14	3	0	0	17
	割合（%）	82%	18%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生10名① 回答数(人)	7	3	0	0	10
	割合（%）	70%	30%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生）9名② 回答数(人)	9	0	0	0	9
	割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名① 回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名② 回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いましたか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生18名① 回答数(人)	0	15	3	0	18
	割合（%）	0%	83%	17%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生17名② 回答数(人)	1	15	1	0	17
	割合（%）	6%	88%	6%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生10名① 回答数(人)	0	9	1	0	10
	割合（%）	0%	90%	10%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生）9名② 回答数(人)	1	8	0	0	9
	割合（%）	11%	89%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名① 回答数(人)	0	4	0	0	4
	割合（%）	0%	100%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名② 回答数(人)	0	4	0	0	4
	割合（%）	0%	100%	0%	0%	100%

15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生18名① 回答数(人)	11	6	0	0	17
	割合（%）	65%	35%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生17名② 回答数(人)	9	8	0	0	17
	割合（%）	53%	47%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生10名① 回答数(人)	4	6	0	0	10
	割合（%）	40%	60%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生）9名② 回答数(人)	5	4	0	0	9
	割合（%）	56%	44%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名① 回答数(人)	2	2	0	0	4
	割合（%）	50%	50%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名② 回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
16	あなたの将来に役立つと思いましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生18名① 回答数(人)	13	5	0	0	18
	割合（%）	72%	28%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生17名② 回答数(人)	13	4	0	0	17
	割合（%）	76%	24%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生10名① 回答数(人)	3	6	1	0	10
	割合（%）	30%	60%	10%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生）9名② 回答数(人)	6	3	0	0	9
	割合（%）	67%	33%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名① 回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名② 回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生18名① 回答数(人)	5	11	1	1	18
	割合（%）	28%	61%	6%	6%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生17名② 回答数(人)	8	8	1	0	17
	割合（%）	47%	47%	6%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生10名① 回答数(人)	3	5	1	1	10
	割合（%）	30%	50%	10%	10%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生）9名② 回答数(人)	4	5	0	0	9
	割合（%）	44%	56%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名① 回答数(人)	1	3	0	0	4
	割合（%）	25%	75%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名② 回答数(人)	2	2	0	0	4
	割合（%）	50%	50%	0%	0%	100%

	関連学習をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	
18	宮崎ペットワールド専門学校（1年生18名① 回答数(人)	7	11	0	0	18
	割合（%）	39%	61%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生17名② 回答数(人)	6	11	0	0	17
	割合（%）	35%	65%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生10名① 回答数(人)	1	6	3	0	10
	割合（%）	10%	60%	30%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生）9名② 回答数(人)	2	7	0	0	9
	割合（%）	22%	78%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名① 回答数(人)	2	2	0	0	4
	割合（%）	50%	50%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名② 回答数(人)	3	1	0	0	4
	割合（%）	75%	25%	0%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階（4が最高評価）で評価してください	4	3	2	1	
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生18名① 回答数(人)	11	6	1	0	18
	割合（%）	61%	33%	6%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（1年生17名② 回答数(人)	13	4	0	0	17
	割合（%）	76%	24%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生10名① 回答数(人)	6	4	0	0	10
	割合（%）	60%	40%	0%	0%	100%
	宮崎ペットワールド専門学校（2年生）9名② 回答数(人)	8	1	0	0	9
	割合（%）	89%	11%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名① 回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
	現役動物看護師（社会人） 4名② 回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%

＊この授業に関して自由にご意見を書いて下さい

科目名： クライアントエジュケーション

授業に関するアンケート(学生)

◎対象学生:大阪ペピイ動物看護専門学校　2年生　29名

◎講師:島田実佳、野村弥生

◎実証時間:30時間(前期15時間、後期15時間)

	質問事項	回答選択肢				合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて a)シラバスの内容が理解できましたか	充分理解できた	大体できた	少しできなかった	全くできなかった	
	回答数(人)	27	2	0	0	29
	割合(%)	93%	7%	0%	0%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて b)「少しできた」又「全くできなかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的な学力が不足していた	資料が不適切であった	授業内容が不適切であった	その他	
	回答数(人)					0
	割合(%)					0%
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか？	十分身についた	大体身に付いた	付いていない	全く付いていない	
	回答数(人)	1	22	6	0	29
	割合(%)	3%	76%	21%	0%	100%
3	授業はシラバスに沿っていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全くしていなかった	
	回答数(人)	5	19	5	0	29
	割合(%)	17%	66%	17%	0%	100%
4	シラバスは授業を理解する為に役立ったと思いますか？	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	
	回答数	13	16	0	0	29
	割合	45%	55%	0%	0%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか？	十分参加した	大体参加した	少し参加した	全くしない	
	回答数(人)	5	22	2	0	29
	割合(%)	17%	76%	7%	0%	100%
6	理解できないことは質問しましたか？	十分できた	大体できた	少しだけできた	全くできなかった	
	回答数(人)	2	3	22	2	29
	割合(%)	7%	10%	76%	7%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価して下さい	4	3	2	1	
	回答数(人)	1	20	7	1	29
	割合(%)	3%	69%	24%	3%	100%
8	教員は授業の準備は充分に出来ていましたか？	十分できていた	大体できていた	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	9	19	1	0	29
	割合(%)	31%	66%	3%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じられなかった	全く感じなかった	
	回答数(人)	12	15	2	0	29
	割合(%)	41%	52%	7%	0%	100%
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	
	回答数(人)	26	3	0	0	29
	割合(%)	90%	10%	0%	0%	100%

11	教員は積極的に質問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	
	回答数(人)	1	20	7	1	29
	割合(%)	3%	69%	24%	3%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	
	回答数(人)	4	21	4	0	29
	割合(%)	14%	72%	14%	0%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	
	回答数(人)	9	17	2	1	29
	割合(%)	31%	59%	7%	3%	100%
14	どのくらい理解できたと思いましたか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	
	回答数(人)	6	18	4	1	29
	割合(%)	21%	62%	14%	3%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	
	回答数(人)	5	15	10	0	30
	割合(%)	17%	50%	33%	0%	100%
16	あなたの将来に役立つと思いましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	28	1	0	0	29
	割合(%)	97%	3%	0%	0%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	
	回答数(人)	25	4	0	0	29
	割合(%)	86%	14%	0%	0%	100%
18	関連学習をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	5	20	4	0	29
	割合(%)	17%	69%	14%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階（4が最高評価）で評価してください	4	3	2	1	
	回答数(人)	6	22	1	0	29
	割合(%)	21%	76%	3%	0%	100%

＊この授業に関して自由にご意見を書いて下さい

・フィラリア予防について、理解していたつもりだったが、いざ人に伝えるとなると細かいことが理解しきれていないと知った。
・飼主さんに話す順番や使う言葉が難しかった。
・実際に飼主役と動物看護師役になって演習できたので、就職してから役立つと思った。
・飼主さんがする想定質問を考えるときに自分の家族に参考意見を聞いたみた。
・飼主役の人がうなずいたり復唱したりしてくれるとこちらの話が通じていると実感できた。
・動物看護師役の人が不安そうな表情だったり、そっけなかったりすると信頼感が薄れた。
・栄養指導のときにフードのパッケージを一緒に見ることで飼主さんによりうまく伝わると思った。
・人と話すことが苦手なので上手く言葉にできなかった。まずはコミュニケーション力を磨きたい。
・簡単なリーフレットを用いたら(混合ワクチンで防げる病気など)飼主さんの理解がより深まるし家族にも伝えてもらえる。
・事前にカルテの予防歴などに目を通しておくと保定の時に話題にできると思った。
・テーマは違ったが、同じような演習が続くので少し飽きたところがあった。
・テーマについて復習しなおすことがメインになって話す練習がほとんど出来ていなかった。

科目名： クライアントエジュケーション

授業に関するアンケート(動物看護教員）

◎対象受講者：大阪ペピイ動物看護専門学校　動物看護教員　4名

◎講師：山下眞理子

◎実証時間：3時間（5時間のうち①）

	質問事項	回答選択肢				合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて a)シラバスの内容が理解できましたか	充分理解できた	大体できた	少しできなかった	全くできなかった	
	回答数(人)	3	1	0	0	4
	割合（%）	75%	25%	0%	0%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて b)「少しできた」又「全くできなかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的な学力が不足していた	資料が不適切であった	授業内容が不適切であった	その他	
	回答数(人)					0
	割合（%）					0%
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか？	十分身についた	大体身に付いた	付いていない	全く付いていない	
	回答数(人)	1	3	0	0	4
	割合（%）	25%	75%	0%	0%	100%
3	授業はシラバスに沿っていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全くしていなかった	
	回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
4	シラバスは授業を理解する為に役立ったと思いますか？	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	
	回答数	4	0	0	0	4
	割合	100%	0%	0%	0%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか？	十分参加した	大体参加した	少し参加した	全くしない	
	回答数(人)	3	1	0	0	4
	割合（%）	75%	25%	0%	0%	100%
6	理解できないことは質問しましたか？	十分できた	大体できた	少しだけできた	全くできなかった	
	回答数(人)	1	1	0	0	2
	割合（%）	50%	50%	0%	0%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価して下さい	4	3	2	1	
	回答数(人)	3	1	0	0	4
	割合（%）	75%	25%	0%	0%	100%
8	教員は授業の準備は充分に出来ていましたか？	十分できていた	大体できていた	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じられなかった	全く感じなかった	
	回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	
	回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%

11	教員は積極的に質問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	
	回答数(人)	2	2	0	0	4
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	
	回答数(人)	3	1	0	0	4
	割合(%)	75%	25%	0%	0%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	
	回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いましたか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	
	回答数(人)	1	3	0	0	4
	割合(%)	25%	75%	0%	0%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	
	回答数(人)	3	1	0	0	4
	割合(%)	75%	25%	0%	0%	100%
16	あなたの将来に役立つと思いましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	3	1	0	0	4
	割合(%)	75%	25%	0%	0%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	
	回答数(人)	2	2	0	0	4
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	100%
18	関連学習をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	3	1	0	0	4
	割合(%)	75%	25%	0%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階（4が最高評価）で評価してください	4	3	2	1	
	回答数(人)	4	0	0	0	4
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%

＊この授業に関して自由にご意見を書いて下さい

科目名： クライアントエジュケーション

授業に関するアンケート(動物看護教員）

◎対象受講者：大阪ペピイ動物看護専門学校　動物看護教員　3名

◎講師：山下眞理子

◎実証時間：2時間（5時間のうち②）

	質問事項	回答選択肢				合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて a)シラバスの内容が理解できましたか	充分理解できた	大体できた	少しできなかった	全くできなかった	
	回答数(人)	1	2	0	0	3
	割合（%）	33%	67%	0%	0%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて b)「少しできた」又「全くできなかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的な学力が不足していた	資料が不適切であった	授業内容が不適切であった	その他	
	回答数(人)					0
	割合（%）					0%
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか？	十分身についた	大体身に付いた	付いていない	全く付いていない	
	回答数(人)	0	3	0	0	3
	割合（%）	0%	100%	0%	0%	100%
3	授業はシラパスに沿っていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全くしていなかった	
	回答数(人)	2	1	0	0	3
	割合（%）	67%	33%	0%	0%	100%
4	シラパスは授業を理解する為に役立ったと思いますか？	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	
	回答数	3	0	0	0	3
	割合	100%	0%	0%	0%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか？	十分参加した	大体参加した	少し参加した	全くしない	
	回答数(人)	2	1	0	0	3
	割合（%）	67%	33%	0%	0%	100%
6	理解できないことは質問しましたか？	十分できた	大体できた	少しだけできた	全くできなかった	
	回答数(人)	1	1	0	0	2
	割合（%）	50%	50%	0%	0%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価して下さい	4	3	2	1	
	回答数(人)	2	1	0	0	3
	割合（%）	67%	33%	0%	0%	100%
8	教員は授業の準備は充分に出来ていましたか？	十分できていた	大体できていた	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	2	1	0	0	3
	割合（%）	67%	33%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じられなかった	全く感じなかった	
	回答数(人)	2	1	0	0	3
	割合（%）	67%	33%	0%	0%	100%
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	
	回答数(人)	3	0	0	0	3
	割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%

11	教員は積極的に質問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	
	回答数(人)	2	1	0	0	3
	割合(%)	67%	33%	0%	0%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	
	回答数(人)	3	0	0	0	3
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	
	回答数(人)	3	0	0	0	3
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いましたか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	
	回答数(人)	0	3	0	0	3
	割合(%)	0%	100%	0%	0%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	
	回答数(人)	2	1	0	0	3
	割合(%)	67%	33%	0%	0%	100%
16	あなたの将来に役立つと思いましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	3	0	0	0	3
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	
	回答数(人)	2	1	0	0	3
	割合(%)	67%	33%	0%	0%	100%
18	関連学習をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	回答数(人)	2	1	0	0	3
	割合(%)	67%	33%	0%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	
	回答数(人)	3	0	0	0	3
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%

＊この授業に関して自由にご意見を書いて下さい

科目名： クライアントエジュケーション

授業に関するアンケート(学生及び動物看護教員）

◎対象受講者：大阪ペピイ動物看護専門学校　学生（2年生）及び動物看護教員

	質問事項		回答選択肢				合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて a)シラバスの内容が理解できましたか		充分理解できた	大体できた	少しできなかった	全くできなかった	
	専門学校2年生（29人）	回答数（人）	27	2	0	0	29
		割合（%）	93%	7%	0%	0%	100%
	動物看護教員①（4人）	回答数(人)	3	1	0	0	4
		割合（%）	75%	25%	0%	0%	100%
	動物看護教員②（3人）	回答数(人)	1	2	0	0	3
		割合（%）	33%	67%	0%	0%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて b)「少しできた」又「全くできなかった」と回答した人の理由は		自分の基礎的な学力が不足していた	資料が不適切であった	授業内容が不適切であった	その他	
		回答数(人)					0
		割合（%）					0%
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか？		十分身についた	大体身に付いた	付いていない	全く付いていない	
	専門学校2年生（29人）	回答数（人）	1	22	6	0	29
		割合（%）	3%	76%	21%	0%	100%
	動物看護教員①（4人）	回答数(人)	1	3	0	0	4
		割合（%）	25%	75%	0%	0%	100%
	動物看護教員②（3人）	回答数(人)	0	3	0	0	3
		割合（%）	0%	100%	0%	0%	100%
3	授業はシラバスに沿っていましたか?		十分していた	大体していた	していなかった	全くしていなかった	
	専門学校2年生（29人）	回答数（人）	5	19	5	0	29
		割合（%）	17%	66%	17%	0%	100%
	動物看護教員①（4人）	回答数(人)	4	0	0	0	4
		割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
	動物看護教員②（3人）	回答数(人)	2	1	0	0	3
		割合（%）	67%	33%	0%	0%	100%
4	シラバスは授業を理解する為に役立ったと思いますか？		十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	
	専門学校2年生（29人）	回答数（人）	13	16	0	0	29
		割合（%）	45%	55%	0%	0%	100%
	動物看護教員①（4人）	回答数(人)	4	0	0	0	4
		割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
	動物看護教員②（3人）	回答数(人)	3	0	0	0	3
		割合	100%	0%	0%	0%	100%

	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか？		十分参加した	大体参加した	少し参加した	全くしない	
	専門学校2年生（29人）	回答数（人）	5	22	2	0	29
		割合（%）	17%	76%	7%	0%	100%
5	動物看護教員①（4人）	回答数(人)	3	1	0	0	4
		割合（%）	75%	25%	0%	0%	100%
	動物看護教員②（3人）	回答数(人)	2	1	0	0	3
		割合（%）	67%	33%	0%	0%	100%
	理解できないことは質問しましたか？		十分できた	大体できた	少しだけできた	全くできなかった	
	専門学校2年生（29人）	回答数（人）	2	3	22	2	29
		割合（%）	7%	10%	76%	7%	100%
6	動物看護教員①（4人）	回答数(人)	1	1	0	0	2
		割合（%）	50%	50%	0%	0%	100%
	動物看護教員②（3人）	回答数(人)	1	1	0	0	2
		割合（%）	50%	50%	0%	0%	100%
	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価して下さい		4	3	2	1	
	専門学校2年生（29人）	回答数（人）	1	20	7	1	29
		割合（%）	3%	69%	24%	3%	100%
7	動物看護教員①（4人）	回答数(人)	3	1	0	0	4
		割合（%）	75%	25%	0%	0%	100%
	動物看護教員②（3人）	回答数(人)	2	1	0	0	3
		割合（%）	67%	33%	0%	0%	100%
	教員は授業の準備は充分に出来ていましたか？		十分できていた	大体できていた	思わない	全く思わない	
	専門学校2年生（29人）	回答数（人）	9	19	1	0	29
		割合（%）	31%	66%	3%	0%	100%
8	動物看護教員①（4人）	回答数(人)	4	0	0	0	4
		割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
	動物看護教員②（3人）	回答数(人)	2	1	0	0	3
		割合（%）	67%	33%	0%	0%	100%
	教員の熱意を強く感じましたか？		強く感じた	大体感じた	感じられなかった	全く感じなかった	
	専門学校2年生（29人）	回答数（人）	12	15	2	0	29
		割合（%）	41%	52%	7%	0%	100%
9	動物看護教員①（4人）	回答数(人)	4	0	0	0	4
		割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
	動物看護教員②（3人）	回答数(人)	2	1	0	0	3
		割合（%）	67%	33%	0%	0%	100%
	プリントや資料は有効と感じましたか？		強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	
	専門学校2年生（29人）	回答数（人）	26	3	0	0	29
		割合（%）	90%	10%	0%	0%	100%
10	動物看護教員①（4人）	回答数(人)	4	0	0	0	4
		割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
	動物看護教員②（3人）	回答数(人)	3	0	0	0	3
		割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%

	教員は積極的に質問を促すようにしましたか？		大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	
	専門学校2年生（29人）	回答数（人）	1	20	7	1	29
		割合（%）	3%	69%	24%	3%	100%
11	動物看護教員①（4人）	回答数(人)	2	2	0	0	4
		割合（%）	50%	50%	0%	0%	100%
	動物看護教員②（3人）	回答数(人)	2	1	0	0	3
		割合（%）	67%	33%	0%	0%	100%
	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？		強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	
	専門学校2年生（29人）	回答数（人）	4	21	4	0	29
		割合（%）	14%	72%	14%	0%	100%
12	動物看護教員①（4人）	回答数(人)	3	1	0	0	4
		割合（%）	75%	25%	0%	0%	100%
	動物看護教員②（3人）	回答数(人)	3	0	0	0	3
		割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？		大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	
	専門学校2年生（29人）	回答数（人）	9	17	2	1	29
		割合（%）	31%	59%	7%	3%	100%
13	動物看護教員①（4人）	回答数(人)	4	0	0	0	4
		割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
	動物看護教員②（3人）	回答数(人)	3	0	0	0	3
		割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
	どのくらい理解できたと思いましたか？		全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	
	専門学校2年生（29人）	回答数（人）	6	18	4	1	29
		割合（%）	21%	62%	14%	3%	100%
14	動物看護教員①（4人）	回答数(人)	1	3	0	0	4
		割合（%）	25%	75%	0%	0%	100%
	動物看護教員②（3人）	回答数(人)	0	3	0	0	3
		割合（%）	0%	100%	0%	0%	100%
	系統的に整理されていると感じましたか？		強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	
	専門学校2年生（29人）	回答数（人）	5	15	10	0	30
		割合（%）	17%	50%	33%	0%	100%
15	動物看護教員①（4人）	回答数(人)	3	1	0	0	4
		割合（%）	75%	25%	0%	0%	100%
	動物看護教員②（3人）	回答数(人)	2	1	0	0	3
		割合（%）	67%	33%	0%	0%	100%
	あなたの将来に役立つと思いましたか？		強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	専門学校2年生（29人）	回答数（人）	28	1	0	0	29
		割合（%）	97%	3%	0%	0%	100%
16	動物看護教員①（4人）	回答数(人)	3	1	0	0	4
		割合（%）	75%	25%	0%	0%	100%
	動物看護教員②（3人）	回答数(人)	3	0	0	0	3
		割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%

	あなたの興味を満たしましたか？		十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	
	専門学校2年生（29人）	回答数（人）	25	4	0	0	29
		割合（%）	86%	14%	0%	0%	100%
17	動物看護教員①（4人）	回答数(人)	2	2	0	0	4
		割合（%）	50%	50%	0%	0%	100%
	動物看護教員②（3人）	回答数(人)	2	1	0	0	3
		割合（%）	67%	33%	0%	0%	100%
	関連学習をさらにしたいと思いますか？		強く思う	思う	思わない	全く思わない	
	専門学校2年生（29人）	回答数（人）	5	20	4	0	29
		割合（%）	17%	69%	14%	0%	100%
18	動物看護教員①（4人）	回答数(人)	3	1	0	0	4
		割合（%）	75%	25%	0%	0%	100%
	動物看護教員②（3人）	回答数(人)	2	1	0	0	3
		割合（%）	67%	33%	0%	0%	100%
	この授業の内容を4段階（4が最高評価）で評価してください		4	3	2	1	
	専門学校2年生（29人）	回答数（人）	6	22	1	0	29
		割合（%）	21%	76%	3%	0%	100%
19	動物看護教員①（4人）	回答数(人)	4	0	0	0	4
		割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%
	動物看護教員②（3人）	回答数(人)	3	0	0	0	3
		割合（%）	100%	0%	0%	0%	100%

＊この授業に関して自由にご意見を書いて下さい

・フィラリア予防について、理解していたつもりだったが、いざ人に伝えるとなると細かいことが理解しきれていないと知った。
・飼主さんに話す順番や使う言葉が難しかった。
・実際に飼主役と動物看護師役になって演習できたので、就職してから役立つと思った。
・飼主さんがする想定質問を考えるときに自分の家族に参考意見を聞いたみた。
・飼主役の人がうなずいたり復唱したりしてくれるとこちらの話が通じていると実感できた。
・動物看護師役の人が不安そうな表情だったり、そっけなかったりすると信頼感が薄れた。
・栄養指導のときにフードのパッケージを一緒に見ることで飼主さんによりうまく伝わると思った。
・人と話すことが苦手なので上手く言葉にできなかった。まずはコミュニケーション力を磨きたい。
・簡単なリーフレットを用いたら(混合ワクチンで防げる病気など)飼主さんの理解がより深まるし家族にも伝えてもらえる。
・事前にカルテの予防歴などに目を通しておくと保定の時に話題にできると思った。
・テーマは違ったが、同じような演習が続くので少し飽きたところがあった。
・テーマについて復習しなおすことがメインになって話す練習がほとんど出来ていなかった。

3.4. 目的達成度の評価についての考え方

（1）授業の目的を明示する

コマシラバスにて、授業の目的を明示する。

「臨床動物看護学」(学生・教員向け授業15時間用)

学科	動物看護学科
コース	動物看護学
年度	2013年度
学年	1年生＋2年生
期	
ユニット	
科目名	臨床動物看護学（学生向け・教員向け授業）
単位	
履修時間	15時間
回数	1回
必修・選択	
省庁分類	
授業形態	座学、演習
作成者	山下真理子
教科書	①疾患別 動物看護学ハンドブック ②今からはじめる 動物看護過程 ③動物看護者の倫理綱領 ④動物看護実践ハンドブック

シラバス（概要）

動物看護師は、獣医師の診断と治療方針のもとで患者動物の援助や飼い主家族を支援できる専門職として、重要な役割を果たすようになってきている。そのためには動物看護師としての観察、記録、コミュニケーション、援助技術と共に獣医学の種々の知識が必要であることは言うまでもない。人の言葉を話せなず、習性や生態もちがう患者動物の心理的な状態を予測すること、看護動物を取り巻く社会的な影響として環境や飼い主家族の特徴をとらえることは、家庭での看護援助を継続して貰うために非常に大切である。また、動物看護師が指導する内容をよく理解し、家庭で患者動物に対して実行して貰えることは、その動物が治ることができるために非常に重要なことである。ここで指導教育する動物看護師が家族に信頼してもらえなければ、その教育指導内容をも信頼実行してもらえないことにもなりかねない。そのためには、信頼して貰える動物看護師になることがまず必要となる。これには、第一印象を良くし、指導者として信頼できる知識とそれを伝えるコミュニケーション能力と技術を持つことが必要となる。また、患者動物の現在の状況を正しく分析することによって、今後予測される問題を検討し、どんな時にどのような看護を実施すべきなのかを判断しなければならない。(参照:「疾患別動物看護ハンドブック」)

評価方法

①1～10コマ、確認のための小試験（1～6コマでは、3コマ毎に1回×2回、症状別では2コマで1回×2回）、11～14コマは2コマごつ2回の小試験　②授業後のアンケート

コマシラバス

50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物看護学概論1	1.シラバスとの関係	臨床動物看護学の開始前に1年次の復習として動物看護	①疾患別 動物看護学ハンドブック ②今からはじめる 動物看護過程 ③動物看護者の倫理綱領 ④動物看護実践ハンドブック ⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	動物看護師とは何か？	
		3.コマ主題細目	動物看護概論の中の①動物看護とは？②動物看護の対象の理解③職業としての動物看護師 について考える	
		4.コマ主題細目深度	動物看護とは何か、動物看護過程とは何か、1年生で学習した動物看護学を見直し、復習する。写真を見て、どんな感情を持ったかを書留るところから各自が持つ動物への思いを確認する。それが 看護のイメージへとつながる。看護の歴史をナイチンゲールからひもとき、看護のこころと在り方、専門職としての動物看護師を知る。	
		5.次コマとの関係	動物看護過程の展開を知る	
2	動物看護学概論2	1.シラバスとの関係	臨床動物看護学の開始前に1年次の復習として動物看護について学び直す	①疾患別 動物看護学ハンドブック ②今からはじめる 動物看護過程 ③動物看護者の倫理綱領 ④動物看護実践ハンドブック ⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	動物看護師とは何か？	
		3.コマ主題細目	動物看護を実践するよで必要な観察技術について知る	
		4.コマ主題細目深度	動物看護とは、様々な情報を集積することにより看護過程を展開し、そこで得られた情報から今の問題を知ることによって展開できる。言葉を持たない動物の今と将来を想像する力が必要となる。動物への思いをバラバラに実行するのではなく、その思いをまとめて整理したものが動物看護過程であることの確認。	
		5.次コマとの関係	各自の持っている動物への思いやりが動物看護につながり、動物看護過程の展開につながる	

- シラバス（概要）
- 評価方法
- コマのテーマ
- シラバスとの関係
- コマ主題
- コマ主題細目
- コマ主題細目深度
- 次コマとの関係

上記のうち、特に「コマ主題細目」と「コマ主題細目深度」に、コマごとの具体的な目標（○○がわかるようになること、○○ができるようになること、など）を明記する。

コマごとに、評価することにより、学生の理解度・進捗度を確認することができる。受講者が、当該科目を受講して目的を達成できたかについては、明示した「評価方法」に沿って、評価を実施する。

（2）授業のポイントを具体的に示す

XXクラス 授業シート	教科名：「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」コアカリ検証授業 科目名：臨床動物看護学 第（ / 回） 2013年12月16日 今日の授業： 動物看護過程の概論１～６	X年X期 X

講師名： 山下眞理子

●シラバス
臨床動物看護学で症状別看護を学ぶ前に、１年生で習得している動物看護学の動物看護過程概論を６コマで復習として学ぶ。ここでは、動物看護過程とは何か、動物看護とは？動物看護の対象を理解し、かつ動物看護師の本来の仕事を再考する。動物看護のイメージを改めて自分の中で思い浮かべ、すべてのライフステージで動物が安楽に健やかに過ごせるように援助することが看護の基本であり、そのためには疾病についての知識、解剖生理学、症状を知ることが必要となる。これらの知識は、獣医療を理解し、看護の対象に理解をよせるために必要な知識となる。

●今日の授業		●キーポイント	
●	1．動物看護過程概論１		導入案内が5分ー自己紹介１０分＋講義３５分＋休憩10分
□1	□1：動物看護とは何か？ ① 動物看護の目的 ② 動物看護の対象 ③ 動物看護の方法・技術とは？	□1	動物看護の目的とは、すべての生活ステージにおける、その動物の一生を支えること。個々の動物の状況を理解し、個別性をふまえた看護を行うことであることを理解させることがKeyPoint。また、これを実践するためには「動物看護の視点」で考えることを理解してもらう。看護のイメージの基本は、奉仕する職業であるが、それだけではないことを理解させる。
●	2．動物看護過程概論２		講義５０分＋休憩10分
□2	□2：獣医師と動物看護師の仕事の違いは何か？ ① 獣医師の仕事は、診察・診断・手術・予後判定・獣医師は病気を診る。 ② 動物看護師にしかできないことは、動物の全体を看ること ③ ２０１１年３月の新聞記事に載った福島の犬の写真をスライドで見て、この犬に何をしてあげたいか、という気持ちを書いてみる。	□2	獣医師と動物看護師とでは動物を診る、看ることの違いがあるということを理解させることがKeyPoint。突然と佇む犬を見てそこで想う事こそが動物看護の心の基本と思う。その基盤となる目的と必要性にについて学びながら、動物看護師に必要とされるもの、求められているものを看護の基本理念を理解できるようにする。アビリティーモデル２００７を基本として推測できるようにする。
●	3．動物看護過程概論３		講義３０分＋確認テスト２０分＋休憩１０分
□3	□3：動物看護過程概論３ ① 動物の看護とは何か、を倫理綱領の中で知る ② 動物看護の基本とは？患者動物、家族にとってどうあるべきか？	□3	～動物看護の概念とは、あらゆる状態の動物を対象に実施される、ということを理解させることがKeyPoint。あらゆる健康レベルとは、健康な時、病気の時、回復の時、終末期の時を示す。健康とは何かを理解させ、また、その動物が動物らしく生きること、家族が豊かな人生を送る事を支えるものであることを理解してもらえるよ

授業シートにて、授業のポイントを具体的に示す。

授業シートに掲載する情報は、下記の通り。

- シラバス
- 今日の授業

  授業のテーマを３つ程度に絞り込み、提示する。
- キーポイント
- 参照資料
- 授業コメント
- 資格関連度

上記のうち、「今日の授業」には、授業のテーマを３つ程度に絞り込み、提示する。この時間に、何をわかればよいのか、何ができるようになればよいのか、などがわかるように記載する。

授業コメントには、授業の際に留意すべき点などをまとめる。授業を繰り返していく中で情報を蓄積し、ノウハウを蓄える。

（3）確認項目を定めておく

授業カルテにて、授業の理解度等を測定するための確認項目を示す。

授業の終わりの時間、または、前の時間の学習内容の振り返りとして授業の初めの時間に、小テストとして用いることを想定している。

「授業カルテ」　動物看護師コアカリ検証委員会

XXクラス カルテ　教科名：「成長分野等における中核的専門人材養成の戦ｲｰ分野の中核的専門人材養成プロジェクト　X年X期
科目名：臨床動物看護学
1回／4回　月　日

講師名：山下真理子　臨床動物看護学

科名：臨床動物看護学　クラス番号：　氏名：

問題1	動物看護の目的とは？
解答1	
問題2	動物の看護とは何か？
解答2	
問題3	動物看護の基本とは？
解答3	
問題4	動物看護の対象は何でしょう
解答4	
問題5	健康とは？
解答5	
問題6	人の看護婦（看護師）で、動物看護の規範となっている人二名の名前を教えてください
解答6	

（4）達成度を評価する

授業カルテによるコマ単位等での達成度評価や、学期末試験等による科目単位での達成度評価などを基礎データとして、予め設定した「評価方法」に基づいて、学生等受講者の目的達成度を評価する。

3.5. 目的に対するカリキュラムの評価

（1）カリキュラムの評価の考え方

カリキュラムの評価にあたっては、下記の情報を基にする。

・ 学生等受講者の目的達成度
・ 受講者アンケート結果
・ 他の講師による評価（レビュー）

（2）目的達成度の評価

今回、実証講座を実施する前に、すべての授業カルテを準備することができなかった。いくつかのコマでは、授業カルテを用いて受講者に学習成果の自己評価を行わせたが、受講カルテの回収ならびに成績管理までは到達できなかった。これは、授業カルテの内容まで分科会の中で検討することができず、授業カルテとして用いられるところまで精査できなかったことによる。

受講カルテを用いての評価については、今後の課題としたい。

（3）受講者アンケート結果の分析

ここでは、今回実施した実証講座「臨床動物看護学」及び「クライアントエジュケーション」の受講者アンケート結果について分析する。なお、アンケート結果の詳細については、前述の「3.3 受講者アンケート結果」を参照のこと。

① 臨床動物看護学について

「授業開始前に配布したシラバスについて、シラバスの内容が理解できたか」との質問に対しては、ほとんどの方が「充分理解できた」あるいは「大体理解できた」と答えている。また、「少し理解できなかった」と答えた方のほとんどが、その理由について「自分の基礎的な学力が不足していた」と回答していた。よって、シラバスの記述については、一定程度、わかりやすいものであったと判断する。

「シラバスの内容が身についたと思うか」との質問に対しては、「大体身についた」とする回答が９割であった。「授業はシラバスに沿っていたか」との質問に対して、全員が「十分沿っていた」または「大体沿っていた」と回答しており、「シラバスは授業を理解するために役立ったと思うか」との質問に対しても、「十分思う」または「大体思う」との回答で９割を超えている。特に、この「シラバスは授業を理解す

るために役立ったと思うか」との質問については、専門学校１年生では「大体思う」が最多回答となったのに対し、専門学校２年生及び社会人では「十分思う」が最多回答となっており、経験度の高い者ほど、「シラバスが授業を理解するために役立った」と感じていることがわかった。こうした点を踏まえ、シラバスに沿った授業を提供できていたと評価する。

続いての質問となる「授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか」、「理解できないことは質問しましたか」、「授業に出席した自身の姿勢を４段階（４が最高評価）で評価してください」の３つは、受講者の取り組み姿勢についての評価となる。「自身の姿勢」については「３」が最多回答であるので、本人の意識としては「よくやっている」と捉えていると考えられる。一方で、理解できないことについての質問が「全くできなかった」とする回答が多かったことは、「質問しやすい雰囲気」の醸成が不十分であったことを示唆している。この回答の理由については、内気で消極的であるなど、受講者のパーソナリティに起因するところも推察されるが、留意すべき点であろう。

次の「教員は授業の準備が充分にできていたか」から「教員の声・言葉は聞き取りやすかったか」までの６問は、受講者による講師評価ということになる。これらはいずれも良好であった。

「どのくらい理解できたと思うか」の質問に対して、「ほとんどできた」が最多回答であった。「自身の姿勢」について「３」が最多回答であったことと共通しており、興味深い。「系統的に整理されていると感じたか」との質問に対する回答が、「強く感じた」と「感じた」とで半々であったことにも、理解度を１００％とできなかったこととの共通性が見てとれる。

「あなたの将来に役立つと思ったか」との質問に対しては、「強く思う」が最多回答であったにもかかわらず、「あなたの興味を満たしたか」や「関連学習をさらにしたいと思うか」との質問に対しては「強く思う」が最多回答とはならなかった。（最多回答は「思う」。）

受講者による授業の内容の評価は、４段階（４が最高評価）で「４」が最多回答であり、受講者の満足度が高かったと判断できる。

② クライアントエジュケーションについて

「授業開始前に配布したシラバスについて、シラバスの内容が理解できたか」との質問に対しては、ほとんどの方が「充分理解できた」あるいは「大体理解できた」と答えている。よって、シラバスの記述については、わかりやすいものであったと判断する。

「シラバスの内容が身についたと思うか」との質問に対しては、「大体身についた」

が最多回答であった。「授業はシラバスに沿っていたか」との質問に対して、ほとんどの方が「十分沿っていた」または「大体沿っていた」と回答しており、「シラバスは授業を理解するために役立ったと思うか」との質問に対しても、「十分思う」または「大体思う」との回答で１００％となっている。また、この「シラバスは授業を理解するために役立ったと思うか」との質問については、専門学校生では「大体思う」が最多回答となったのに対し、動物看護教員は「十分思う」が最多回答となっていた。これらの点を踏まえ、シラバスに沿った授業を提供できていたと評価する。

続いての質問となる「授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか」、「理解できないことは質問しましたか」、「授業に出席した自身の姿勢を４段階（４が最高評価）で評価してください」の３つは、受講者の取り組み姿勢についての評価となる。学生の場合、「自身の姿勢」については「３」が最多回答であるので、本人の意識としては「よくやっている」と捉えていると考えられる。「理解できないことは質問したか」との質問には「少しだけできた」とする回答が多かった。

次の「教員は授業の準備が充分にできていたか」から「教員の声・言葉は聞き取りやすかったか」までの６問は、受講者による講師評価ということになる。これらはいずれも良好であった。

「どのくらい理解できたと思うか」の質問に対して、「ほとんどできた」が最多回答であった。学生の場合、「系統的に整理されていると感じたか」との質問に対する回答が、「感じた」、「感じなかった」の順で高く、カリキュラムの整理に課題があると推察する。

「あなたの将来に役立つと思ったか」との質問に対しては、「強く思う」が最多回答であり、「あなたの興味を満たしたか」についても同様に「強く思う」が最多回答となっていた。しかし、「関連学習をさらにしたいと思うか」との質問に対しては、学生は「強く思う」ではなく「思う」が最多回答となっている。

受講者による授業の内容の評価は、学生の場合には４段階（４が最高評価）で「３」が最多回答、動物看護教員の場合には「４」が最多回答であり、受講者の満足度が高かったと判断できる。

（４）他の講師による評価（レビュー）

① 臨床動物看護学について

【動物看護課程概論 1】

- 「この部分をしっかり覚えておくように！」という具体的な指示があってもよいと思う。
- 画像が非常に印象に残るものを使用していて素晴らしい。

・　資料の説明・解説が実施者ならではの視点で、非常に興味深い授業となっているが他の教員ではこうはいかないでしょう。そこが課題と感じた。
・　看護とは、動物看護師とは、という基本的な考えを改めて学生に教えてもらい、日々の授業で忘れていた看護の本来の意味を思い出したのではないか。
・　常に授業の中で、“これをするのはあなた達”“この子のためにすること、考えることがあなた達の役目”という意識づけをしていたのが印象的。
・　講師個人の理解がうまく導入されている。
・　出問の際の状況説明が必要ではないか。
・　言葉がやや難しいのでは。動物看護におけるヒトの看護の説明、等

【動物看護課程概論 2】
・　動物看護師のあるべき姿が分かり易く伝わったと思う。
・　「動物看護課程」という言葉が理解しにくいので、うまく理解させる必要がある。
・　「看護課程」の図を前に一度出して見せる方がよいのでは？
・　主題細目「動物看護師に必要なものは何か」が、「看護課程」につながるというところが、ややわかりにくい。
・　授業開始前に当該コマで講義の全体を説明する必要あり。時々説明が難しい個所があるが、授業内容は適切。
・　看護対象が、動物と「飼い主」としている点が気になった。飼い主は看護対象ではないと思う。

【動物看護課程概論 3】
・　看護の視点、役割、必要とされているもの、求められているもの、看護課程、特にライフステージを強調されていた。
・　動物看護師の立場でどのように対処動物を看るか。飼い主に対しての視点でどのように接するか。いかに情報をひきだすために円滑にコミュニケーションをつくるためには。
・　重要であると思われる部分については学生に復唱させる。或いは指示を出して学生の能動的活動を行わせるとより効果的になるように感じる。
・　資料は大変すばらしいものです。
・　コマシラバスと「授業シート」がそろってない部分がある。
・　「過程」と「倫理綱領」の関連が不明確。というか「過程」について知識を固定する方がよいのでは。
・　過程の回転を毎回示し、どこを今教えているか示したらどうか。

・　アセスメントのための「SOAP」を多くした方がよい。
・　限られた時間だが、学生からより多くの出問が得られればと思う。
・　「過程」を確実に行うための「SOAP]をもう少し講義した方がよいのではないか。
・　「過程」で重要なアセスメント、SOAP、診断、計画、評価、を評価した方がよい。

【動物看護課程概論 4】
・　事例が適切かつ理解しやすい為イメージが湧き易い。倫理綱領は、学生に復唱させると良いと思った。
・　学生のモチベーションを喚起する授業であったと思う。
・　「SOAP モデル」と「アビリティーモデル」の関係性をより明確に。「アセスメント」→「看護診断」が獣医師の診断となっているようだ。
・　「看護技術の要素」が主題であるが、授業内容、「過程」、アセスメント、アビリティーモデル、綱領の関連がわかりにくい。
・　確認テストの実施は有効な手法。終了時には説明が必要ではないか。
・　肥満細胞腫を例に具体的に講義を進めたことは評価できる。

【動物看護課程概論 5】
・　「観察する」の部分は概論 3 で持ってきてもよいのでは？（それだけ素晴らしい説得力のある授業だった）
・　肥満細胞腫の事例を基に SOAP モデル、アビリティーモデルを構築、これは時間を取って学生に演習させるとよいのでは。（そうすると 2 時間ぐらい必要となるが・・・）
・　実施者ならではの授業であった。経験の乏しい教員が担当するとなると、ここまでは難しいと思う。
・　今後の課題として、（教員が）このレベルまで達する為に、どの様な研修が必要か整理する必要があると思う。
・　「コミュニケーション」は別に科目があるのでは？
・　「コミュニケーション」という授業なら良いかと思う。
・　実例を有効に利用した講義は高く評価される。
・　講義開始時に当該講義全体を説明すること、学生に出問を促すこと、時間配分などを考慮されたい。

【動物看護課程概論 6】

・　スライドの文字が小さいものがある。
・　シラバスに「エンパワード」のワードを入れたほうがよい。
・　一部のスライド（クライアントが求める 8 項目）の改善が求められる（学生が読みやすく、理解させるため、2 枚に分けるなど）
・　事例の判断に難しさも見られるが、学生が興味を持って対応していた。
・　「飼主教育」も別の科目としてあるとおもう。

【症例別の動物看護①②「痛み」】

・　2 限目（概論）で学生の集中力が途切れている時間帯があった。
・　3 限目（事例）で事例が豊富であったためか、集中して聞いている。
・　画像の横のコメント欄で、文字が黒なので白抜きだと明瞭になると思う。
・　理論・概論と事例症例で集中力がはっきりと分かれたようである。学生が苦手としている部分だからか。
・　疼痛緩和の方法としてリハビリの紹介があったのがとても興味深かった。痛みを抱えている動物の看護について学生が考え、発表できる場があると良かったと思う。
・　動物達の痛み、動物看護師は、知っておかなければいけないことが多いが、やはり観察力の大事さが伝わってきた。
・　症例使用はよいが、急性扁対応をしっかり示した方がよいのでは
・　スライドの文字が小さいものがある。
・　学生の反応、発言を参考に学生をまき込んだ授業が展開され、「伝える」から「考える」授業となった。
・　確認テスト終了後に解答を説明する改善が見られた。

【症例別の動物看護③④「かゆみ」】

・　アセスメント-診断-計画-実行-評価　と常に考えられるよう、指導を継続する必要性があると感じた。全ての科目の関連付けの必要性。
・　臨床経験が重要であり、未経験の教員には現場での実習、二次診療所での高度医療実習などが必要。
・　全ての教員が条件を満たす訳ではないので、地方ごとに中核となれるような教育施設を設置するなど、検討の必要あり。
・　疾患例では臨床経験によって学生に提供できる症例が決まってくるので、実施者のようなキャリアを持った人がたくさんいればよいのだが・・・
・　並みの獣医師では看護学の論点からずれてしまうと思うので、養成の必要あ

り。

- 様々な皮膚疾患の症例の写真があり、イメージすることはできたが、皮膚疾患の原因（アレルギー性、外部寄生虫、細菌感染など）ごとによる、看護のポイントがあると良かったと思う。
- 実際の皮膚疾患の写真などを沢山しようしており、とても分かりやすかった。臨床看護学、看護計画の話が一貫して出されており、勉強になった。
- かゆみについてもメカニズムをいれてみたらどうか
- 「かゆみ」についてのセッションなので、「かゆみ」というワードで質問を増やしては？「皮膚疾患」というワードが主になっている。
- 症例のスライドが多く、受講生に興味を持たせて良い。スライド記述が不鮮明な個所は、プリント配布をして、情報を補足する配慮が必要。
- かゆみについて 2 時間は長いか。皮膚疾患対応を入れるか。

【症例別の動物看護「嘔吐」⑤⑥】

- 嘔吐がある場合の一般的または分類により、どのような看護を一度示す。
- ロールプレーするにも一般的又は想定される病気の看護法が分からないと、ロールプレーしにくいのでは。
- ロールプレーは良い。
- 「ホリスティックケア」というワードは心配。
- アセスメントの SOAP モデルを用いた学習で、受講生を飼い主と動物看護師の立場でのグループ検討およびその結果に基づく看護診断は考える力を発揮させるうえで、評価できる。
- ロールプレーはよいが、学生の場合、基礎教育又は事前に渡し、予習や図書館に行かせ、準備させるかまたは飼い主データを渡し、次週か次回に作らせるのは良いかも。

② クライアントエジュケーションについて

【教員向けクライアントエジュケーション①②】

- 「クライアントエジュケーション」としては適切であったが、「動物看護学」の中で重要な部分であることの位置づけを工夫した方がよい。
- カタカナは源吾（英語）を示すべきである。
- スライドの文字が小さい。
- 「シラバス」にもメリハリが欲しい。「授業」ではメリハリがあった。
- 「授業」内容を正しく理解したかを確認する工夫が欲しい。現在のものでは難易度が高い。

- 採点できるようにしてほしい。
- 具体的な評価方法を知りたい。
- 授業の目的及び進め方はコマシラバス、授業シート等の説明は適切であった。
- 授業に用いた動物の苦痛や悩みの実例、病院の管理運用の実例を用いると受講生の興味が一層高まると思われる。
- 具体的な事例をあげて「コンプライアンス」などを説明する工夫があるとよい。
- ②の分量が多い。①に少し移動した方がよいと思う。
- 参考資料は有用だが、パワーポイントでどこにあたるか、もう少し分かり易くすると良いかも。
- 学生同士の話し合いは少なかったが、学生が飼い主役、看護師役などの模擬問答などがあれば、より充実すると思う。
- 「グループワーク」など授業中の具体的な作業は、シラバスにも記載する。
- シラバスに「確認テスト」の項目を入れると良い。
- 用語解説という広範で視点が絞り込みにくい授業であるが、説明にストーリー性をもたせ、より連携のある解説の取り組みを活用する。
- クライアントサービス 8 項目を中心に、詳細に解説されては。
- 授業内容の項目について、一部他の科目との調整が必要と思われる。

【教員向けクライアントエジュケーション③④】

- 事例の情報の示し方→SOAP にまとめてみる→を入れてみては？
- 事例の中にコマシラバスに書かれた項目（4）の項目を入れるとよいのでは。
- 受講生のグループ研津は課題や事例を理解する上で有効な学習方法である。
- クライアントエジュケーション、動物看護学及び臨床動物看護学の相互とそれぞれのキーワードや項目を再調整する必要があるのではないか。
- 問題と解説が異なるものがある。⑩は講義でやっていないような？
- 非常に難しいテーマにも関わらず取りまとめて頂きました。
- 今回テーマに上げた「クライアントエジュケーション」は、コアカリの中での「動物看護学」や「臨床動物看護学」の相互関連、更にキーワードと項目の再調整する必要があるのではないでしょうか。

（５）カリキュラムの評価

今回は、目的達成度の評価を考慮せず、受講者アンケートの結果及び他の講師による評価から、カリキュラムの評価を行う。

なお、カリキュラムの評価は、動物看護師コアカリキュラム検証分科会にて実施するものとする。

① 臨床動物看護学について

シラバスの記述については、一定程度、わかりやすいものであったと判断した。

シラバスに沿った授業を提供できていたと評価した。

「質問しやすい雰囲気」の醸成が不十分であった可能性を指摘した。

受講者による講師評価は、いずれも良好であった。

受講者による授業の内容の評価は、４段階（４が最高評価）で「４」が最多回答であり、受講者の満足度が高かったと判断した。

他の講師からの評価も良好であり、かつ、さらなる質の向上を図るための積極的な提案や助言も多く寄せられていた。

以上のことから、当該カリキュラムならびに実証講座は、目的を達成するのに十分な内容となっていたと評価する。

② クライアントエジュケーションについて

シラバスの記述については、わかりやすいものであったと判断した。

シラバスに沿った授業を提供できていたと評価した。

受講者による講師評価は、いずれも良好であった。

カリキュラムの（系統的な）整理に課題があると推察した。

受講者による授業の内容の評価は、学生の場合には４段階（４が最高評価）で「３」が最多回答、動物看護教員の場合には「４」が最多回答であり、受講者の満足度が高かったと判断した。

他の講師からの評価も良好であり、かつ、さらなる質の向上を図るための積極的な提案や助言も多く寄せられていた。

以上のことから、当該カリキュラムならびに実証講座は、改善すべき課題を抱えてはいるものの、目的を達成するのに十分な内容となっていたと評価する。